
空母大和 2 0 1 0 ～暴走反日国家を殲滅せよ～

0 0 7

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空母大和2010～暴走反日国家を殲滅せよ～

【Nコード】

N9129G

【作者名】

007

【あらすじ】

2009年4月5日北朝鮮の人工衛星名目での、テポドン2発射。日本政府は『イージス原子力装甲空母大和建造計画』を再び始動させた。メタンハイドレート採掘を開始し、財源に余裕が出来た事で着実に自衛隊の装備を充実させていく。そのような中で、朝鮮統一国家と中国・台湾統一国家が誕生。日本は危機に立たされる。そして遂に、中国の核ミサイルが沖縄那覇に発射され、沖縄は壊滅。3度目の核攻撃を受けた事により、事態は急変。憲法第9条と非核三原則は国民投票により破棄され、日本は再軍備と核武装を宣言した。

対中対高麗大同盟も締結され、遂に9月15日に亜細亜大戦が勃発。
日本は再び、安全保障の為の戦争を始めたのだ。

プロローグ（前書き）

この小説に登場する国家・人物・団体・組織は実在する国家・人物・団体・組織とは無関係である事を明記します。

ブローグ

2009年4月5日11時30分

米軍の早期警戒衛星が北朝鮮の舞水端里の基地からミサイルを発射したことを探知。

米軍の情報は日本政府に知らされ、日本政府はエムネットで公表した。

11時32分。

政府が、首相官邸の官邸連絡室を官邸対策室に格上げ。

11時35分。

1段目のブースターが2分後に日本海に落下するとの予想を防衛省が発表。

11時36分。

麻生首相が首相官邸入り、

「安全の確認と情報収集、迅速な情報提供を指示した。」と語る。

海上保安庁の巡視船『えちご』が被害確認のため出動。

11時38分。

ミサイルが、東北地方の上空を太平洋へ11時37分に通過と防衛省が発表。

2段目のブースターは日本の東約1270キロの太平洋に落下と予想。

11時45分。

海上保安庁の航空機『うみわし』が落下物や被害確認のため出発。

11時52分。

防衛省、2段目のブースターの推定落下地点について未確認として取り消し。ミサイルの追尾を日本の東2100キロで打ち切り。

11時53分。

高須国連大使が、国連安全保障理事会の緊急会合開催を要請。

12時。

河村官房長官が記者会見。

12時15分。

防衛省が、秋田沖の危険海域で海面の変色を発見。

12時30分。

麻生首相・河村官房長官・中曽根外相・浜田防衛相が、首相官邸危機管理センターで情報集約会議。

13時。

河村官房長官が再び記者会見。

14時06分。

首相官邸で安全保障会議。

麻生首相

「浜田防衛相、あの計画を始めるぞ。」

浜田防衛相

「遂にですか、首相。」

河村官房長官

「首相。」

麻生首相

「うむ、国民を守るのが国家の使命だ。浜田防衛相、報告書をまとめておいてくれ。」

浜田防衛相

「分かりました。」

麻生首相

「来月の5月10日に閣議で議論しよう。」

浜田防衛相

「わかりました。それまでにまとめておきます。」

河村官房長官

「頼んだぞ。」

計画は始まっていた。

建造計画（前書き）

冷静に考えると、連載が4つ目になりました。
こりゃ、大変だ。

建造計画

2009年5月10日

首相官邸にて閣議が召集された。

先月の麻生首相の命令で、浜田防衛相は報告書を作成した。

その報告書が出来たので、今日の閣議となった。

閣議には麻生内閣の舩添厚労相以外の閣僚が出席した。

舩添厚労相は昨日の国内初の新型インフルエンザ感染を受け、対応に追われている。

「それでは、閣議を始めたいと思います。」

麻生首相の話から閣議が始まった。

麻生首相

「浜田防衛相、説明してくれたまえ。」

浜田防衛相

「分かりました。皆さん、手元の書類を見てください。今回の計画は『空母大和建造計画』です。」

浜田防衛相の言葉に殆どの閣僚の顔が青くなる。

鳩山総務相

「総理、これを建造するんですか？」

麻生総理

「勿論だ。国民を守るためには必要だろう。将来必ず起こり得るであろう極東有事に向けて、建造するのだ。」

与謝野財務・金融・経済相

「しかし総理、これだけの空母を建造する為の予算はどうするんですか？」

石破農水相

「これだけの規模ですと、1兆は超えますよ。」

麻生総理

「分かっている。予算はある事をして確保する。」

河村官房長官

「ある事ですか？」

麻生総理

「ODAの全廃止及び2009年度補正予算に紛れこめますのだ。」

中曽根外務相

「ODAの全廃止ですか!？」

麻生総理

「そうだ。」

中曽根外務相

「しかし、それを行えば諸外国との関係が……………」

麻生総理

「中曽根さん、俺は前から思っていたのだがODAは最悪だと思う。」

中曽根外務相

「……………」

麻生総理

「国民が国家の為に血税を払ってくれているのに自国民の為になく、外国の見ず知らずの人間の為に使っているのだぞ。そりゃ国民も友好関係が築けるのなら良いと思っっているかもしれないが、本当は腹がたっているだろう。しかも今は世界的大不況だ。尚更、国民の為に使わなければいけないだろう。国民から貰った血税は国民の為に使うべきだ。」

中曽根外務相

「確かにそうですね。分かりました、金がなくても友好関係を築いてみます。」

麻生総理

「ありがとう。」

与謝野財務・金融・経済相

「総理、補正予算に紛れこまずとはどついつ事ですか？」

麻生総理

「3日後に衆議院で審議がある。その時の2009年度補正予算に提出するのは1兆3930億円にも昇る。この中の3兆9300億円を空母大和建造計画予算とするのだ。」

浜田防衛相

「ですが総理、衆議院通過としても参議院でのゴタゴタとかを考えると6月12日の成立になりますよ。」

麻生総理

「大丈夫だ。金は後から出れば良いのだ最悪、内閣閣僚の個人資産を全て建造費に回すことも考えいる。そうなれば協力してほしい。」

与謝野財務・金融・経済相

「分かりました。国家の為なら個人資産も出します。補正予算への紛れやODAの廃止は私が上手くやりましょう。」

麻生総理

「ありがとうございます。」

石破農水相

「しかし、空母大和建造と言っても空母建造には数々の基礎技術力が必要です。フランス海軍はシャルルドゴールを完成させるのに20年かかりました。今日、簡単に空母建造を決めても数々の難所があると思いますがどうでしょうか?」

浜田防衛相

「それには私がお答えします。」

浜田防衛相は書類を捲りながら、説明を始めた。

浜田防衛相

「まず、基礎技術力ですが。我が防衛省及び海上自衛隊は1960年代から空母建造に関わる研究を行っていました。」

中曽根外務相

「1960年代からですか！？よく周辺諸国にバレませんでしたね。」

「

浜田防衛相

「研究はトップシークレットでしたから。」

石破農水相

「基礎技術力は研究していても建造は可能なのか？」

浜田防衛相

「勿論。当時の防衛庁及び軍事産業は技術者をアメリカへ派遣、建造に携わっています。」

石破農水相

「偽造した、アメリカ国籍を持つてか？」

浜田防衛相

「そうです。」

鳩山総務相

「基礎技術力・技術者は分かった。人員はどうするのだ？」

浜田防衛相

「計画では空母大和は乗員2500名、司令部要員50名、航空団

要因1550名の合計4100名となります。」

石破農水相

「4100名！？1個護衛隊群、いや2個護衛隊群の人員がいるではないか。」

浜田防衛相

「ご心配なく。それも。」

鳩山総務相

「それもアメリカ海軍の空母乗員として派遣しているのか？」

浜田防衛相

「そうです。空母乗員の派遣は1980年代からですが乗員、司令部要員、航空団要因の人員は全て帰国させれば集まります。」

中曽根外務相

「これこそ凄い。4100名を偽造国籍で派遣し、空母運用のノウハウを学ばせるとは。彼らは凄いな。」

浜田防衛相

「彼らではなく、彼女らです。」

鳩山総務相

「彼女ら？」

浜田防衛相

「はい。4100名は全て女性です。」

石破農水相

「何と、乗員が全て女性とは。」

浜田防衛相

「そうです。これで分かったと思いますが、日本は空母運用のノウハウや技術力は持っています。」

金子国交相

「艦載機はどうなのだ。」

浜田防衛相

「よくぞ聞いて下さいました。艦載機は殆どが国産機です。」

石破農水相

「国産機？今研究中の心神とは違うのか？」

浜田防衛相

「根本的に違います。しかも心神は諸外国を欺く為のカモフラージュです。」

鳩山総務相

「カモフラージュ？」

麻生総理

「これは私が説明しよう。」

浜田防衛相

「分かりました。」

麻生総理

「私も浜田防衛相から聞いた時は驚いたよ。心神がカモフラージュ

だったとはね。実は国産機は全て開発が終了し、生産ラインも作っている。後は政府が発注すればいいだけだ。」

石破農水相

「国産機は戦闘機ですか？」

麻生総理

「国産戦闘攻撃機F-3烈風と国産戦闘攻撃機F/A-3震電、国産電子戦攻撃機F-3ER陣風だ。」

鳩山総務相

「おお、こりゃ凄い。」

麻生総理

「空母大和はこの3機種とアメリカから購入するE-2CホークアイとC-2Aグレイハウンド・UH-60ブラックホーク・SH-60Kシーホークを搭載する。」

金子国交相

「艦載機も用意周到と言う訳か。」

浜田防衛相

「これで分かると思いますが、空母建造にあたる技術力がありますし、乗員も帰国させれば集まります。艦載機も生産ラインがあり、何時でも生産出来ます。」

中曽根外務相

「ちよっと、待ってください。この空母大和は原子力空母となりますね。原子炉はどうなんですか？」

浜田防衛相

「原子炉も大丈夫です。『原子力船むつ』は知ってますね。」

中曽根外務相

「勿論です。」

浜田防衛相

「あれは、事故で計画中止となりましたが中止にはなっていないかったです。」

中曽根外務相

「なんと。」

浜田防衛相

「日本はアメリカにも極秘で、『むつ2』『むつ3』を建造している原子力機関の発展に努めました。今回の原子力空母大和にはその最新の原子炉が搭載される予定です。」

中曽根外務相

「ふむ、分かりました。」

浜田防衛相

「原子力空母大和。これは魅力ある兵器です。」

麻生総理

「それと、もう一つ。ひゅうが級の甲板をハリアーのジェット噴射熱に耐えられるように改造する予定だ。これによりアメリカのニミッツ級に準ずる大きさの原子力空母大和とVSTOL空母ひゅうが級が手に入る。こうなれば国防は万全だ。」

河村官房長官

「では、計画は始動ですか。」

麻生総理

「うむ。そうだ、最後に取る必要もないだろうが多数決を取る。原子力空母大和建造に賛成なら手を挙げてくれ。」

麻生総理の言葉に閣僚全員が手を挙げる。

麻生総理

「ありがとう。では原子力空母大和建造は決定だ。浜田防衛相、三菱重工業に連絡だ。『建造を再開してくれと。』。」

浜田防衛相

「分かりました。」

浜田防衛相はそう言うと、閣議室から出ていった。

河村官房長官

「建造を再開？」

麻生総理

「空母建造には7、8年かかる。原子力空母大和は肝心な所以外は建造が終わっている。あと1年で全ての建造が終わる。」

鳩山総務相

「なんと。」

麻生総理

「ハハハ、みんなが賛成してくれて良かった。あそこまで出来てい

て中止にするわけにはいかんからな。」

原子力空母大和建造が決まった。

時の流れに身をまかせ（前書き）

突っ込む所が多々あると思いますが、ご了承ください。

時の流れに身をまかせ

2009年5月11日

閣議の翌日、永田町に激震が走った。

民主党の小沢一郎代表が辞任を表明した。

理由は来る総選挙に向けて、政権交代を実現するためとの事だ。

これは麻生総理にとってはチャンスであった。

民主党のゴタゴタの内に再び、支持率を上げる機会だ。

5月12日

日露首脳会談が開かれ、麻生総理とプーチン首相は北方領土問題の解決に向け同意した。

これにより、北方領土問題解決に1歩近づいた言えばそうだが、解決するのは難しいだろう。

この日、クラスタ条約も承認された。

しかし、この条約は発効から8年以内にクラスタ爆弾を破棄しろ

と言う内容だ。

麻生総理は8年以内なら来る、極東有事では使用出来るという見解を出した。

5月13日

2009年度補正予算が衆議院を通過。

しかし参議院ではゴタゴタがおこり、再び衆議院に戻ってくるだろうから。

6月12日に自然成立する構えだ。

5月16日

民主党の新代表に鳩山由紀夫氏が就任。

この日、神戸で人から人への新型インフルエンザ感染が確認された。

5月18日

麻生総理は緊急の記者会見を開いた。

内容は日本海に眠る、メタンハイドレート採掘開始の宣言であった。

「記者諸君、緊急の記者会見なのに集まってもらいありがとうございます。」

麻生総理は記者に語りかけるように、記者会見を始めた。

「日本海にはメタンハイドレートという水圧のため、圧縮されてシヤーベット化しているメタンガスの層がある。こいつを効率よく取り出せばエネルギー事情は一変する。」

記者達は驚いている。

「メタンハイドレートを１気圧の中へ戻すと、個体のときの１６０倍のメタンガスに姿を変える。問題はいかに、徐々に気体へとかわるように制御するかにあった。しかし、三菱重工業と川崎重工業はその技術を確立した。特許も取得済みだ。記者諸君は既に日本海に突如、出現した人工の浮き島を知っているだろう。」

記者達は一様に頷く。

「巨大な垂直ドリルを装備した人工の浮き島は、採掘準備を既に完了している。先程言ったが、私はメタンハイドレート採掘開始を命令した。明日からにはメタンハイドレートは採掘され日本はエネルギー輸入国から輸出国へと変貌する。財政も安定し、赤字国債も全部償還出来る。未着工の高速道路も全て工事に取り掛かれるし、料金も無料に出来る。１０００円高速などもう古い。無料高速だ。し

かも高速道路だけではない。医療費の無力化や年金額の上乗せも可能だ。教育料も無料になる。消費税も廃止されるだろう。ここにメタンハイドレート採掘開始を宣言する。」

記者会見場は拍手の嵐に包まれた。

各新聞は号外を出した。

『麻生総理、メタンハイドレート採掘開始を宣言。』

『エネルギー輸入国からエネルギー輸出国へ。日本の明るい未来。』

『赤字大国から黒字大国へ。』

各新聞の号外の見出しは、このような見出しだった。

6月15日

2009年度補正予算が自然成立から3日経ったこの日、麻生総理は遂に衆議院解散を宣言。

総選挙となった。

民主党のバツとしない政策や、メタンハイドレートを採掘し始めたおかげで国民負担が減り麻生内閣の支持率が68%に上昇した事が、解散させる要因となっただろう。

6月20日

総選挙の結果、自民党は小泉元総理の郵政選挙以来の大勝利を成し遂げた。

麻生総理の解散により、遂に『ねじれ国会』という状況は解消された。

民主党は政権交代を掲げたが、自民党に大差をつけられ大敗した。

7月1日

ねじれ国会が解消したおかげで、この日遂に『海賊新法』が成立した。

これにより、海上自衛隊は先制実力行使が出来る事になった。

7月3日

麻生総理はJAXAに偵察衛星の追加打ち上げを要請。

新たに5基の打ち上げが決まった。

麻生総理はそれとは別に、H-2Aロケットを50基発注。

理由は不明だが、何かあるのだろう。

7月15日

WHOは『新型インフルエンザの流行は終息した』と発表。

事実、先月の末から感染者は増えず、感染者は完治していった。

発生源となった、メキシコも感染者や死者は出ていない。

人類は新型インフルエンザの戦いに、一応の勝利を収めた。

2009年11月10日

原子力空母大和完成が半年後と迫った。

この日の日本も平和だった。

委員会審議

2009年11月10日

原子力空母大和完成まで、半年となった。

政治の状況は、特別国会の真つ最中だ。

総選挙での、自民党大勝利から5ヶ月。

国会はすつきりした。

麻生総理は総選挙後から、参議院の廃止を行ってきた。

月に50人を退職させていき、先月には参議院は廃止された。

総選挙のマニフェストでもあった。

そのため、ねじれ国会は解消されたと言う事だ。

そもそも、衆議院を優越させるのなら参議院はいらないではないか。

特別国会も、海賊新法を成立させたが新たな問題が発生していた。

麻生総理が提出した『ひゅうが級DDH、VSTOL空母改造案』

である。

現在、国会の委員会室にて衆議院外交防衛委員会が開かれている。

NHKの生中継だ。

「民主党の前原です。麻生総理の法案は明らかに憲法違反です。日本国憲法第2章戦争の放棄第9条戦争の放棄・軍備及び交戦権の否認を無視した法案は、独裁政治と言える行為です。麻生総理はどうお考えか。」

鋭い質問だ。

しかし麻生総理は余裕の笑顔だ。

「麻生太郎君。」

麻生総理が挙手したため、委員長が指名する。

「前原さん、あなたの質問はおかしい。私は独裁政治を行うつもりは毛頭ありません。それに有事の際にあなたは国民の生命財産を守らずに、憲法第9条を守るのですか？」

麻生総理の反論に、前原議員も驚く。

しかし、すかさず切り返した。

「麻生総理の質問は愚問です。有事の際は有事ですよ。私は憲法に違反していると言ってるんですよ。」

拳手をして指名すると言う流れは割愛します。

麻生総理

「何処が違反してるんですか。自衛の為の必要最小限度なら保有してもいいのではないですか。憲法第9条第2項が保有を禁止している『戦力』は先程言った、必要最小限度を超えるものだ。専守防衛に徹し、自衛の為の必要最小限度の実力組織である自衛隊は、憲法の認めるものと私は判断する。」

前原議員

「総理、先程自衛の為の必要最小限度の実力組織と言いましたね。」

麻生総理

「言いましたよ。」

前原議員

「自衛の為の、専守防衛に徹する自衛隊になぜ空母が必要なんですか。空母は侵略兵器じゃないのですか。」

麻生総理

「空母は侵略兵器。あなたは面白い事言いますね。空母を保有すれば日本がすぐ他国を侵略するんですか？何処の国を？何の理由で侵略するんですか？」

前原議員

「……………ともかく、軍国主義の復活は防がねばなりません。」

麻生総理

「軍国主義？なぜ空母を保有すれば軍国主義になるんです。おかしいでしょう。」

前原議員

「くっ、もう良いです。私の質問は終わります。」

前原議員は自分の席へと戻っていった。

「本日の審議は以上とします。」

委員長の閉会宣言により、衆議院外交防衛委員会は終了した。

今日の審議も麻生総理の勝ちであった。

閣僚は全員、委員会室の隣にある控室に入った。

楕円の大きなテーブルに閣僚全員が席に着いた。

麻生総理の表情は嬉しそうだ。

麻生総理

「浜田防衛相、大和の建造はどこまで進んだ？」

浜田防衛相

「はい。完成まで半年となり、工事は終盤を迎えました。建造ペー
スが早く、予定より早く完成するかもしれません。」

麻生総理

「そうか。それは良い事だ。」

河村官房長官

「三菱重工業の地下ドックは大丈夫だろうな。」

浜田防衛相

「大丈夫です。地下と言っても僅か10メートル他より低いだけで
すが、バれていません。工員にも外部との接触を避けるように言っ
ています。」

鳩山総務相

「乗組員はどうだ。」

浜田防衛相

「全員、帰国させています。」

麻生総理

「仕事が早いな。」

浜田防衛相

「それと、話が反れますがF-Xの問題があります。」

麻生総理

「そうだな、F-X最有力のF-22ラプターは既に生産ラインも閉じられたしな。しかし、F-3を出すのは早すぎる。」

石破農水相

「F-35を採用すれば良いのではないのでは？」

浜田防衛相

「それは良い考えです。航空自衛隊はF-35のA型を採用し、海上自衛隊にはB型を採用すれば。それなら海上自衛隊はいま、ひゅうが級にハリアーを搭載しようとしています。F-35の方が強力です。是非とも採用するべきです。」

麻生総理

「そうか、それなら早急にロッキード・マーティン社に生産を要請してくれ。」

浜田防衛相

「あつ！！！！総理、駄目です。」

麻生総理

「どうした？」

浜田防衛相

「F-35は燃料効率の観点から、短距離離陸垂直着陸仕様となっています。それに垂直離陸垂直離陸仕様を採用しても燃料効率が悪く、航続距離が短くなります。」

麻生総理

「改造は出来るのだろう。」

浜田防衛相

「たぶん、エンジン性能を向上させたり、タンクを改造すれば燃料効率は良くなると思います。」

麻生総理

「よし、それなら採用だ。日本人の小手先の器用さを見せ付けてやれ。」

浜田防衛相

「了解いたしました。」

麻生総理

「それと、もう一つボーイング社にB-777ジャンボジェットを100機発注してくれ。」

河村官房長官

「ジャンボジェット？何故ですか？」

麻生総理

「まあ、必要になる。」

河村官房長官

「H-2Aロケットもそうですが、ジャンボジェットも。」

麻生総理

「まあ、焦るな。全て極東有事に向けた投資だ。」

河村官房長官

「分かりました。」

浜田防衛相

「それでは、F-XはF-35に決定。ロッキード・マーティン社に発注。それにボーイング社にB-777ジャンボジェットを100機発注。これで良いですね。」

麻生総理

「ああ、内閣総理大臣命令だ。」

浜田防衛相

「了解しました。」

こうして、新たな計画が進み始めた。

委員会審議（後書き）

明日から、4 連載小説のローテーションを始めます。
よろしくお願いします。

委員会可決

2009年11月11日

衆議院外交防衛委員会の最終日を迎えた。

今日、可決か否決かが決まる。

この衆議院外交防衛委員会で可決されれば、後は衆議院本会議で審議するだけである。

参議院が廃止されたおかげで、全ての法案において可決までの時間が短縮された。

今後の予定は今日中に、ひゅうが級改造法案を可決させる。

15日から衆議院本会議にて、審議に入る。

その後23日には可決させたいと麻生総理は考えている。

「それでは最終審議に入りたいと思います。まずは民主党党首鳩山由紀夫君。」

委員長の指名により民主党党首の鳩山由紀夫議員が、質問を開始した。

「麻生総理、我が民主党は麻生総理の法案を全面的に支持します。」
鳩山党首の発言に委員会室が騒然とする。

何せ、昨日の前原議員の答弁からして民主党はこの法案に反対だと思われたからだ。

このため、自民党と公明党は今日の審議が山場と、気合いを入れてやってきたのだ。

それなのに、鳩山党首の全面支持発言。

驚くのも当然だ。

NHKの生中継を見ている国民も、驚いているだろう。

「確かに昨日の答弁では、反対を表明しました。ですが国の守りには必要だと昨日の党会議で決めたのです。憲法よりも国民の生命財産の方が大事です。そのためなら空母もまた、防衛兵器と認めます。空母は侵略兵器ではない。麻生総理の昨日の発言はまさにその通りです。国民を守るためには憲法第9条改正も、当然の動きでしょう。もう1度言いますが民主党は麻生総理の法案を全面的に支持します。」

以上です。」

鳩山党首は、言う事を言うと席に戻った。

麻生総理は慌てて、手を上げた。

「麻生太郎君。」

委員長の指名に麻生総理がマイクの前に立った。

「いやはや、鳩山さんの発言は非常に有難い。私もどうしようか考えていましたが、民主党が支持して下さるとは。ありがとうございます。これで、この法案は可決したも当然です。」

麻生総理も、得意の麻生節を披露する。

共産党と社民党の議員はもはや、あきらめムードが漂っている。

最大野党の、民主党がひゅうが級改造法案を支持したのだ。

昨日は民主党・共産党・社民党は、烈火の如く反対を唱えていたのに今日は借りてきた猫のようだ。

その後、3時間の形だけの共産党・社民党との質疑応答を行い、投票となった。

共産党・社民党はおとなしかったが、やはり憲法を守るという立場

を鮮明にし、麻生総理を追及した。

しかし、昨日ほどの鋭さはなく、麻生総理に丸めこまれるだけであつた。

「賛成の諸君は起立を願います。」

委員長の言葉に、自民党・公明党・民主党の議員全員が起立する。

案の定、共産党・社民党議員は着席したままだ。

「9条を無視するな。」

「民主党はいつからそんな党になった。」

「軍国主義の復活だ。」

「侵略兵器を保有するな。」

思考の遅れた野次を飛ばす。

しかしそれは、虚しいものであつた。

「起立多数。よつて法案は原案のまま可決されました。」

委員会室に拍手が響く。

衆議院外交防衛委員会で、法案は可決された。

首相官邸閣議室

衆議院外交防衛委員会で無事、可決されてから3時間後。

午後8時から、首相官邸にて閣議が開かれた。

「皆さん、無事にひゅうが級改造法案が委員会可決となりました。これでひゅうが級改造法案は本会議でも可決されたも当然です。」

麻生総理が嬉しそうに言った。

鳩山総務相

「E-35はどうなったんだ？」

浜田防衛相

「それがですね。日本は共同開発計画に加わっていないとの理由でライセンス生産は認められないとの事でした。」

中曽根外務相

「何だと！？それが長年の同盟国に対する態度か。」

麻生総理

「中曽根さん、落ち着いて。オバマ大統領はハト派ですから、仕方ないですよ。」

浜田防衛相

「ですが、アメリカは長年の同盟国に対する敬意を表して、F-35Bを50機（ひゅうが級搭載機及び補修予備機の合計）を海軍用から横流ししようとの事でした。」

鳩山総務相

「そうか、それなら良いな。」

河村官房長官

「総理、となるとF-XはF-3となりますな。」

麻生総理

「そうだな。では三菱重工業に連絡だ、『F-3烈風・F/A-3震電・F-3ER陣風の生産を開始せよ。』とな。」

河村官房長官

「分かりました。」

河村官房長官はそう言つと、閣議室を出ていった。

「さてと、そろそろJ-1を発表しても良いだろう。」

麻生総理は突拍子に言った。

浜田防衛相

「総理、それはまだ早いのでは。」

麻生総理

「そうか？」

鳩山総務相

「予定では衆議院本会議でひゅうが級改造法案の審議に入った、その日の夜に発表するのでは？」

麻生総理

「そうだが、国民に早く知らせたくてな。」

石破農水相

「そうですが総理、このJ-1は最高機密です。それまではお待ちを。」

麻生総理

「分かった分かった。そんなに言うのなら待とう。しかしこんな物まで開発していたとはな。」

浜田防衛相

「すいません。これは2002年10月から開発していた物です。」

小泉元総理が将来の拉致被害者奪還作戦に向けて指示したものです。

「

麻生総理

「そうなのか。小泉元総理もやるな、拉致被害者奪還作戦とは。」

鳩山総務相

「極東有事もそうでしょう。拉致被害者奪還作戦も極東有事に入っ

てるんですから。」

麻生総理

「そうだ。自国民は自分達で奪還する。そう強く表明しなければいけない。」

浜田防衛相

「勿論です。」

麻生総理

「中曽根さん、アメリカに伝えてください。『F・35は何円でも買いますから、早急に売ってくれと。』お願いします。」

中曽根外務相

「分かりました。」

来る、極東有事への備えは着々と進んでいる。

委員会可決（後書き）

J・Iについてはいま暫らくお待ちください。

日中空母建造合戦

2009年11月13日

ひゅうが級改造法案が委員会を通過してから、2日経ったこの日。

世界中の目は、中国海軍に向けられていた。

北京の中央軍事委員会が正式に発表した。

中国海軍初の『航空母艦鎮遠』である。

北方の遼寧省遼島半島先端の大連港で、急遽集められた内外記者団の眼前を、空母鎮遠が外洋に向かう。

その周囲を、駆逐艦やフリゲート艦など数隻の僚艦を率い出航していった。

白波を蹴立てて出航する空母艦隊はまさに勇姿と言えた。

対空ミサイルランチャーも含め、艤装は完璧で艦載機もはつきりと見える。

鎮遠、明治時代定遠とともに清国北洋艦隊の主力艦であり、ドイツで建造された世界最強クラスの最新鋭装甲艦であった。

だが、鎮遠・定遠ともに大日本帝國海軍連合艦隊に撃破された。

その艦名が空母として復活した。

日本よ見ておれ。

そればかりではない。

次には定遠、歴史を知るものなら誰しも、想像するだろう。

現に中国海軍は通常空母2隻と原子力空母2隻の建造を発表した。

世界各国は世界3番目の原子力空母保有国は中国だと思っているが、真相は日本の方が先だ。

鎮遠は旧ソ連の空母ワリヤーグである。

2001年に中国がウクライナから買い取ったのである。

空母保有の前兆。

その時世界は予想した。

それがいま、世界環視のなかに姿を現したのだ。

練習空母になると思われたが、正規の航空母艦として完成した。

全長304メートル

満載排水量59000トン最大速力30ノット

艦上戦闘機スホイ33フランカー20機、対潜ヘリコプター18機を搭載出来る。

立派な航空母艦である。

午後9時

首相官邸閣議室では緊急の閣議が召集された。

勿論、召集理由は中国の航空母艦竣工についてだ。

浜田防衛相

「総理、中国にやられましたな。」

麻生総理

「そつだな、先手を打たれたな。」

石破農水相

「しかし総理、由々しき事態ですぞ。中国はすでに通常空母2隻と原子力空母2隻の建造を始めました。我が国はイージス原子力空母大和1隻だけです。どうにかしませんと。」

鳩山総務相

「つまり、石破さんは空母を更に建造しよう。こうですね。」

石破農水相

「そうです。大和に続く空母として、イージス原子力空母武蔵・イージス原子力空母信濃の建造を。」

麻生総理

「そうだな。1隻ではオーバーホールに入ると空母がいなくなるかな。原子力空母3隻体制のほうが良いだろう。これで空母は5隻になるな。」

河村官房長官

「では総理、建造するのですね。」

麻生総理

「勿論だ。建造決定だ。」

河村官房長官

「了解いたしました。何処に発注します。」

麻生総理

「武蔵は呉のIHIマリンユナイテッド。信濃は神戸の川崎重工業だ。」

河村官房長官

「それでは早速連絡をしてきます。」

河村官房長官は閣議室を出ていった。

与謝野財務・金融・経済相

「また支出が増えますな。」

麻生総理

「ハハハ、そう言わんで下さい。国家の存亡がかかっています。」

与謝野財務・金融・経済相

「それは分かっています。幸いに日本はメタンハイドレートの採掘により、経済は回復しました。GDPも安定成長の値に達したと言えます。」

麻生総理

「そうですね。」

鳩山総務相

「それでは、これで。」

麻生総理

「皆さん、ありがとうございました。」

閣議は終了した。

2日後。

11月15日

ひゅうが級改造案が衆議院本会議の審議に入った。

初日とあって簡単な、質疑応答だけであった。

しかし、その後の防衛省の15時からの記者会見がちょっとした問題であった。

「MDはあくまで盾の役目しか果たせません。守るだけではなく、防衛のため敵地攻撃の構えも見せておくのが、有効な抑止力となるのです。」

浜田防衛相は、日本の専守防衛の建前を踏まえ慎重に言い回した。

日本海や東シナ海を守る海自のイージス艦はいずれも中距離迎撃ミサイルのSM-3を装備し、関東・中部・関西・北九州など大都市部の周辺には陸自が短距離迎撃ミサイルのPAC-3を配備している。

だが、短距離弾道ミサイルでもマッハ3〜9、長距離弾道ミサイルに至ってはマッハ21〜24の猛スピードで襲ってくるのだ。

100%迎撃に成功するとは限らない。

「有効な抑止力を日本が持つことが先決です。」

浜田防衛相は記者団を前に、国民へ語り掛けるように話した。

この会見のニュースは、防衛省技術研究本部が開発した『弾道ミサ

イルＪ－１』の発射実験成功を告げていた。

日本はこれまで、攻撃兵器と見なされる対地弾道ミサイルは１基も保有してなかったのである。

実験は鹿児島沖でＡＩＰ潜水艦そうりゅうから太平洋に向けた、射程距離１５００キロの中距離対地ミサイルであった。

初めての実験が中距離対地ミサイルで、しかも陸上基地ではなく潜水艦からであったことは、日本の技術水準の高さを世界に示すものであった。

しかも、中国の東風２１など中距離ミサイルの命中精度がおよそ２００メートルであるのに対し、日本の今回の初実験は、標的とした全長１５メートルの小型老朽漁船の甲板中央に命中していた。

今回、防衛省が対地弾道ミサイル実験計画を発表した時、例によってマスコミの猛烈なバッシングが……………

と思いきや、マスコミの対応は防衛省の実験計画を讃えるものであった。

これも、北朝鮮がテポドン２を発射し、テポドンやノドンのミサイルが日本に向けられていると知ったからだ。

そして中国の東風２１も日本を狙っていると分かったからだ。

『専守防衛を無視する行為だ。周辺諸国に脅威を与えるのみ。』

と書いたのは共産党の機関紙、しんぶん赤旗だけだった。

実験成功発表とともに防衛省がJ-1の愛称を公募すると、その日のうちにインターネットを通じ市民から1万通を超える応募があった。

翌日、弾道ミサイルを多数配備している中国・北朝鮮が『日本軍国主義復活』などと非難するなか、J-1の愛称は最も多かった『太郎』と決まった。

多くの国民、特に麻生総理はこの愛称に微笑んだ。

その名は中国の空母鎮遠と同様、次郎・三郎と開発を継続する日本政府の意志を示す意味合いを持つものだったのだ。

そして、この日正式にイージス原子力空母武蔵がIHIマリンユニテッドに、イージス原子力空母信濃が川崎重工業に発注された。

驚く事に、三菱重工業がIHIマリンユニテッドと川崎重工業に大和建造に携わった工員を派遣した。

設計図もコピーが両社に提供された。

当然の事ながら、国家の命運が掛かった建造計画だ。

敵対している場合ではない。

そして、もう1つ重要な事が。

現在、三菱重工業長崎造船所で建造されている大和と新たにIHIマリンユナイテッド呉造船所で建造開始となった武蔵との艦名交換が決まった。

これはIHIマリンユナイテッドが大和の故郷は呉だとの、意見を三菱重工業が受け入れたのだ。

確かに呉には大和ミュージアムがある。

しかし、艦名にここまで拘るか。

11月16日

太郎こと、J-1装備工事を開始。

海自護衛艦及び潜水艦全艦に随時装備させていく。

11月23日

ひゅうが級改造案が衆議院本会議にて可決。

これにより、ひゅうが級がVSTOL空母になる事になった。

当然の事ながら、中国・北朝鮮が再び『日本軍国主義復活』と騒いだ。

しかし、麻生総理が吐き捨てた。

「中国政府、北朝鮮政府の言い分は如何なものかと思う。はっきり言う。これは内政干渉だ。」

麻生総理の発言は、国民に拍手をもって支持された。

マスコミも支持した。

日本は再び、自分の意志をはっきりと示す国となってきたのだ。

日中空母建造合戦（後書き）

もしかしたら、次回いきなり大和竣工まで時系列が進むかもしれませんが。
何か思いついたら延びます

暴走北朝鮮

2009年11月25日

この日、またしても世界中が震撼した。

北朝鮮が通算4回目の地下核実験を行ったのだ。

半年前の5月25日に2回目の地下核実験を行った北朝鮮は、その後の国連安保理で制裁案を可決されて以来、強硬路線一辺倒だ。

2回目の地下核実験の時の制裁案は、政府高官の資産凍結及び出国禁止であった。

しかし、資産凍結と言っても殆ど資産の無いため、効果は無かった。

逆に北朝鮮は、黄海と日本海付近を航行する米韓の商船に対する攻撃も辞さないと表面した。

3回目の地下核実験は、その3ヶ月後の8月25日。

北朝鮮は再び、地下核実験を行った。

この時の、地下核実験は日本の早期警戒衛星が全模様を記録していた。

この時も世界は、3ヶ月後の地下核実験に驚いた。

3回目の地下核実験に、安保理は遂に北朝鮮へ向かう商船全ての臨検を許可する制裁案を可決。

これにより、アメリカ合衆国海軍第7艦隊・韓国海軍・海上自衛隊・海上保安庁が臨検を自由に行える事になった。

日本も7月1日に成立した海賊新法があるため、威風堂々と出港して行った。

なお、この制裁案には停船命令を聞かない商船に対しての攻撃・撃沈も認めるとの条文もある。

黄海方面は、アメリカ海軍第7艦隊と韓国海軍が担当し、日本海方面は海上自衛隊と海上保安庁が担当する。

ロシアも当初は参加しなかったが、プーチン首相の命令でウラジオストクの極東艦隊が臨検に参加。

中国は参加しなかった。

しかし、海が駄目なら陸がある。

北朝鮮は中国経由で、兵器技術の交換や兵器の購入を行っていた。臨検も、積載する物が生活物資なら問題ないためそのまま、港へ帰港。

臨検も意味が無かった。

そして、11月25日の4回目の地下核実験となったのだ。

北朝鮮の地下核実験は午前10時に行われた。

日本も早期警戒衛星で監視しており、今回の規模は前回よりも更に発展していると見られた。

それは事実であつた。

日本各地でも地下核実験の地震波を感知した。

マグニチュード7との事であつた。

地下核実験での規模も去る事ながら、早期警戒衛星は舞水端里にてテポドン2の燃料注入が始まったのを確認した。

午前10時30分。

首相官邸では緊急の安全保障会議が開かれた。

麻生総理

「これは、大変な事になったな。」

河村官房長官

「早期警戒衛星が捉えた映像では、10基のテポドンに燃料注入が開始されています。」

浜田防衛相

「予想では11時30分までに燃料注入が完了。発射は正午かもしれません。」

鳩山総務相

「早いな。燃料注入がそんなに早く終わるのか？」

浜田防衛相

「多分、前々から注入していたのでしょう。雨天時に注入していたのかも知れません。」

麻生総理

「雨が降っていると、早期警戒衛星は意味を成さないのか？」

浜田防衛相

「映る事は映りますが、そつと酷い画像です。判断が衝きかねます。」

河村官房長官

「早速、改良型の開発・完成を指示しませんと。」

麻生総理

「確かに。雨天時に分かりませんでした、では阿呆らしいからな。」

浜田防衛相

「国民にテポドンが発射されると、ニュース速報を流しましたがどう対応しますか。どこに撃つか分かりませんが。」

麻生総理

「こうなれば、全弾迎撃だ。日本海には臨検の為に撃っている第2護衛隊郡に迎撃命令を出す。」

浜田防衛相

「了解しました。こんごう級・あたご級全艦にSM3を装備して正解でしたね。」

麻生総理

「そうだな。これでテポドンは心配しなくていいな。」

河村官房長官

「それじゃ、安全保障会議は終了と言う事で。」

麻生総理

「それじゃ、これで解散にします。」

安全保障会議は終了した。

その後の流れを書けば。

正午ジャストに北朝鮮はテポドン2を発射。

10発が立て続けに日本へ向けて発射された。

そこへ、第2護衛隊郡のこんごうがSM3を発射。

テポドン2の迎撃に成功した。

ここで驚くべき事に、韓国海軍のセジョンデワンとロシア海軍極東艦隊のソブレメンヌイがテポドン2に向けて、対空ミサイルを発射したのだ。

勿論、迎撃出来ないのは分かっているが形だけの迎撃行動を行ったのだ。

両国は日本に恩を売ろうと考えたのだろう。

しかし、同盟国のアメリカ海軍が迎撃しなかったのが疑問に残るが。

迎撃成功に伴い、麻生総理は午後2時に再び安全保障会議を召集した。

この安全保障会議では、『イージス護衛艦ながと級』と『イージス原子力空母大和』の建造ピッチ上昇を要請した。

大和は来年4月の竣工を、ながと級1番艦ながとは来年8月の竣工を予定している。

その後、午後5時には衆議院本会議にて北朝鮮に対する抗議案を可決。

午後10時

国連では高須国連大使の要請で緊急の安保理が召集された。

日本政府の制裁案は『北朝鮮海上封鎖』であった。

これが可決されるか否か。

暴走北朝鮮（後書き）

ながと級は、竣工してから説明します。

次回は国連の緊急安保理が召集されます。

日本政府が提出した『北朝鮮海上封鎖』
は可決なるのか？

国連安全保障理事会召集

2009年11月25日午後10時（日本時間）

アメリカ合衆国ニューヨーク国際連合本部

ここで緊急の安全保障理事会が召集された。

「それでは、緊急の安全保障理事会を開きたいと思います。」

パンギムン国連事務総長の宣言により、安全保障理事会が開かれた。

議長席にはパンギムン事務総長が座り、そして右回りに常任理事国のアメリカ大使・イギリス大使・フランス大使・ロシア大使・中国大使・高須国連大使・オーストリア大使・ベトナム大使・トルコ大使・メキシコ大使・ウガンダ大使・リビア大使・コスタリカ大使・クロアチア大使・ブルキナファソ大使が席に着く。

安全保障理事会での、議題は『北朝鮮海上封鎖』である。

度重なる北朝鮮の傍若無人な振る舞いに、日本が遂にキレ、この議案を提出したのだ。

高須国連大使は麻生総理直々に、『必ずや可決出来るように、お願いします。』との連絡を受けていた。

この議案で、北朝鮮を締め挙げれば必ず、北朝鮮は事におよぶ。

そうすれば、日本に大義名分があるため、正々堂々と開戦する事が出来る。

「それでは、高須大使。今回の議案についての詳細と提出理由をお願いします。」

パン事務総長の言葉に、高須大使が立ち上がり説明を始めた。

「それでは、今回の議案について説明します。今回我が国は『北朝鮮海上封鎖案』を提出します。この案は現在行われている艦船の臨検の強化版と言えます。北朝鮮に向かう、艦船全てを引き返させます。陸路も当然のように封鎖したいと思います。これは中国政府の協力が不可欠です。出来れば中国大使には賛同いただけるよう、お願いします。提出理由は、北朝鮮に対する制裁。これだけです。」

高須大使は言うだけ言うと、席に着いた。

すると、中国大使がパン事務総長の許可を貰わずに立ち上がった。

「日本の制裁案は、北朝鮮を滅ぼそうとするとしてもない制裁案だ。これを認める訳にはいかない。」

中国大使は、例によって早速北朝鮮の擁護を始めた。

中国は事ある事に、北朝鮮を擁護する。

北朝鮮なんか、助けて何になる？

「中国大使、座って下さい。」

パン事務総長の言葉に、中国大使は席に着いた。

「さて、気を取り直して。北朝鮮が度重なる警告や制裁にも関わらず、地下核実験やミサイル発射を行ったのは周知の事実です。これに対して、周辺諸国の大使にご意見を伺いたいです。では、最初にロシア大使。」

ロシア大使が、指名されて立ち上がった。

「北朝鮮の行動は、国際社会に対する挑発です。今回の地下核実験やミサイル発射はまさに恫喝です。我が国は日本に深く同情すると共に、北朝鮮との関係を見直し、日本との友好関係強化を行いたいと思います。」

ロシア大使の発言に、高須大使は思わず拍手をしていた。

ロシアも北朝鮮を擁護するかと、思われていたが遂に関係見直しを考え始めたのだ。

これは、北朝鮮の地下核実験やミサイル発射が大きく影響していると言える。

それに、定かではないが北朝鮮はテポドン2に搭載可能なまでに核の小型化に成功したとの情報がある。

これが正確な情報であれば、日本は当然のように射程圏内であり。

ロシア・中国・韓国・タイ・フィリピン等アジア諸国やアメリカ西海岸も諸国圏内である。

北朝鮮のような、二流国家でも核弾頭ミサイルを配備した事になる。

ロシアが関係を見直すのも、当然の事だ。

ロシア大使は着席した。

「それでは、次に韓国大使。」

パン事務総長の指名で、韓国大使が立ち上がった。

韓国大使は、特別にオブザーバーとして安全保障理事会に参加していた。

何せ、北朝鮮のすぐ南にある国だから当然だろう。

「我が国も、当然の事ながら日本政府の制裁案に賛成いたします。この度の北朝鮮の行いは許されるものではありません。北朝鮮には断固とした態度で、立ち向かっていきたいと思えます。」

これで、制裁案賛成の国は2カ国となった。

アメリカ・イギリス・フランスは、流動的に賛成すると思われる。

問題は、中国である。

「では、中国大使。」

パン事務総長から指名され、中国大使が立ち上がった。

「我が国は断固反対の立場です。」

それだけだった。

中国大使は1言だけ言うと、席に着いた。

「……………それでは、高須大使。お願い」

「事務総長、私にも言わせて下さい。」

パン事務総長が話しているとアメリカ大使が割り込んできた。

安全保障理事会は、その後2時間にも及んだ。

「それでは、日本政府が提出した制裁案について白黒はつきりした
と思います。」

11月26日午前7時

首相官邸では国家安全保障会議が緊急召集された。

「結局、中国の拒否権行使で廃案か。」

麻生総理が、ぼそりと言った。

そうである。

北朝鮮海上封鎖案は、中国の拒否権行使により廃案となったのだ。

せっかくロシアが賛成に回ったのに、中国が拒否権を行使したためこのような結果になってしまった。

まったく、現在の国連の制度は戦勝国に有利すぎる。

国連は一度解散して、あらたな組織を設立するべきだ。

河村官房長官

「高須大使の連絡によると、臨検についても12月25日に期限切れになるとの事でした。」

鳩山総務相

「まあ、それは4ヶ月の時限立法でしたからね。」

麻生総理

「それが失効しても、海上自衛隊と海上保安庁は日本海側の警備を続けてもらいます。これ以上北朝鮮の船舶を近付けてはなりません。」

浜田防衛相

「喜ばしい事に、海賊新法がありますので海上自衛隊・海上保安庁には撃沈出来る事ができます。」

河村官房長官

「では、失効後も海上自衛隊・海上保安庁には引き続き、警備にあたってもらうと。」

麻生総理

「それでは、皆さん。終わりました。」

国家安全保障会議は終わった。

「早く、大和が完成してもらいたいよ。」

麻生総理はそう一言だけ言った。

国連安全保障理事会召集（後書き）

次回は……ひゅうが級VSTOL空母竣工です。

1 番艦 2 番艦同時竣工です。

VSTOL空母ひゅうが級

2010年1月18日

IHIマリンユナイテッドにてVSTOL空母ひゅうが・やましろが竣工した。

この竣工式には、麻生内閣の閣僚全員が出席した。

それに、NHKを筆頭に、読売テレビ・日本テレビ・フジテレビ・TBS等主要テレビ局も生中継に訪れていた。

なにせ、日本初の空母竣工なのである。

日本中の目がひゅうが級2艦に向けられていると言って良いだろう。

このひゅうが・やましろの竣工で、はるな・ひえいは退役する。

続く、3番艦いせ・4番艦ふそうが竣工するとしらね・くらまが退役する。

いせ・ふそうは6月竣工の予定だ。

竣工式の終盤、麻生総理の演説が行われた。

「本日は、この竣工式に参加でき大変嬉しく思います。」

麻生総理は独特の口調で話始めた。

「このVSTOL空母ひゅうが・やましろが竣工した事で、我が国のシーレーン防衛は確固たるものとなりました。しかし、空母は侵略兵器であり、日本が保有する意味がないと言う方がいるのも事実です。しかし空母を保有すれば、侵略する。このようなアホみたいな事をほざくのは、非常に情けなく思います。我が国が空母を保有する事は、北朝鮮にとつて有効な抑止力になると思います。あの国は国際社会の警告を無視して、地下核実験やミサイル発射を強硬しました。我が国としても断固とした意思を示し、事に及ばなければいけません。もしかしたら有事になるかもしれません。しかし、拉致被害者救出を考えている現在、相手が仕掛けてくれば我が国も受けてたたねばいけません。皆様、我が国は戦後65年平和を享受してきました。それを打ち壊す、北朝鮮の行為はまさに挑発行為。いつ何時有事に発展するか分かりません。明日勃発するかもしれませんし、来年かもしれません。油断大敵です。もしもの時に備えて、空母を保有するのは防衛兵器の1種ですので、問題はないでしょう。しかし、本当に有事にならない事を祈っています。」

麻生総理の演説は終わった。

この演説は例により、全国に生中継されていた。

このひゅうが級竣工は、世界中に驚きをあたえた。

なにせ、J A P A N S E L F - D E F E N S E F O R C E という名前に D E F E N S E が入っている自衛隊が空母を保有したのだ。

アメリカ・イギリスは、防衛兵器なら保有しても良いと考えていたが中国・北朝鮮は例によって猛抗議した。

『世界平和に対する挑戦だ。』

『東南アジア諸国を侵略するつもりだ。』

『日本軍国主義の復活だ。』

このような声明を、その日の夕方に発表した。

しかし、麻生総理は内政干渉だと跳ね返した。

麻生総理や麻生内閣の面々にとっては、ひゅうが級で事を大きくし
たくなかった。

なにせ、3ヶ月後にはイージス原子力空母大和が竣工するのだ。

ひゅうが級など足元に及ばない、ニミッツ級に準ずる大きさの空母
だ。

こんなのは完成するまで、秘密に……………

2010年3月3日

ひな祭りのこの日。

午前10時の河村官房長官の会見で、驚くべき事が発表された。

「本日午後3時からイージス原子力空母大和竣工についての首相記者会見を行います。」

この発表は日本中に流れ、世界中にも知らされた。

海外メディアの特派員も会見に参加する事になった。

午後2時

首相官邸の記者会見会場には大量の記者が詰めていた。

VSTOL空母ひゅうが級（後書き）

さてと、次回は遂に大和の全容が……………

首相記者会見

2010年3月3日午後3時。

記者会見会場で、麻生総理の記者会見が始まった。

「それでは記者会見を始めたいと思います。麻生総理、お願いします。」

河村官房長官が言った。

麻生総理は国旗に一礼すると、マイクの前に立った。

「皆さん、本日はお集まりいただきありがとうございます。今回は非常に重要な事案に付いて説明します。」

麻生総理が言うと、その横にあったモニターに3DCG画像が映しだされた。

「これが、来月7日に竣工する『イージス原子力空母大和』の完成予想図です。」

麻生総理の言葉に、記者からは歓声があがった。

「全長315メートル、最大幅75メートル、満載排水量は980

00トン、速力33ノット。アメリカ海軍のニミッツ級に準ずる、大きさです。搭載機数は80機。なお、搭載機の主力は全て国産機です。」

この言葉に、記者からは驚きの声があがった。

日本が国産機を開発していた、と言う情報はなかったし、国産機が完成したともなかった。

ましてや、領空防衛の要である戦闘機を日本だけで開発したのだ。

驚くのも、無理はない。

「質問は、後で聞く。今は説明だ。」

麻生総理は驚きの声をあげる記者を宥めた。

「このイージス原子力空母大和は、2002年から建造されている。小泉政権の時から今にいたるまで、建造していた事になる。研究は1960年代から始められており、自衛官もアメリカに派遣して実習させていた。記者諸君の中には、憲法違反ではないかと考えている者がいるかもしれない。しかし、良く考えてもらいたい。憲法よりも何が大事なのか。はっきり言えば、憲法など紙に書かれた文字だ。それよりも、国民の生命財産の方が大事に決まっている。それを覚えてもらいたい。」

麻生総理の説明は終わった。

次は記者による、質問となった。

「それでは、質問に入ります。挙手をして、会社名と名前を言うてから質問を始めてください。」

河村官房長官の言葉に記者は手をあげる。

「それでは、一番前のあなた。」

記者が席から立ち上がった。

「読売新聞の岩田です。今回のイージス原子力空母大和はどのような目的でこれを保有するのですか？」

確かに、肝心な質問だ。

「1番の理由は、ひゅうが級と同じ国家防衛のためです。日本は四方を海に囲まれた島国です。当然、海からくる敵を撃退する必要がある。そのため空母を保有するのは当然の既決と言えます。我が国が空母を保有すれば、他国を侵略すると言う時代遅れの考えを持っている人がいますがそれは間違いです。空母保有は他国侵略ではないです。空母はただ単に、攻撃能力だけで無く抑止力や災害派遣にも有効と言える。どこぞのバカが、空母は侵略兵器だと言ったがそれなら、アメリカに侵略兵器だから放棄しろと言ってもらいたいね。極端な話、小銃1つでも侵略兵器だ。非武装の島に行けば小銃1つで侵略出来る。兵器は使う人の胸三寸で防衛兵器にも侵略

兵器にもなる。使い方が大切だ。」

麻生総理の返答に、岩田記者は感心しながら席に着いた。

「続いては、最後尾のあなた。」

河村官房長官の指名に、白人が立ち上がった。

「ニューヨークタイムスのジョーンズです。日本人はいつも、原子力と言うものにアレルギーを感じると思われるのですが。その点は如何でしょう？」

流暢な日本語でジョーンズ記者の質問が飛んだ。

「確かに、日本人には核アレルギーと言うものがある。核兵器や原子力と言うものに過度に反応し、直ぐに危険だ反対だと言う者が出てくる。しかし、原子力の平和利用では良いのではなからうか？現に、原子力発電所がある。あれこそ原子力の平和利用そのものだ。それを空母に搭載して悪い事ではない。空母を原子力化すれば、石油を使わないで良いし、その分を搭載機のカソリンとして積み込める。日本人は根本的に核と言う物を見直すべきだ。日本ははつきり言えば、アメリカの強大な核の傘の元でこの荒れた国際社会で、生存出来ている。日本人も意識するべきだ。左翼の連中は、核兵器反対と言いながら事実上、アメリカの核の傘で守られている事であるからして、何も核兵器を保有するとは言っていない。『原子力空母』を保有するのだ。反対勢力も、時間が経てば無くなるだろう。」

ジョーンズ記者は、頑張ってくださいと言って、席に着いた。

「それじゃ、次は1番端のあなた。」

河村官房長官の指名で、女性が立ちあがった。

「日本経済新聞の早川です。今回の『イービス原子力空母大和』保有に当たり、中国や北朝鮮が非難してくると思われませんが如何でしょう。」

「確かに、非難してくると思うが。これも内政干渉だと跳ね返す。今まで我が国は、中国や韓国・北朝鮮に抗議や非難されたらすぐに謝罪していた。しかし、戦勝国だからと言って調子にのりすぎだ。南京大虐殺においてもとんでもない数字を出してきた。確かに虐殺はしたが、それは市民に紛れ込んだ中国軍を見つけたためだった。それは当然の戦争行為だ。日本軍が南京大虐殺を行ったとすれば、中国の毛沢東が行った革命で何十万人が死んだか。ヒトラーはユダヤ人を虐殺しただろ。スターリンは大量に粛清した。アメリカもトルーマン大統領は原爆投下を認め、我が国民が数十万人も殺されたのだ。彼らこそ殺戮者だ。彼らの罪を問わずに敗戦国を執拗に追い詰める。勝てば官軍とはこの事を言う。戦勝国に有利過ぎる。敗戦国のドイツ・イタリアでも軍を持っている。日本だけが、持てないのはおかしいではないか。空母を保有しても、何ら問題はない。我が国は、自国の防衛は自国でやる。これを示すだけだ。」

早川記者も納得したように、席に着いた。

「次は真ん中のあなた。」

今度は、スーツを着こなした男性が立ちあがった。

「前航空幕僚長の田母神俊雄です。今回の発表は非常に素晴らしい事です。国防力増強に、新たな道が開けたと思います。そこですが、日本は憲法第9条の放棄又は改正を視野に入れているのでしょうか？」

田母神氏の登場に、会場は騒然とした。

「これはこれは、田母神さんではありませんか。貴方の考えに私は非常に共感していました。しかし、この件がありますから辞めてもらうしかなかった。その点はご了承いただきたい。」

麻生総理は田母神氏に頭を下げた。

「いや、この重大な理由なら辞めても良かった。私の考えで、あの時点で発覚していたら大変ですからね。」

田母神氏も、頭を下げた。

「では、お答えしましょう。憲法改正は然る時期を見て、国民投票を行って改正したいと思います。現行の日本国憲法はマツカーサー草案の憲法ですから、改正するのは当然です。戦後65年、一度も憲法が改正されていないのは面白い事です。自衛権の行使、集団的自衛権も認めるべきです。専守防衛など論外。航空自衛隊も、スク

ランブル発進の時、2機1ペアのうち1機が落とされて専守防衛として攻撃出来るのはかわいそうです。貴重なパイロットを殺すわけにはいきません。憲法改正は当然です。」

「それを言うていただきたかった。それでは最後に、国産機について？」

前航空自衛官だけある、事だ。

国産機については興味があるみたいだ。

「国産機ですが、名前はF-3です。詳しくは、来週の公開式に話しますが、F-3はF-22に続く第5世代戦闘機です。」

麻生総理の発言に、会場がどよめく。

F-2に続く、国産機がF-22と同じ第5世代戦闘機なのだ。

「心神ではないのですか？」

前列の記者が聞いた。

「根本的に違います。心神は諸外国を欺くカモフラージュです。開発が進んでいないとして、国産機の開発は終わっていたのです。既に量産に入っています。このF-3はF-Xとして配備していきま

す。F-3は近年増強著しい、近隣諸国の航空機よりも遥かに高い性能を持っています。我が国の防空は今後とも、万全と言えます。」

麻生総理の記者会見は終わった。

この記者会見は世界に強烈なインパクトを与えた。

原子力空母保有だけでなく、第5世代戦闘機の国産機も量産に入っていた事が分かったのだ。

アメリカでは早速、オバマ大統領が声明を発表した。

「自国の国防なら国産で補うのは当然だ。我が国と日本は重要なパートナーだ。これからも、共に手を取り合っていきたい。」

ざっくばらんに言えばこうだった。

イギリスやフランス、ロシアも国防と言うことに反応し、同調した。

しかし、それでも反対を唱える国があった。

中国と北朝鮮だ。

北朝鮮は朝鮮中央テレビで日本政府を非難した。

中国に至っては、北京・上海で反日デモが発生した。

人民解放軍が出動したが、何もしなかった。

やはりこの反日デモも、政府奨励だったのだ。

都内某所

「キムジョニイル総書記から指令が出た。日本を混乱させてやれ。」

首相記者会見（後書き）

最後の会話は……………

ペールを脱ぐF-3

2009年3月10日

百里基地にて、F-3が公開された。

F-3は、新型機の総称で派生型がある。

主力となるF-3は、『F-3烈風ステルス戦闘攻撃機』と命名された。

これが会場の中心に置かれている。

そして、その左側に『F/A-3震電戦闘攻撃機』が置かれ、右側に『F-3ER陣風電子戦攻撃機』が置かれている。

そして、これが重要な事であるがF-3が『艦載機』である事だ。

これは、F-3が来月7日竣工の『イージス原子力空母大和』艦載機として開発されたからである。

そんな艦載機を航空自衛隊も採用する理由は、海上自衛隊と航空自衛隊の航空機統合化を図ったからである。

「それでは、ただ今より浜田防衛大臣によるF-3の概要説明を始めます。」

航空自衛官であろう、女性の司会により浜田防衛大臣による概要説明が始まった。

「それでは、F-3の概要説明を始めたいと思います。」

浜田防衛大臣はマイクの前に立つと、説明を始めた。

「それでは、F-3の説明を始めます。まずは、F-3烈風ステルス戦闘攻撃機です。」

浜田防衛大臣が言ったその瞬間、F-3烈風2機が上空を通過した。

「いま、通過したのがF-3烈風ステルス戦闘攻撃機です。概要を説明すると、全長18メートル、全幅13メートル、最大速度マッハ2・5、巡行速度マッハ1・8となる。ステルス能力は、アメリカ空軍のB2と同等である。つまり、レーダーへの反応は鳥ぐらいのものだ。そして巡行速度マッハ1・8を弾き出す国産初のアフターバーナー付エンジン『FZ5-1』は推力20トンを超える。世界一の性能を持つエンジンと言えるだろう。」

浜田防衛大臣の言葉に、会場は拍手に包まれた。

これほどの高性能エンジンを搭載しているとは思っていなかったのだらう。

「F-3はこのほかにも、光ファイバーケーブルを通した光信号により、各翼を作動させる『フライ・バイ・ライト（FBL）』や、通常の戦闘機では失速してしまうような速度領域でも機体を制御可能にし、尚且つ運動性の強化を図る『統合飛行推進力制御（IFPC）』や、フェーズドアレイレーダーに電子妨害（ECM）装置を組み込んだ『多機能RFセンサー』等を採用した。そしてベクターノズルも3次元パドル式推力偏向機構を装備した。これによりF-3はF-22と同等、或いはそれを凌ぐ性能を持っていると言っても過言ではないだらう。」

この浜田防衛大臣の言葉に再び拍手が起こる。

これほど、高性能な戦闘機とは思ってもいなかったのだらう。

「そして、F/A-3震電戦闘攻撃機の概要だが、全長17メートル、全幅13メートル、最大速度マッハ2・5、巡行速度マッハ1・8だ。F-3ER陣風電子戦攻撃機の概要は、震電と同じだ。なお、3機種とも兵装については非公開にしたいと思う。ただ言える事は、烈風はステルス機のため全兵装をウエポンベイ内蔵とする。震電及び陣風は、両翼装備とするミサイルもある。」

浜田防衛大臣の説明が終わると、上空を再び烈風・震電・陣風が各2機ずつ計6機が通りすぎた。

会場は再び、拍手に包まれた。

日本が開発した最新鋭の戦闘機、F-3。

F-1・F-2と、着実に技術力を付けてきた日本が遂に成し遂げた偉業である。

このF-3の登場は、近年増強著しい中国空軍の出鼻を挫く事に成功したとも言える。

中国空軍の主力であるSu-30MKK/2は300機近くが配備されている。

麻生総理は臨時予算においてF-3、700機（F-3烈風ステルス戦闘攻撃機350機、F/A-3震電戦闘攻撃機200機、F-3ER陣風電子戦攻撃機150機）の予算を提出する予定だ。

F-3が1機あたり、180億円であるため700機では12兆6000億円になる。

しかし、F-3は烈風・震電・陣風と3機種のため700機＝12兆6000億円と言う訳ではない。

烈風が180億円であり、震電は160億円。

陣風は128億円である。

では、計算すると。

烈風・180億円×350機〓6兆3000億円

震電・160億円×200機〓3兆2000億円

陣風・128億円×150機〓1兆9200億円

3機種合計1兆4200億円となる。

ただ、これでも1兆4200億円である。

いくらメタンハイドレートを採掘し、不況を脱出したとは言え、これはキツイのではなからうか？

しかし、これは麻生政権のマスコミ操作にかかっている。

国家の存亡がかかった、制空権の確保にはF-3が必要であると訴える。

それに加え、今年度からF-4EJ改が退役を開始している。

F-3の生産状況を考慮しながらではあるが、F-4EJ改は来年度には全機退役（注意：これはフィクションである。現実には2014年～2015年頃に最終退役）となる。

この、動かぬ現実があるため与党の自民党及び公明党、そして半与党とも言われる幸福実現党（昨年の解散総選挙で50議席を獲得。以後、国会では半与党の立場として活躍している。なお、活躍と言

っても今年度からである。それまでは急激な勢力拡大で、事後処理など様々な事案に及んでいた。）

野党の民主党も協力して、F-3生産の臨時予算を是が非でも獲得するつもりである。

それに加え、臨時予算と共に『海上自衛隊保有艦船明記改正案』を提出する。

この改正案は海上自衛隊の現有艦船及び今後竣工する艦船の名前を、平仮名明記から漢字明記とする改正案である。

だから何だと言われるが、漢字明記の方が絶対カッコいいでしょ。

何はともあれ、F-3の公開式は無事に終わったのである。

ペールを脱ぐF・3（後書き）

次回は、イージス原子力空母大和竣工です。

いや、もしかしたら何か起きるかも知れません。

イージス原子力空母大和公開式

2010年4月7日

佐世保港にて、イージス原子力空母大和の公開式が行われた。

最大速力33ノットで、外洋を疾走する様は見事なものである。

その周囲を海上自衛隊の4個護衛隊群が護衛する。

大和の艦上からはF-3烈風ステルス戦闘攻撃機が電磁カタパルトから射出された。

満載排水量98000トンという、海上自衛隊最大の艦が海を疾走する。

その光景は、圧巻であった。

麻生総理は、胸に込み上げてくる熱いものを感じていた。

日本初の原子力空母が、海上を疾走しているのだ。

この光景は、世界中に生放送された。

世界同時中継である。

何せ、日本初の原子力空母で有るうえに世界で3ヶ国目の原子力空

母保有国となつたのだ。

しかも、規模で言えばアメリカに次ぐ2番目の大きさだ。

世界中の目は、イージス原子力空母大和に向けられていると言っても過言ではないだろう。

そんな中、麻生総理の演説が始まろうとしていた。

「本日はお集まりいただき、ありがとうございます。」

麻生総理の演説が始まった。

「皆さんの向かい、私の後ろに停泊しているのがイージス原子力空母大和です。名前の通り、大和にはイージスシステムが装備されています。何故かって？それは海上自衛隊のイージス艦の数が少ない

からだ。大和護衛のためにイージス艦を配備すれば、北朝鮮のミサイル防衛の絶対数が少なくなる。そこで、自衛兵装を強化すれば単艦でも行動出来る。そういう事だ。まあ、これは極端な話だが。さて、イージス原子力空母大和の詳しい説明をしよう。全長315メートル、最大幅75メートル、満載排水量98000トン、速力33ノット。まあ、ここまでは前の記者会見で説明した。武装について説明しよう。イージス原子力空母大和はVLS式ESSM対空ミサイル40セルを装備する。このESSMはシースパロー対空ミサイルの発展型で、最大50Gの旋回も可能とした高い運動性能を持っている。

ESSMは対航空機、対弾道ミサイルの両方に対処出来る万能対空ミサイルだ。なお、ESSMの射程は秘匿させてもらう。弾道ミサイル迎撃も可能のため、出来る限り秘匿させていただく。続いては、RIM-8シースパロー21連装対空ミサイル発射機4基。これが迎撃する。これは従来型の対空ミサイルだな。その次がRAMSシードワインダー21連装対空ミサイル発射機4基。これはサイドワインダーの艦載版だな。そして、最後が20ミリCIWSだ。これが大和の装備する兵器だ。次に艦載機だ。まずはこれだ。」

麻生総理が手を上げると、上空を30機の編隊が2つと、5機の編隊が2つ、4機の編隊に、3機の編隊が2つ通り過ぎた。

「最初のが主力、F-3烈風ステルス戦闘攻撃機だ。その次が、F/A-3震電戦闘攻撃機。次がF-3ER陣風電子戦攻撃機。次がアメリカから購入したE-2Cホークアイ。次もアメリカから購入したC-2Aグレイハウンド。次はUH-60ブラックホーク。そして、世界最新の対潜哨戒機SH-60Kシーホーク。合計80機を大和は搭載する。本来なら90機は搭載出来たが、大和は原子力空母である上に装甲空母であるのだ。」

麻生総理の言葉に、会場は騒然とする。

生中継を見ている国民や世界中の人々も驚いた事だろう。

何せ空母を装甲空母化するという、今世紀では有り得ない事を行ったのである。

ますます、テレビに食らい付いている事だろう。

「イージス原子力装甲空母大和には、甲板は世界各国海軍の対艦ミサイルを最多で20発は耐えられる強度を獲得した。アイランドは最多5発。船体は、右舷・左舷各魚雷最多18発に耐えられる。そのため、魚雷1発で空母の機能を損なう事などない。非常に屈強な空母と言える。さて、次は大和の特殊装備についてだ。特殊と言ってもほとんど見えているが。まずはアングルドデッキ。大型空母には必要不可欠だ。次は、シリンドリカルバウ。シリンドリカルバウにはバウスラスタも装備してある。そして、イージスシステム。装備理由は先ほど、説明した。そして何より重要なのが、電磁カタパルトである。」

麻生総理の言葉に、驚きの声上がる。

1番驚いているのは、多分アメリカ海軍の関係者だろう。

自国が開発に苦勞している、電磁カタパルトを日本初のイージス原子力装甲空母が装備しているのだから。

「電磁カタパルトについては、諸君も知っているだろう。アメリカ海軍が躍起になって開発しているものだ。この電磁カタパルトであ

るが、アメリカ合衆国政府の要請があれば輸出も許可したいと思う。単価は申し訳ないが、2、300億円となる。これで買うというのなら輸出しよう。なお、F-3は絶対に輸出しない。これはご了承いただきたい。」

麻生総理は頭を下げた。

「さて最後に、もう1つ重大な事をお知らせする。現在イギリス原子力装甲空母大和に続く、イギリス原子力装甲空母武蔵、信濃の建造を始めている。武蔵はIHイマリンユナイテッド、信濃は川崎重工業が発注した。もしかするともう1艦、紀伊か尾張か分からないが発注するかもしれない。中国の空母建造に我が国は真正面から立ち向かう!!」

麻生総理は声高々に宣言した。

麻生総理の演説は終わった、会場は拍手の嵐だ。

そんな中、浜田防衛大臣の携帯が鳴った。

航空幕僚長からだった。

「どうした？何か緊急事態か？」

「防衛大臣、緊急事態です！！たった今、偵察衛星が北朝鮮からの弾道ミサイル発射の熱源を感知しました。」

「何発だ？目標は？」

「射程１６００キロのノドン２号と思われます。合計４発。すべて九州地区に向かってます。」

「何てこった。」

浜田防衛大臣は携帯の電源を切ると、麻生総理と河村官房長官に知らせるべく走りだした。

イージス原子力装甲空母大和ＣＩＣ

「これはなあに？」

イージス原子力装甲空母艦長の河口未来一佐は、大型スクリーンに映し出された正体不明の飛行物体に、嫌な予感を覚えた。

「航空機かしら？」

河口艦長の問いに、レーダー員が答えた。

「明らかにミサイルです。ノドン2号とおもいます。」

「射程1600キロの中距離弾道ミサイルね。北朝鮮も思い切った事をするわね。」

河口艦長は椅子から立ち上がると、命令を下した。

「ノドンの正確な予想経路を割り出して。迎撃はそれからよ。」

CIC要員は慌ただしく、解析に入った。

演説会場

「総理、官房長官。」

浜田防衛大臣が緊張した面持ちで、話かけてきた。

「どうした？」

麻生総理がにこやかに問い掛ける。

「北朝鮮がノドン2号を発射しました。4発です。」

浜田防衛大臣の言葉に、2人の顔から笑みが消える。

「それは本当か？」

「もちろんです、総理。我が国の偵察衛星が発射した時の熱源を感じました。しかも、それは九州地区を狙っています。」

「総理、早急に迎撃命令を下しませんと。」

「うん、そうだな。」

「総理、ちょうど良い機会です。大和のESSMで迎撃してはどうですか？」

「そうだな。よし。河口艦長に連絡だ。」

「分かりました。」

浜田防衛大臣はそう言いつと、連絡のため走っていった。

「総理、混乱を招かないように、上手に纏めていただだけませんか？」

河村官房長官が、麻生総理に尋ねた。

「分かった。上手に話そう。」

麻生総理はそう言つと、再びマイクの前へと向かった。

イージス原子力装甲空母大和CIC

「艦長、ご覧ください。」

レーダー員がマウスを操作した。

画面に飛行物体が飛んできた経路が赤い線で示される。

ミサイルは新溪基地を飛び立った後、韓国の西海岸線の上空をかすめるように南下して対馬海峡に抜けていた。

あと10分ほどで九州の上空に到達する。

「次に、予想経路です。」

レーダー員が再びマウスを操作すると、赤い線に続いて黄色の線が表示された。

「ご覧のように、ほぼ直線です。韓国の領空通過を避ける配慮もしておりませんから、おそらくコンピューター入力による飛行経路の指定はできないタイプでしょう。」

「それじゃ、これは早急に迎撃しないとね。」

河口艦長は結論を下した。

そこへ、浜田防衛大臣からの連絡が入った。

演説会場

麻生総理は再び、マイクの前に立ち話始めた。

「皆さん、ただいまよりESSMの試射を行います。イージス原子力装甲空母大和にご注目下さい。」

麻生総理の言葉に、会場の目は大和へと向けられた。

テレビカメラも、大和へと向けられた。

イージス原子力装甲空母大和CIC

「麻生総理、浜田防衛大臣連名で迎撃命令が出されたわ。ESSM発射用意。」

河口艦長の命令が飛ぶ。

「目標ロックしました。」

レーダー員がつげる。

後方左舷のセルが開き、ESSM対空ミサイルが6基現われた。

微妙な時間差を置いて、6基のミサイルが勢いよく飛び出していく。

「次発用意!!」

河口艦長の命令が飛ぶ。

レーダースクリーンに迎撃ミサイルの緑色の線が表示され始めた。

黄色の線と交わるあたりが迎撃場所になる。

「目標到達時間は？」

「約6分です。」

「次発発射しなさい。」

結果を待つてなどいられない。

ミサイルはあと10分もすればやってくるのだ。

次発の迎撃ミサイル6基は、細かな火の粉を撒き散らしながら飛び立っていく。

「一次迎撃ミサイル、目標に到達します。」

レーダー員が秒読みを開始した。

「5、4、3……………」

赤い線が3つ、消滅した。

残るは1つ。

「次、発射！！」

時間的に見て、これが最後だった。

河口艦長に緊張がはしる。

「二次、到達します。」

レーダー員の秒読みが零になった時、赤い線がようやく消えた。

迎撃に成功したのだ。

「やった。」

河口艦長の声は弾んでいた。

演説会場

会場の目は、大和に釘付けであった。

そんな中、河村官房長官が麻生総理の元へ近づいてきた。

「総理、迎撃成功です。」

「そうか、良かった。」

麻生総理は再び喋り始めた。

「皆さん、今しがた大和が発射したESSMはノドンを迎撃しまし

た。
」

麻生総理の言葉に、会場が騒然とする。

「発射されたノドンは4発。全てこの九州地区を狙っていたため、迎撃しました。大和の真価、ここに発揮されしだ。」

麻生総理の言葉で、イージス原子力装甲空母大和の公開式は終わった。

公開式終了後、日本政府にアメリカ政府から正式に要請があった。

電磁カタパルトの輸出をお願いしたいとの事であった。

日本はアメリカ空母のカタパルトをブラックボックス化する事に成功したのである。

閣議召集

2010年4月8日

首相官邸では当然の事ながら、閣議が召集された。

イージス原子力装甲空母大和が完成したのは嬉しいが、北朝鮮の弾道ミサイルの発射は不快なものだ。

国会安全保障に関わる重要な問題だ。

首相官邸閣議室

「さて昨日の北朝鮮によります弾道ミサイル発射を、どう受け止めるかが問題です。」

麻生総理は真面目な口調で言った。

麻生総理は宣戦布告の1種だと、閣議決定すれば有事法制を適応して、開戦する意志だ。

公明党・幸福実現党・民主党も賛成してくれるだろう。

開戦も辞さない、戦後65年で重要な閣議と言えるだろう。

「適切な対応を行わなければ、政府の弱腰を指摘されるかもしれない。私としては早々に有事宣言をし、極東有事を勃発させたいと思うのですが。」

麻生総理ははつきりとした口調で言い切った。

麻生総理は本気だ。

これを察知したのだろう、与謝野財務・金融・経済相が口を開いた。

「まあ、総理の意見は分かるがミサイル発射だけで有事宣言は難しいと思います。過去数回に渡り、ミサイル発射を受けましたが全てにおいて有事宣言をした事はありません。もし今回、有事宣言をするのであれば国民は何故もつと早くに有事宣言をしなかったのかと疑問に思うでしょう。そして尚且つ、我が国は憲法第9条があります。ミサイル発射だけで極東有事まで持つていくのは難しいかと。確かに昨年の、4月5日から国民は国防について考え始めましたが、未だに非戦論者は国民の半数以上を占めています。有事宣言をし、極東有事勃発として賛成するのは残念ながら、一部の国民だけでしょう。国民が一丸となって極東有事勃発を賛成するような何らかの被害が国内で発生しなければいけないでしょう。」

与謝野財務相（今思ったら与謝野さんは財務大臣ですよね。金融・経済相は何かで掛け持ちただけですよね。なら、財務相にします。）の言葉に鳩山総務相が口を開いた。

「では与謝野さんは、極東有事勃発には我が国が何らかの被害を受けないといけないと。そう言う事ですね？」

「そうです。現在の国民は多くが戦後GHQの指示による、平和教育を受けています。そのため、いくらミサイル発射と言っても国民は反対するでしょう。そのためには、真珠湾奇襲のような一撃を我が国が受ける必要があります。」

「そうなる、経済に影響の出ない所で尚且つ、人的被害が少ない一撃ですね。」

二階経産相が腕を組ながら答えた。

「違う。人的被害は多くなければならない。断腸の思いだが。」

与謝野財務相が沈痛な面持ちで反論した。

閣議室を静寂が包み込む。

口を開いたのは、麻生総理だった。

「確かに人的被害は多いほうが、国民感情は極東有事へ傾くと思います。しかしそうなる、まさか自作自演など出来ないですから、北朝鮮の攻撃を待つしかないですな。」

「それなら好都合じゃないですか。F-3を生産する臨時予算案も可決し、生産を開始しましたから全機生産完了で、極東有事を迎えられるわけです。それに10式戦車も生産ラインを終え、続々と日本全土に配備されています。また90式戦車もC4Iシステムや最新電子機器を装備した改良型も続々と生産を完了しています。しかも90式戦車はこれまでの慣例をぶち壊し、本土にも配備を開始しました。防衛大綱を改訂して戦車は上限1000輦としましたので、将来における量産効果も多少なりとも期待できるかと。自衛隊初の有事なので、全力で暴れるように力を蓄えておきたいのですが。」

浜田防衛相が笑顔で答えた。

「そうですね。6月10日にはVSTOL空母伊勢・扶桑が竣工しますし、8月13日にはイージス護衛艦長門・陸奥が竣工しますから戦力は遥かに上昇するでしょう。」

河村官房長官が答えた。

「それでは有事宣言は、北朝鮮による更なる攻撃があつてからと言う事で。攻撃を受け、被害が出ると極東有事勃発と。出来れば8月15日以降が喜ばしいですな。では、閣議決定としたいのですがよろしいですか？」

麻生総理の言葉に閣僚全員が頷く。

「では閣議決定とします。」

麻生総理の言葉で、閣議は終了した。

その後、6月10日にVSTOL空母伊勢・扶桑が竣工した。

これにより、しらね・くらまが退役した。

そして、日本は8月6日。

65回目の広島原爆の日を迎えたのである。

閣議召集（後書き）

次回更新は、8月6日です。

同じ日に更新したいと思います。

8月6日広島原爆の日（前書き）

いやはや、今日は忙しいです。

今から長崎へ出発しないといけませんからね。

チケットの時間が悪かったです。

8月6日広島原爆の日

2010年8月6日

麻生内閣閣僚は広島で行われた、広島平和記念式典に参加した。

午前8時に始まり、午前8時15分。

原爆投下の時刻に黙祷が捧げられた。

午前8時17分

秋葉広島市長による、あいさつが始まった。

「早いもので、太平洋戦争終結から65年となりました。そしてその、太平洋戦争終結の要因となった広島・長崎への原爆投下も65年となります。アメリカによる原爆投下により、広島は廃墟と化しました。これにより我々は核兵器の廃絶を訴え、全世界の核兵器廃絶。全世界の恒久的平和を訴えていき、世界から戦争が無くなる事を切に願います。また我々はオバマジョリティーとして、昨年より一層核兵器廃絶運動を続けてきました。核不拡散を掲げ、核兵器廃絶。そして世界平和。我々は切に願います。最後になりましたが、新たに亡くなられた3150名の方に哀悼の意を表すと共に、ご冥福をお祈りいたします。」

秋葉市長のあいさつは終わった。

秋葉市長は一礼し、席に着いた。

その後、300羽のハトが放たれた。

続いて、小学生児童による平和への誓いが行われた。

「私達は原爆で亡くなられた人達に、哀悼の意を捧げます。私達は世界平和を祈り、世界中から戦争が無くなる事を祈ります。今でも世界では戦争が続き、多くの人達が傷ついています。罪の無い人達が殺されています。世界平和を私達は切に願います。日本のような平和な国が増える事を祈ります。世界に平和を。」

小学生児童による平和への誓いが読み上げられた。

小学生児童は一礼すると、席に着いた。

次は、麻生総理によるあいさつである。

麻生総理は記念碑に一礼して、マイクの前に立った。

そして内ポケットから巻紙を取り出した。

巻紙を広げ、祈願文を読み始めた。

「大東亜戦争による原爆投下から、65年となりました。原爆投下により亡くなられた方々に対して、哀悼の意を捧げると共に原爆投下を行った当時のトルーマン大統領をハーグの国際法廷に訴え、アメリカ政府の謝罪を求めます。」

麻生総理の言葉に、会場が騒然とする。

何せ内閣総理大臣が、歴代総理大臣で初めてアメリカ政府に謝罪を求め、トルーマン大統領をハーグの国際法廷に訴えると言ったのだ。

NHKの生中継を見ている国民も驚いているだろう。

「アメリカトルーマン政府は、原爆投下を容認して我が国に人類初となる、核攻撃を行いました。我が国はそんな国を許してはならない。断固として、立ち向かうべきである。トルーマン政府は我が国にウラン型原爆とプルトニウム型原爆を投下。我が国民を生体実験としたのです。それをトルーマン大統領は投下は日本に本土決戦を諦めさせる為だったと言っています。まさに勝てば官軍とはこの事を言います。自分達が行った大量虐殺を棚に上げ、日本を執拗に非難しました。そのため我々は、やってもいない中国侵略を非難され、一方的要求と決め付けられた対華21カ条の要求をも非難され、朝鮮半島を不当に侵略したと言われる日韓併合は帝國主義だと言われ、創氏改名は強制的だと言われ、南京大虐殺に至っては中国政府に完全に濡れ衣をさせられた。このような事を勝手に言われています。そして不当な東京裁判。国際法を無視し、個人を不当に裁いた裁判です。アメリカが無理やり行った憲法改正や教育勅語、国家神道の廃止。これらも国際法違反です。占領行政下において、占領国は被

占領国に対して恒久法を強制してはならないと、国際法で定められています。このように先勝国は敗戦国をとことん苛めてきます。我々としても黙っているわけにはいきません。原爆投下を容認したトルーマン大統領を戦争犯罪者として、ハーグの国際法廷に訴えろと共に、アメリカ政府による謝罪。中国政府による謝罪。韓国政府による謝罪を求めます。我が国は侵略国家でもなく、また殺人国家でもない。全ては先勝国による、自虐史観を植え込まれた結果だ。勝手に侵略国家と言われて、そんな根拠の無い事を認めるわけにはいきません。我が国は断固とした意志で、立ち向かっていかなければなりません。国民の皆様も、原爆投下と言うアメリカの戦争犯罪をスタート地点として、大東亜戦争について勉強してみてください。我々は65年の長きにわたり、騙され続けてきました。今こそ我々は自虐史観からの脱却し、真の日本人による日本人のための国家を作ってくださいではないですか。真の独立を勝ち取り、国民のための国家を！！自虐史観にとらわれずに、国民を守り、国家を育てていく有意義な日本にしようではありませんか！！それが原爆投下というアメリカの非道により虐殺された日本国民に対する、唯一の我々に残された道です。以上で、私のあいさつとさせていただきます。2010年8月6日内閣総理大臣麻生太郎。」

麻生総理は、一礼するとあいさつを終えた。

会場は盛大な拍手に包まれた。

麻生総理の並々ならぬ決意が、見て取れたようだ。

その会場に田母神俊雄氏が居たのに気付いたのは、麻生総理以下数人だった。

麻生総理が読み上げた、祈願文は田母神俊雄氏が書いたものであった。

麻生総理は、ある事を考えていたのである。

広島平和記念式典は終わった。

8月6日広島原爆の日（後書き）

広島平和記念式典に参加しましたが、どうも核兵器廃絶一色でしたね。
あの市長も面白い事言いますよ。
麻生総理を初

めて生で見たのは嬉しかったです。

次回の更新も、

8月9日長崎原爆の日に更新します。

8月9日長崎原爆の日（前書き）

更新が遅れてすいません。

平和祈念式典

の後から色々あり、たかじんのそこまで言って委員会を見たり、官僚たちの夏を見てたらこんな時間になりました。

時間はあつたんですが、色々問題が……………

まあ、どうぞ

8月9日長崎原爆の日

2010年8月9日

この日も、麻生内閣は全員出席した。

3日前の広島平和祈念式典での、麻生総理のあいさつはその日の内に日本中に知れ渡った。

歴代内閣総理大臣で初めて、アメリカ政府へ戦争責任を問い詰めたのだ。

このあいさつは、その日のニュースで報道され、翌日の新聞でも一面を飾った。

世界中にも、日本国総理の演説として報道された。

そして、8月8日ついにオバマ大統領が日本へ謝罪した。

大統領は翌日の長崎平和記念式典への参加を表明した。

オバマ大統領は8日の演説で、原爆投下を許可したトルーマン大統領を非難した。

戦時とはいえ、非人道的な行為として戦争犯罪人と断言した。

オバマ大統領はそれに加え、ハーグ国際法廷へ日米連名で訴える事を提案した。

そして、8月9日。

オバマ大統領はエアフォースワンで日本へと訪問、長崎平和祈念式典へ参加したのだ。

今回の長崎平和祈念式典は、民放各局も生中継している。

広島での麻生総理の演説が国民の注目を集めたため、民放各局も生中継をする事を決めたのである。

そして今まさに、長崎平和祈念式典が始まろうとしていた。

午前11時2分

長崎へ原爆が投下された時刻。

黙祷が捧げられた。

11時5分

田上長崎市長による平和宣言

「本日長崎は、原爆投下から65年を迎えました。65年の歳月で原爆により亡くなられた方は、15万人を超え、15万2035人となりました。3日前麻生総理による演説で、麻生総理はアメリカ政府に原爆投下に対する謝罪を求めました。そしてついに、先日にオバマ大統領は原爆投下を戦争犯罪と認め、謝罪をして下さいました。我々はこの事を歴史的な出来事とし、後世に語り継がなければなりません。原爆は人類が開発した最悪の殺戮兵器です。この最低最悪の殺戮兵器を、世界中の国が保有しない事を切に願います。核兵器廃絶を現実のものとし、日本が世界に誇る非核三原則を世界に広げ、核兵器の無い世界を達成せねばなりません。我々は出来ず、アメリカ政府からの謝罪を勝ち得たのですから。」

田上長崎市長のあいさつは終わった。

その後、300羽のハトが放たれた。

平和への誓い

被爆者代表が平和への誓いを訴えた。

次はいよいよ、オバマ大統領の演説である。

オバマ大統領は、マイクの前に立ち一礼すると話しはじめた。

「今、私は歴史的場所に立っています。我が国は日本に対して、許されない事をしてしまいました。人類初の原爆投下です。私はその事実を認め、原爆により亡くなられた方に謝罪いたします。原爆投下を認めたトルーマン大統領を戦争犯罪人として、日本政府との連名でハーグ国際法廷に訴える事を提案しました。麻生総理の3日前の演説に、私は正直驚きました。麻生総理は歴代総理大臣の中で、無かったものを持っています。それは、自分の意思を主張すると言う事です。麻生総理は素晴らしい総理です。麻生総理の発言がなければ私は、ここに立っていなかったでしょう。ホワイトハウスで補佐官に長崎で平和祈念式典がありました、と聞いていただけと思います。私は長崎に来て、我が国の罪が重い事を改めて思いました。原爆投下により、15万人以上の方が亡くなられたのです。我が国の罪は重い。これを真に受けとめます。」

オバマ大統領の演説は終わった。

会場は拍手に包まれた。

アメリカ合衆国大統領が、ここまで言うとは思っていなかったのだ。

民放各局の視聴率も上がっているだろう。

次はいよいよ、麻生総理のあいさつである。

テレビを見ている国民も、会場にいる人々も麻生総理のあいさつを注目している。

麻生総理はマイクの前に立ち、一礼した。

そして、内ポケットから巻紙を出して読み始めた。

「まず最初に、原爆で亡くなられた方の御霊に対して哀悼の意を捧げると共に、ご冥福をお祈りします。」

麻生総理は頭を下げた。

「長崎は原爆投下から65年という、節目の年を迎えました。その節目の年にアメリカ合衆国大統領が、長崎に訪問しました。このような素晴らしい事はありません。我々はもっと誇りを持つべきです。世界最強の軍隊を保有するアメリカ合衆国の大統領が、65年前の原爆投下を謝罪し、亡くなられた方にも謝罪しました。これで分かりました。核兵器は保有していても、使用出来ない兵器だと言う事がです。しかし我々人類は、核兵器廃絶を達成する事は確実に無理だろう。」

麻生総理の言葉に、会場がどよめく。

一部からはヤジが飛ぶ。

テレビを見ている左翼の輩も、同様の事だろう。

「皆さんの気持ちは良く分かります。しかし、考えてみてください。現在日本が、この国際社会で残っているのは、アメリカの強大な核の傘のおかげです。そして核兵器は、抑止力として有効なものも事実です。しかし抑止力で保有するのは、聞こえが良いですが、実態は外交交渉の強大なバックボーンとして機能しています。冷静に考えて下さい。国際連合の常任理事国は、第二次世界大戦の戦勝国であるうえに、核保有国であります。アメリカ合衆国・イギリス・ロシア連邦・フランス・中華人民共和国。外交交渉の時、圧力が全く違います。核保有国と核非保有国とは外交交渉力は、絶対に対等になりません。なにせ核保有国のバックボーンには、大量の核兵器があるのです。核非保有国にはそれが無い。そのために、核非保有国は核保有国の圧力に屈しなければいけないのです。核兵器を持たない日本は、アメリカ合衆国・イギリス・ロシア連邦・フランス・中華人民共和国の言う事を聞かざるをえない状況に、置かれているのです。そこで1963年に国際連合でNPT、核拡散防止条約が採択されました。これははっきり言えば、核保有国の核独占条約です。『ちよつと飴玉を与えてやるから、お前たちは核兵器を持たないでくれ。』これが本音でしょ。核兵器は他の通常兵器との最も大きな違いは、核兵器は戦力の均衡を必要としない兵器だと言う事だ。」

会場からは何時しか、ヤジが止んでいた。

全員が麻生総理の話しを真剣に聞いている。

オバマ大統領の顔が、心なしか強張っているのは気のせいかな？

「つまり1発だけでも保有すれば、充分抑止力になるのだ。1発でも核兵器が発射されれば、その被害にはアメリカもイギリスも、ロシアもフランスも中国も耐えられません。アメリカやロシアは、核兵

器を大量に保有しています。北朝鮮が1発の核兵器を持とうとしただけで、世界は大変な騒ぎになりました。1発で、充分なのだ。核兵器で武装した国は、軍事攻撃によって潰す事は出来ないのだ。そこで北朝鮮は躍起になって、核開発を行っている。現在、北朝鮮が核兵器を保有したかは分からないが、北朝鮮にとって核兵器を保有する事は、国家の存亡に繋がる。それに核兵器を保有したてすれば、アメリカが強引に潰しにくる心配が無い。北朝鮮に関連すれば、アメリカにも理由があります。北朝鮮を潰せば、東アジア地域の安定に繋がる。この際はつきり言おう、アメリカは東アジアを安定させたくないのだ。東アジアが安定することは、アメリカにとって少しも国益にはならない。常にどこかに『不安定の弧』を残しておきたいのだ。スクラムを組んでアメリカに、立ち向かってくるような勢力の出現をアメリカは許さないのだ。まあこれは、アメリカの国益を守るうえで重要な事だ。しかし、何時かは北朝鮮を潰さねばならぬ時がくるだろう。国家との存亡がかかった時にだ。その時に、アメリカは日米安全保障条約に基づき、軍事作戦を行ってくれるのか？」

麻生総理の問いに、オバマ大統領が立ち上がり答えた。

「もちろんです。日本が北朝鮮による攻撃を受けたら、我がアメリカ合衆国は連邦4軍の総力をあげて日本を支援する。我が国は東アジアの安定を望む。中東のテロリスト壊滅も優勢課題だ。アメリカは決して日本を見捨て無い。日本は重要なパートナーだ。」

オバマ大統領にしては珍しく、額の汗を拭きながら答えた。

「ありがとうございます、大統領。それでは最後に一言。これは世界も言っておきたい。我が国は非核三原則を固持するのは、一応続けていく。しかし国益によっては核武装もありえる。日本は核兵器

を作れないのでは無い。作らないだけだ。その気になれば、1000でも2000でも作れる。我が国を核武装に向かわせないように。北朝鮮も良く考えるように。」

麻生総理のあいさつは終わった。

会場は拍手の嵐となった。

ヤジを飛ばしていた左翼の輩も拍手をしている。

麻生総理は、非核三原則を固持する姿勢を見せつつも、北朝鮮の対応如何によっては、核武装もあり得ると発言した。

これは、北朝鮮に対しての言葉の抑止力となるだろう。

核開発を続ければ、日本は核武装を行うかもしれない。

北朝鮮は危機に陥ったのである。

8月9日長崎原爆の日（後書き）

そこまで言って委員会を見て、更に思いました。

田母神さんは素晴らしい人です。

田母神さんの著書を読む事を是非とも才
ススメします。

今回投稿したのも、前回投稿したのも田母神さんの著書を見て書いている所が多々あります。
そこは、お気になさらず。

なお、次回更新は8月13日です

イージス護衛艦長門級（前書き）

大変な事になりました。

幸福実現党が、

選挙から撤退するみたいです。

軍

保有を言っていただけに残念です。

八

八艦隊と第二次太平洋戦争は個人的な、裏社会事情により、削除しました。

本当に申し訳ないと思います。

明日には、気を取

り直して新しい新たな小説を投稿します。

イージス護衛艦長門級

2010年8月13日

IHIマリンユナイテッドにて、イージス護衛艦長門・陸奥の公開式が行われた。

長門級は今後の、『空母護衛群』において対空艦の中核として建造された。

麻生内閣は、イージス原子力装甲空母大和を竣工させ、武蔵・信濃を発注している。

これに麻生総理は更に、紀伊・尾張・天城・大鳳・笠置を発注した。

これでイージス原子力装甲空母大和級は8隻となった。

VSTOL空母日向級を合わせると、空母は12隻となる。

麻生総理は『空母護衛群』を12個完成させる予定でいる。

既に、大和級は全て発注し、長門級も残り10隻が発注されている。

そして、イージス護衛艦雪風級も24隻が発注された。

『12個空母護衛群計画』は、2018年に完成予定だ。

もちろん、イージス原子力装甲空母大和級が新たに7隻も竣工し、空母護衛群が12個も完成するのだから人員不足改善が、今後の課題である。

2018年までに、28700人の女性を集めなければいけないのだ。

これについては、ここまでとする。

全ては、第二部での話である。

長門・陸奥は、大和空母護衛群に配備される。

長門は大和空母護衛群配備だが、陸奥は武蔵空母護衛群に配備される。

しかし、武蔵が竣工していないため、大和空母護衛群配備となった。

さてそんな所で、浜田防衛相のイージス護衛艦長門級の概要説明が始まる。

麻生総理は、首相官邸にて田母神氏と会談を行っている。

内容は、自虐教育からの脱却・近隣諸国条項の破棄・教育勅語及び国家神道の復活・日本教職員組合の廃止・核武装等である。

世間には、会談とだけ発表している。

内容は語られる事はないだろう。

浜田防衛相による、概要説明が始まった。

「今日は、イージス護衛艦長門・陸奥の公開式に出席出来た事を、嬉しく思います。麻生総理は田母神氏と会談を行っているため、参加出来ませんので、私が概要説明をさせていただきます。」

浜田防衛相が言い終わると、長門・陸奥が30ノットの最大速力で疾走し始めた。

「イージス護衛艦長門級は、アメリカ海軍のタイコンデロガ級を参考にしていますが、長門級は巨大なものとなりました。全長180メートル・最大幅25メートル・満載排水量13800トン・速力30ノットです。長門級は、統合電気推進によるウォータージェット機関を装備しています。そして、武装です。我が国の最新技術の結晶であります。5インチ連装レーガン1基2門を装備しています。」

浜田防衛相の言葉に、会場がどよめく。

何せ、アメリカが光学迷彩に並んで、躍起になって開発しているものだ。

そのレールガンを、日本が先に完成させ、最新鋭のイージス護衛艦に装備した。

アメリカ軍関係者は、電磁カタパルトと同じく落胆しているだろう。

「レールガン、正式名称はEML（電磁投射砲）と言う。通称レールガンは、伝導体製の2本のレールの間に、同じく伝導体製の弾体を挟み、電流と磁場との相互作用で発生するローレンツ力によって弾体を加速させて、発射する装置である。初速が秒速8・5キロであり、着弾時の終速が秒速3・8キロである。通常の火炮と違い、装薬の爆発による振動の影響が無いので、極めて正確に目標に着弾する。弾着誤差は1メートルも無いだろう。長門級は、レールガンの他に、95式対艦ミサイル4連装発射機2基・350ミリ3連装短魚雷発射管2基・VLS式ESSM対空ミサイル150セル・VLS式J-1対地ミサイル20セルを装備。SH-60Kシーホークを2機搭載している。イージス護衛艦長門級は最新鋭の護衛艦として、イージス原子力装甲空母大和と共に、日本防衛の要として活躍してくれるだろう。」

浜田防衛相が言ったその時、長門・陸奥がレールガンを発射した。

砲弾は遙か、200キロで着弾した。

イージス護衛艦長門級は、本格的な対地攻撃も可能な護衛艦として完成したのである。

終戦記念日（前書き）

靖国神社を参拝出来ました。

やはり、靖国神社は参拝しないといけませんね。

これで家に帰れます。

終戦記念日

2010年8月15日

日本は65回目の終戦記念日を迎えた。

麻生内閣閣僚は、靖国神社を参拝した。

昨年は参拝を取り止めたが、今年は参拝を行ったのである。

国家のために、命を捧げたのだ。

参拝するのは、内閣総理大臣として当然の事である。

むしろ、靖国神社に参拝しなかった総理大臣がいる事が不思議だ。

私も今日で、5度目となるが毎年参拝を続けたいと思います。

なかには、A級戦犯も靖国神社に奉納されていると批判する人がいるのも事実です。

しかし、あの裁判は完璧な国際法違反です。

あのような裁判は、無効とすべきです。

靖国神社参拝をおえた麻生総理達を待っていたのは、多数のマスコミであつた。

「麻生総理、靖国神社参拝の理由は？」

「近隣諸国の反発が大きいと思われませんが。」

「なぜ参拝するのですか？」

「A級戦犯も認めるんですか！！」

数々の質問が麻生総理に飛ぶ。

麻生総理は無視して、政府公用車に向かう。

「総理、お答え下さい。」

「近隣諸国への対応は？」

「終戦記念日に参拝した理由は？」

「靖国神社なんか参拝して良いんですか！！」

記者の言葉に、麻生総理は公用車に入ろうとしたが、振り返った。

麻生総理は、怒りで震えていた。

「君はさっき、何と言った？」

「靖国神社なんか参拝して良いんですか、です。」

「国家・家族を守るために死んでいった人達に、私はありがとうと言いに来たのだ。」

「しかし……………」

「１７時に記者会見を行う。首相官邸で会おう。」

麻生総理はそう言つと、公用車に乗った。

そこで、窓が開いた。

「記者諸君、１７時に首相官邸で会おう。」

「総理。これからどちらへ？」

「全国戦没者追悼式に出席だ。君達も正午には、黙祷を捧げてくれ。」

公用車は走り出した。

麻生総理以下、閣僚はその後、全国戦没者追悼式に参加した。

正午には、靖国神社でのマスコミへの話しが効いたのか、国民の多くが黙祷を捧げてくれた。

時間は進み、17時。

首相官邸にて記者会見が行われた。

「麻生総理が入られます。」

河村官房長官の言葉で、麻生総理が入ってきた。

麻生総理は、国旗に一礼するとマイクの前に立った。

「最初に言うておくが、質問は今日は無しだ。今日は、訳の分からない事を言っている場合ではない。終戦記念日だからな。」

麻生総理はそう言うと、再び話し始めた。

「本日、8月15日で我が国は戦後65周年を迎えました。65年前、我が祖国の旧体制である大日本帝國がアメリカ合衆国に敗北しました。手痛い敗北でした。我が国は国家としての威信を失い、アメリカ合衆国に占領統治されました。その間、我が国は歴史上受けた事の無い、占領政策を受けました。大日本帝國は悪の枢軸と言う、烙印を押され骨抜きにされました。当時のアメリカ合衆国の考えでは、大日本帝國を民主主義国家にする。ファシズムから解放すると言いながらやってきました。悪の大日本帝國を民主主義国家にするとしてです。そして、先程も言ったように歴史上受けた事の無い、占領政策を受けたのです。しかし我が国は、その屈辱をバネにして、高度経済成長を迎え、世界第2位の経済大国となりました。そして、戦後65年を迎えたのです。戦後65年を迎えた現在、我々は危機に直面しています。北朝鮮の核の脅威に直面しているのです。テポドン・ノドンはその殆どが、日本に向けられています。中国の東風も日本に向けられています。我が国は、祖国の存亡がかかっているのです。日本がこのまま亡国に突き進むのか、それとも日本という国家の威信をかけて、戦うか。もちろん、攻撃を受けた時の話ですよ。国民の皆様には、今一度考えてもらいたい。大東亜戦争では、祖国を守るために命をかけた若者がいるのです。日本中の若者達！日本を愛しているか？もしもの時は、命をかけて戦う事が出来るか？ピアスを付けて、アホみたいな事をしている暇があれば、自衛隊に入れ！！二トもだ！！チャラチャラするなら、自衛隊に入れ！！根性を叩き直してもらえらるだろう。特に女性の方の自衛隊入隊を求める。女性の方が男性より、判断力や指揮力があるからだ。はつきり言おう、これからは女性社会になるだろう。女性の方も頑張っていたきたい。祖国を守ろうではないか！！」

麻生総理の記者会見は終わった。

麻生総理の記者会見に効果があったのか、自衛隊への入隊希望者が各駐屯地に集まった。

その殆どが、女性であつた。

男性で集まったのも、真面目そうな者だけであつた。

やはり、ニートやチャラ男はクズだと言う事が分かつた。

領空侵犯

2010年8月16日

石川県の小松基地から、F-3烈風ステルス戦闘攻撃機がスクランブル発進した。

スクランブル発進の理由は、北朝鮮空軍機の領空侵犯である。

地下核実験の前後は、日常的に領空侵犯を繰り返していた北朝鮮空軍機であったが。

4月7日にイージス原子力装甲空母大和が竣工して以降、パッタリと領空侵犯は止んだ。

それから4ヶ月の間、航空自衛隊はもしもの時に備えて、領空警戒飛行を続けていた。

今日は、出撃する前に北朝鮮空軍機が領空侵犯してきたのである。

スクランブル発進したF-3は、北朝鮮空軍機を発見した。

「目標確認。これより接触する。北田、気を抜くな。」

「ラジャー」

エレメントリーダーの塚森三等空佐は、ウィングマンの北田二等空尉に命令を下した。

塚森機と北田機は、その通信の後、通常飛行のフォーメーションから戦闘飛行のフォーメーションに移行した。

ウィングマンは、エレメントリーダーの援護につくのである。

ウィングマンの位置は、斜め後方、エレメントリーダーの角度から10度〜20度。

距離にして数千メートル、高度差は数百メートルである。

北田は北朝鮮空軍機に対して、警告を始めた。

「貴機は日本国の領空を侵犯している。即刻針路を変更し、日本国領空から退去されたし。」

当然の事ながら、反応は無い。

「MiG29か。」

塚森は、呆れ顔で見つめた。

MiG29。

ソ連のミグ設計局が開発した戦闘機だ。

ロシアでの愛称は『ラーストチュカ（燕）』である。

日本ではNATOコード『ファルクラム（天秤の中心部）』の名で知られている。

いわゆる第4世代戦闘機だ。

北朝鮮空軍では、わりと新鋭に近いMiG29だが、第5世代戦闘機であるF-3烈風の敵では無い。

「警告射撃の許可を求む。」

塚森は基地の地上管制官に許可を求めた。

「……………」

返事はない。

「繰り返す。領空侵犯機は、北朝鮮空軍機と判明。機種はMiG29。警告に従わず。繰り返す、警告射撃の許可を求む。」

「……………警告射撃を許可する。」

「了解した！！ありがとー！！」

塚森は早速、北田に命令を下す。

「北田、聞いただろ。警告射撃の許可がおりた。北朝鮮空軍に見せてやれ。」

「リーダー、本当にやるんですか。」

「当たり前だろ。俺たちや日本の領空を守るんだ。田母神閣下も言っただろ？領空侵犯機はただちに撃ち落とせって。」

「確かにそうですね。分かりました。」

「よっしゃ！！その意気だ。」

2機はMiG29と向き合う形となった。

「リーダー、これじゃヤバいんじゃないですか？」

ウィングマンの北田が言ってきた。

「大丈夫だ。」

「しかし、もし撃墜でもしたら。俺達は戦犯ですよ？」

「馬鹿野郎！！俺達は自衛官だ！！日本を、日本国民を守るのが仕事だ！！」

「了解!!」

「それでいい。」

そこへ、アラームが鳴った。

「リーダー、敵がロックしましたよ。」

「ああ、そうだな。」

「敵ミサイル発射!!」

「回避しろ!!」

2機は、回避機動に入った。

塚森は、最大まで速度を上げた。

F-3はスーパークルーズ能力を備えているため、巡航速度でマッハ1・8もある。

アフターバーナーを使った最高速度はマッハ2・5である。

北朝鮮のミサイルを余裕で振り切れるスピードだ。

案の定、3分ほど飛行するとミサイルが燃料切れのために墜落した。

しかし、MiGはまだ追い掛けてくる。

「管制官聞こえるか、こちら塚森。攻撃を受けた!!繰り返す、ミ

サイル攻撃を受けた。」

「了解。反撃を許可する。今すぐ撃墜しろ。こちらの計算した予想針路だと、敵は原発を狙っている。あと10分の距離だ。」

「なに！？本当か？」

「本当だ。繰り返す、ただちに撃墜しろ！！航空幕僚長直々の命令だ！！」

「了解！！」

塚森は北田にすぐさま命令を下す。

「北田！！今すぐ撃墜しろ！！」

「えっ！？」

「撃墜しろ！！」

「ラジャー！！」

北田機は、スピードを上げてM i Gへと向かった。

北田機

「ロックオン。」

北田は、M i Gをみつめる。

「A A M - 4 発射!!」

北田はミサイル発射ボタンを押した。

F - 3 には、パイロットがターゲットを見るだけでロックオンできる、J H M C S（統合型ヘルメット照準装置）を装備している。

F - 2 2を凌ぐ格闘性能を備え、尚且つJ H M C Sを備えたF - 3は、最強の第5世代戦闘機に相応しいだろう。

M i Gは、回避機動に入ったがA A M - 4に捕まり、撃墜された。

航空自衛隊は設立以来初めて、敵機を撃墜したのだ。

領空侵犯（後書き）

現実の航空自衛隊にも、このような対応を切に願っています。

衆議院外交防衛委員会

2010年8月17日

当然のように、衆議院外交防衛委員会が開かれた。

内容は、航空自衛隊による北朝鮮機撃墜についてだ。

「……ですから、麻生総理の考えには賛同出来かねます。麻生総理は憲法第9条を無視し、迎撃を行わせました。これは明らかに戦争行為です。麻生総理以下、航空幕僚長・撃墜した航空自衛官は殺人罪で起訴されるべきです。」

社民党の福島党首の話が終わった。

麻生総理達、閣僚は笑っている。

ここまできたら、笑うしかないだろう。

そんな中で、福島党首は真面目な顔だ。

「委員長、これに答えなくてはいけないのかね？」

麻生総理が委員長に、問い掛けた。

「一応決まりですので。」

「そうか。なら答えよう。」

麻生総理はそう言うと、手を挙げた。

「麻生太郎君。」

麻生太郎はマイクの前に立ち、話し始めた。

「福島党首は、馬鹿ですか？」

麻生総理がはつきりと言った。

委員会室に緊張が走る。

「総理がそんな事を言っただけなのか!!」

「暴言だ!!」

「非常識だぞ!!」

野党議員から、次々とヤジが飛ぶ。

「総理が馬鹿と言っただけじゃない、とは憲法にも法律にも書いてませんよ?それよりも、人が話してるのにヤジを飛ばす方が、非常識じゃないんですか?」

麻生総理の言葉に、ヤジが止んだ。

「福島党首、もしあの時撃墜しなければ我が国の原発に、北朝鮮機が攻撃を仕掛けていたでしょう。そうなれば、チェルノブイリの二

の舞になつたかも知れないですよ？それでも貴女は、憲法違反と言うんですか？そんなに貴女は、憲法を守りたいのか。国家国民を守るより、貴女は憲法を守るのですか？国民が核放射能を浴び、ミサイル攻撃を受け、テロが起きて国民が死んでも、貴女は憲法を守りますか？私は政治家は、国民を助ける仕事だと思っている。なのに貴女は、国民より憲法を取った。マツカーサーに押し付けられた、国際法違反の憲法を取ったのだ。貴女こそ、殺人罪で起訴されるべきだ。日本が攻撃されても、憲法を守ると言う事は国民を見殺しにする事だ。そんな人が政治家として、私の前に立っている事が非常に残念に思う。福島さん、今ならまだ間に合う。社民党を解散し、議員辞職しなさい。」

麻生総理はそう言うと、席に着いた。

麻生総理が席に着いたと同時に、ヤジが再び飛んだ。

「独裁政治だ。」

「あんたに、総理の資格は無い。」

「総辞職しろ。」

「軍国主義の再来だ。」

そこでヤジの支援を受けつつ福島党首が、再びマイクの前に立った

「麻生総理の発言に対して、深い憤りを感じます。麻生総理は……

……」

まだまだ、委員会は続きそうだ。

同時刻尖閣諸島上空

航空自衛隊石垣島警戒隊所属P-1哨戒機は、尖閣諸島上空を飛行していた。

中国軍原潜による、領海侵犯は週に1回のペースで行われている。

その為、P-1を飛ばし警戒飛行を続けているのだ。

警戒飛行は、尖閣諸島周辺を飛ぶだけであった。

しかし、今日は違った。

尖閣諸島に近付くと、中国軍機が飛来したのだ。

スホイ33フロンカーであった。

中国海軍初の航空母艦鎮遠の艦載機である。

飛来してくる数は、4機。

対するは1機。

しかも対潜哨戒機であるため、空戦など出来ない。

フランカーは嘲笑うかの様に、P-1の針路を妨害する。

「緊急連絡、緊急連絡。尖閣諸島上空にフランカー4機。繰り返す、尖閣諸島上空にフランカー4機。中国海軍の航空母艦鎮遠が進出してきた模様。」

通信員がそこまで言った時、フランカーがミサイルを発射した。

「敵、ミサイル発射！！繰り返す、ミサイル発射！！」

「回避しろ！！」

「中国海軍航空母艦鎮遠を確認。尖閣諸島に停泊中。繰り返す、鎮遠は尖閣諸島に……………」

無線はそこで切れた。

ミサイルがP-1に命中。

P - 1は木っ端微塵になった。

搭乗員10名も死亡した。

午後3時の悲劇であつた。

30分後

未だ衆議院外交防衛委員会の続く、委員会室に秘書官が入ってきた。

秘書官は麻生総理にメモを渡した。

『石垣島警戒隊より報告。1500時、同警戒隊所属のP - 1哨戒機が尖閣諸島上空を警戒飛行中、中国海軍航空母艦鎮遠艦載機により撃墜された模様。搭乗員10名は死亡。』

麻生総理は読み終わると、それを河村官房長官に渡した。

河村官房長官の顔が強ばる。

「総理、緊急事態発生ですな。」

「官房長官、これは大変な事になったな。」

麻生総理はそう言うと、マイクの前に立った。

「委員長、審議は中断してほしい。」

委員会室が騒めく。

「先程、緊急事態が発生しました。我が国の対潜哨戒機が尖閣諸島上空で、中国海軍航空母艦鎮遠艦載機に撃墜されました。搭乗員は残念ながら、全員死亡しました。」

民主党・社民党・共産党の議員が一斉にヤジを飛ばす。

「今後の事もあるので、審議を打ち切らせてもらいたい。」

突然、激しいブーイングが起こった。

野党の国対委員長が委員長に詰め寄る。

委員会の継続を訴えている。

野党議員からは更にヤジが飛ぶ。

「尖閣諸島など中国にくれてやれ!!」

共産党議員の発言に、麻生総理は反論しかけたが論戦している暇は無い。

「委員長、1時間ほど休会してほしい。経緯を把握した上で、後ほど皆さんに説明申し上げます。」

委員長は、詰め寄る国対委員長達に囲まれながら休会を宣言した。

荒れる委員会室を尻目に、麻生総理以下閣僚控室に引き上げた。

「これは完全な、戦争です。対潜哨戒機を撃墜したのですから。早急に、呉の大和空母護衛群に出撃を命じて、鎮遠を撃沈するんだ！」

与謝野財務相にしては珍しい、声を荒げた。

「確かに、哨戒機を撃墜したんですからそれ相応の対応はしないと いけませんね。外務大臣。中国大使館に連絡してくれ。」

「もうしました。中国大使館との連絡もあつたので、報告が30分後だったのです。中国大使館によりますと『哨戒機は我が国の領土を偵察し、領空を侵犯したから撃墜した。日本に謝罪を求める。』との事です。」

中曽根外務相が、答えた。

「もう我慢出来ません。総理、進出企業に退去勧告を出すべきです！！」

鳩山総務相も、声を荒げながら言った。

「それが良いでしょう。日本企業が中国沿岸部に相次いで進出した結果、内陸部との貧富の格差はますます拡大したし。日本企業が引き上げて困るのは中国側だ。年8%もの経済成長を遂げている中国に、日本の進出企業ひ旨味を失いつつあります。進出当初は、安い労働力などが魅力的でしたが、最近では原料や製品の輸入費を考えると割にあわなくなっている。進出企業の多くが収支トントンか、すでに赤字に転落している。ここで進出企業を引き上げ、中国から撤退すれば中国経済は、大きな打撃を受けるだろう。」

与謝野財務相も、鳩山総務相に賛同した。

「分かりました。二階さん、進出企業に退去勧告を出して下さい。私の名前と今後中国に残れば、身の安全は保障出来ないと添えてです。」

麻生総理の言葉に、与謝野財務相が続いた。

「ついでに、中国へのODAを停止するのも良いと思う。中国へのODAを停止し、インド等の東南亜細亜各国へのODAを増やしたら良い。中国はバブル期の日本と同じです。弾ける前に引くのが優しさと言うもんです。代わりにインド等の東南亜細亜各国を推薦する。これらの国は、今からが高度経済成長期の日本のようになる。その時に起こった公害対策等のノウハウも教えれば、環境対策にもなるだろう。」

与謝野財務相の話は、まさに名案であった。

「良い考えですね。二階さん、その事も付け加えて下さい。東南亜細亜へのシフトチェンジです。」

麻生総理の言葉に、二階経産相は控室を出ようとしたが、秘書官が慌てて入ってきた。

「総理、中国政府からの正式な回答です。」

「読んでくれ。」

「『我が国の領空を侵犯した機を撃墜するのは、当然の事だ。日本政府は靖国問題を含めた謝罪を行う事を望む。そして、過去の侵略戦争についても謝罪するように。』以上です。」

今までと同じ対応であった。

午後4時30分

再び、委員会が開かれた。

麻生総理は、これまでの経緯を話している。

「中国政府は我が国へ謝罪せず、逆に我が国へ謝罪を求めてきました。もう我慢の限界です。進出企業を引き上げ、ODAも停止すべきです。」

麻生総理の言葉に、社民党・共産党以外の議員が立ち上がった。

「中国の態度は許せん!!」

「進出企業を引き上げさせよ!!」

「ODAも停止しろ!!」

「国交など断絶しろ!!」

「戦争だ!!」

「東南亜細亜各国へのODAを増やせ!!」

「東南亜細亜各国と対中大同盟を結べ!!」

「中国は敵だ!!」

「大和空母護衛群を尖閣諸島に派遣しろ!!」

それは麻生総理が見た事の無い、委員会の光景であった。

そしてこの光景は、全国でも生中継されていたのだ。

午後6時

読売テレビニュースリアルタイム

『本日午後3時頃、尖閣諸島上空にて航空自衛隊石垣島警戒隊の対潜哨戒機P-1が、中国海軍航空母艦鎮遠艦載機によって撃墜されました。P-1の搭乗員10名は全員、死亡した模様です。また、衆議院外交防衛委員会を行っていた麻生総理は、緊急閣議を開きました。その後の外交防衛委員会では、中国への進出企業の引き上げ・ODAの停止が決まりました。これにより進出企業は、インドを始めとする東南亜細亜各国へのシフトチェンジを行う事になり、ODAも東南亜細亜各国へ回される事になりました。……………！？ここで速報です。大和空母護衛群が呉を出港した模様です。大和空母護衛群が呉を出港しました。目的地は、尖閣諸島と思われます。』

衆議院外交防衛委員会（後書き）

さて、大変な事になってきました。

日本の危機（前書き）

私はやっぱり嫌われてるみたいです。

『日本黒示録』

と言う、私を非難する小説が遂に登場しました。

こ

こまで嫌われると、逆にスッキリしますね。

だから私もその

小説に、祝辞を送りました。

まあその『日本黒示録』を読

んでみてください。

戦後教育をストレートに受け、日教組と教

育委員会に洗脳され、自虐史観を植え込まれた残念な作者が書いて
ます。非常に残念です。日本人が愛する

祖国日本を非難する小説を書くとは。もはや皇国は、亡国に向かっ
ているのでしょうか？

日本の危機

2010年8月18日

日本が中国への進出企業を引き上げると発表してから一夜明けた。

中国からは、続々と企業関係者が出国している。

進出企業各社は人材とデータだけでなく、全ての資本を引き上げ始めた。

これは無論政府の命令である。

進出企業は与謝野財務大臣の言った通りの状況であった。

しかも収支トントンは一部の企業だけで、殆んどの企業が赤字だった。

その為進出企業は、喜んで引き上げに応じたのだ。

首相官邸閣議室

閣議室では、閣議が召集された。

「午後１５時現在、７割の進出企業関係者が引き上げました。総理の言われた通り、人材とデータのみの引き上げを全企業が行っています。建物は残念ながら残すしか出来ませんが、建物何か安いものです。政府がその補償金と新規建設の補助金を出す事も考えてみてはどうでしょうか。」

中曽根外務大臣はそう言うと、席に着いた。

「進出企業関係者はどれくらいで、全員引き上げられる？」

「今晚午後２２時には全員引き上げられます。」

与謝野財務大臣の質問に、中曽根外務大臣が答えた。

「良かった。これで一安心ですな。」

麻生総理が安堵の溜め息を吐く。

「ところで、大和空母護衛群はどこまで進んだ？」

麻生総理が浜田防衛大臣に聞いた。

「現在沖縄を出発して、尖閣諸島から東へ３００キロ地点に位置しています。速度２８ノットで急行しています。３００キロですので、双方共に艦載機の範囲内です。」

「まさか、空襲を受ける事はないでしょうね？」

石破農水大臣が聞いた。

「大丈夫です。E-2Cホークアイが警戒飛行を続けています。何かあればすぐにF-3が飛びますよ。それに大和はイージス艦でもありますし、長門・陸奥の最新鋭イージス護衛艦も配備されています。3隻もイージス艦がいますから、絶対に大丈夫です。」

「そうか。それなら大丈夫だな。」

石破農水大臣も安心したようだ。

「総理、尖閣諸島に着いたらどうしますか？鎮遠を攻撃しますか？」

浜田防衛大臣が、麻生総理に聞いた。

「大丈夫だろ。あんな旧式の改修空母が大和に太刀打ち出来る訳が無い。艦載機にしても同じだ。どうせ尻尾を巻いて逃げるだけだ。」

「確かにそうですな。逃げるだけですな。ハハハ。」

浜田防衛大臣が笑った。

それにつられ、他の大臣も笑った。

そこへ。

「閣議中失礼します。」

秘書官が慌てて入ってきた。

「どうした？」

麻生総理が尋ねる。

「テレビをご覧ください。」

秘書官がテレビの電源を入れた。

『速報です。中国政府が日本人の出入国を禁止させました。』

「なんだと!？」

閣僚達はどよめく。

しかしニュースは続く。

『中国政府はこれだけで無く。日本資産の凍結を発表しました。……!？中国外務省の報道官による記者会見の映像が届きました。ご覧ください。』

アナウンサーの言葉で、画面が切り替わった。

『我が政府は、日本政府の大和空母護衛群派遣を受け、日本人の出入国の禁止・日本資産の凍結を宣言します。日本政府は愚かにも、

我が国の固有の領土である尖閣諸島をあたかも自国領であると主張していました。これに対し、我が国は領空侵犯と領土偵察を行われたので、先日日本の航空機を撃墜しました。それにも関わらず、日本政府は自分勝手にも進出企業の引き上げとODAの停止を強硬しました。これはその制裁と受け取ってもらいたい。日本政府には、大和空母護衛群の引き上げ・尖閣諸島の領有権を我が国のものと認める・ODA停止の撤回・企業引き上げの撤回・我が国への謝罪。以上5つを要求します。5つ全てを受け入れれば、我が国は制裁を解除する。」

ここで映像が終わった。

再びアナウンサーが映し出された。

『麻生総理の強い意志を中国に見せて下さい。私は麻生総理を応援します。』

秘書官はここで、テレビの電源を切った。

「総理、非常事態ですよ。すぐに記者会見を開かないと。」

「そうだな。記者会見を開く。今から1時間後だ。」

「分かりました。」

秘書官はそう言うと、閣議室を出ていった。

「皆さん記者会見を開きますが、私の意志を先に伝えておきたい。」

麻生総理は閣僚全員を見渡した。

「私は中国の要求を受け入れる気は無い。中国を大々的に非難しますが、それで良いですね？」

麻生総理の言葉に、全員が頷く。

その顔は、怒りで震えていた。

「ありがとうございます。」

麻生総理は立ち上がり、深々と頭を下げた。

午後１７時

予定より１時間遅れて、記者会見が始まった。

「それでは記者会見を始めます。総理、お願いします。」

河村官房長官の言葉に、麻生総理は歩き始めた。

そして国旗に一礼し、マイクの前に立った。

「記者諸君、最初に謝る。申し訳ない。色々やる事があったのだ。」

麻生総理はそう言つと、頭を下げた。

麻生総理は気を取り直して、話し始めた。

「記者諸君そして、中継を見ている国民の皆さんも知つて思うが、中国が五箇条の要求を突き付けてきた。だが私はつきりと言つ、中国の五箇条の要求は絶対に受け入れない。」

麻生総理のはつきりとした言葉に、記者からは拍手が起こる。

「中国ほど、自分勝手な国家は存在しないだろう。尖閣諸島は日本の領土である。中国のものでは無い。だから、大和空母護衛群は絶対に引き上げ無い。中国は先に我が国のP-1対潜哨戒機を撃墜したのだ。そして、未だに中国海軍の空母鎮遠は領海侵犯を続けている。引き上げるのは中国の方だ。中国に警告しておく。12時間以内に引き上げない場合は、大和空母護衛群に撃沈命令を下す。我が国は空母鎮遠の艦載機に攻撃を受けたのだ。専守防衛の範囲内である。もう一度言つ。引き上げるのは中国の方だ。12時間以内に引き上げなければ、大和空母護衛群に撃沈命令を下し、大和艦載機と長門・陸奥の艦砲射撃で鎮遠を撃沈する。残り11時間58分37秒だ。ODAの停止と進出企業の引き上げは、中国が我が国のP-1を撃墜した事に対する、当然の制裁である。むしろ中国は国交断絶に成らなかつただけ、有り難く思わなければいけない。我が国が中国へ謝罪する事案は1つも無い。我が国が中国に悪い事をしたか

？こう言つと中国は『日本が我が国へ侵略戦争を行った！！南京での虐殺を忘れるな！！』と言つたろう。しかし、我が国は中国を侵略した事実は無い。そして南京虐殺を行った事実も無い。これについては、近い内に田母神俊雄氏直々の講演で語ってもらふ。なお、この講演は民放各局に生中継してもらふ。国民の皆さんも、正しい歴史教育を受けるつもりで見てもらいたい。」

麻生総理は訴えるように、語った。

「さて、中国政府の制裁についてだが。これは到底許されるものではない。自国が先に仕掛けておきながら、我が国の責任だと言う態度は誠に許しがたい。このままでは両国は近い将来、国交断絶となるだろう。」

麻生総理は、沈痛な面持ちで話した。

「しかしそれも覚悟の上だ。我が国ははっきりと断言する！！北朝鮮・中華人民共和国・大韓民国はテロ国家である！！」

麻生総理の発言に、会場に緊張がはしる。

「もはや言つまでも無い。北朝鮮は我が国の国民を拉致している、立派なテロ国家だ。中華人民共和国も我が国の尖閣諸島を不当に自国領と言っている。そして事ある事に、日本に難癖付けてくる。大韓民国も我が国の領土である竹島を占領し、独島と呼んでいる。しかも対馬まで大韓民国は支配しようと考えている。こう考えれば、3国をテロ国家と呼ばずして、何と呼ぶ。忘れてはならないのは、ロシアだが。我が国はロシアに『第二次樺太千島交換条約』を提案する。」

麻生総理の言葉に記者からは、驚きの声があがる。

「簡単な事だ。帰属未定となっている樺太南部をロシア領とし、千島列島を我が国の領土と認めて貰うのだ。北方領土問題の解決に、良いと思う。ロシア政府の返答を待つ。」

麻生総理の提案に、記者達は拍手を送る。

長年解決出来なかった、北方領土問題に終止符を打つ事が出来るかもしれない。

この『第二次樺太千島交換条約』は、ロシアとの関係に一石を投じる大きな提案である。

「残り11時間30分を切った。中国政府の行動を待つ。そして、ロシア政府からの良い返事を待つ。私の記者会見は、終わりにしたい。」

記者会見は終わった。

この記者会見が、内外に大きなインパクトを与えたのは当然だろう。

日本の危機（後書き）

次回は、北朝鮮のテロです。

日露合意・朝鮮統一

2010年8月20日

ロシア連邦のプーチン首相が、日本に自ら訪れた。

2日前の麻生総理の提案に、プーチン首相及びロシア政府は受け入れた。

単純過ぎると思われるが、ロシア政府としても日本と対立しているのは、国益を害すると考え始めたのだ。

日本としても、北朝鮮と仲の良いロシアと友好関係を築く事で、ロシアに北朝鮮の暴走を防いでもらいたいと考えている。

しかしロシアは、北朝鮮との関係を度重なる核実験を受けて、距離を置くようになった。

日本とロシア。

両国の関係は如何に？

首相官邸会議室

日露首脳による会談が始まった。

マスコミは冒頭の挨拶部分を撮らせて、退室させた。

「総理、最初に我が国は中国からの資本引き上げを開始し、北朝鮮との関係を根本的に見直します。」

プーチン首相の言葉に、麻生総理達は驚いた。

プーチン首相の話は続く。

「中国の日本に対する行為は、まさに傍若無人です。中国との関係が続けていくのは、危険です。それなら中国から資本引き上げを行い、日本又は亜細亜諸国に変更するのは当然です。北朝鮮ですが、もはや我が国としても脅威としか言い様が無いです。遂に核兵器を保有した国に、支援するのは脅威を増大させるだけです。核兵器を持ったなら、余計に友好関係を築く方が良いと思われませんが、あんな独裁国家と友好関係を築くのは危険です。それなら同じ民主主義国家の日本と、友好関係を築く方が両国の国益になります。」

プーチン首相が話し終えたため、麻生総理が話し始めた。

「ありがとうございます。我が国は2日前の記者会見でも言いましたが、北朝鮮・中国・韓国をテロ国家と断定しました。中国に対する対応は断固とした、対応をしています。2日前に尖閣諸島へ大和空母護衛群を派遣し、中国海軍を追い出しました。北朝鮮に対して

も、核兵器保有国とはいえ断固とした対応をします。最悪の場合、戦争も覚悟します。核兵器保有国を2カ国も相手にしますから、アメリカは形的には我が国の味方になると思いますから、貴国には是非とも形だけでも我が国の味方になって貰いたい。」

麻生総理はそう言つて、頭を下げた。

「もちろんです。アメリカは日米安保条約で、形的には味方になると思います。我がロシアは、全面的に協力します。何せ、サハリンが全部我が国の領土になり、日本企業の1部も我が国に進出してきます。それに日本との貿易は今後、確実に増加していきます。そのためなら、次の戦争に極東軍が参戦しても、戦費は取り替ええます。貴国も我が国も資源輸出国です。戦費はあまり痛手にならないでしょう。」

プーチン首相の言葉に、麻生総理は笑みを浮かべた。しかし、2人は極東戦争が勃発する前提で話しを進めている。

なるほど、これはマスコミに見せられない。

会談後の首脳宣言では、第二次樺太・千島交換条約を締結した、とだけ言える。

なかなかの策士だ。

「では、第二次樺太・千島交換条約は締結と言う事で良いですね？」

「もちろんです、総理。この条約に反対する理由は全く無いです。」

プーチン首相は立ち上がり、手を差し出した。

麻生総理も立ち上がり、手を取った。

その後、条約の細部について2時間程話し合われた。

会談も終わりに近付いた時、プーチン首相が秘書官に書類を配るように命じた。

麻生総理達に渡された、日本語の書類には『南北朝鮮統一近し』と書かれていた。

「総理、やはり驚かれましたね。」

プーチン首相が笑いながら言った。

「私も聞いた時には、驚きました。これは昨日情報が入りました。我が国のSVR（対外情報庁）が入手した超極秘情報です。どうやら昨年の北朝鮮による3度目の核実験が、直接の原因らしいです。韓国は北朝鮮の核兵器に屈したらしいです。北朝鮮はテポドンはもとよりノドンを保有しており、仮に核兵器を小型化出来た日は終わりです。そうなる前に韓国は、北朝鮮に擦り寄ったでしょう。」

プーチン首相の言葉に、麻生総理は深く溜め息を吐いた。

韓国をテロ国家と言ったのは、脅しをかけるためであった。

北朝鮮・中国と仲良くしていくのか、それとも我が国と仲良くするのか。

気付かせるために言ったのに、韓国は北朝鮮との統一へ向けて準備していたのである。

麻生総理のショックは大きい。

「アメリカのCIAからは、連絡がありませんでしたが……」

河村官房長官の言葉に、プーチン首相が答える。

「どうやら、韓国のKCIAが総力をあげて情報を秘匿したみたいです。」

「それなら、アメリカにも知らせないと。統一となれば、在韓米軍の事も考えなければ、なりませんからね。」

麻生総理が言う。

「そこで総理に提案なのですが。」

「何でしょうか？」

「この朝鮮統一を、JCIAと呼ばれる貴国の内閣情報調査室の成

果として、発表したらどうでしょう？」

プーチン首相の言葉に、麻生総理は驚いた。

「良いんですか？貴国のSVRが苦勞して手に入れた、情報をですよ？」

「大丈夫です。確かにこの情報はSVRが総力をあげて、手に入れたものです。しかし、そんな面子に拘っている場合ではありません。朝鮮統一国家は、必ず貴国と我が国の脅威になります。韓国も射程1500キロの巡航ミサイルを有しているため、非常に脅威です。それに貴国の内閣情報調査室が発表すれば、世界は『日本の内閣情報調査室は優秀だ』と思うでしょう。もしも信じなければ、我が国も発表します。」

プーチン首相の言葉に、麻生総理は立ち上がって頭を下げた。

「ありがとうございます。そこまで思っていただけにいるとは。」

「いえいえ。それよりも大事なのは、朝鮮統一国家成立時期です。我が国の情報では、1ヶ月を切ったようです。」

麻生総理達に激震が走る。

「それは本当ですか？」

「今年の11月から交渉が始まって、9ヶ月が経過しました。そろそろ結果が出ると思います。」

「危ないですね。我が国も対応を急がなければ。」

「はい。これからが問題です。」

麻生総理とプーチン首相は、書類に目を落とした。

数分後、麻生総理が口を開いた。

「プーチン首相。貴国は、第二次樺太・千島交換条約を締結する。極東戦争勃発時には、我が国を支援してくれる。朝鮮統一国家に対しては、断固とした対応をする。以上で良いですね。」

麻生総理の言葉に、プーチン首相が頷いた。

「そうです。」

2人は立ち上がり、握手をした。

1時間後。

記者会見が開かれた。

内容は、第二次樺太・千島交換条約の締結。

そして、朝鮮統一国家の成立が近い事。

内閣情報調査室が入手した情報だと発表したので、プーチン首相も形だけでも驚いて対応した。

記者会見の後、韓国・北朝鮮は開き直った。

統一が近い事を宣言した。

プーチン首相は記者会見を終えると、帰国した。

麻生総理は、午後9時にオバマ大統領と電話会談を行った。

オバマ大統領は日本の内閣情報調査室が掴んだ、朝鮮統一の情報についての詳細な情報を求めた。

麻生総理はそれに、プーチン首相から貰った書類をもとに説明した。

オバマ大統領は驚きつつも、内閣情報調査室の快拳を讃えた。

そして、CIAの総力をあげて更に調べると言った。

2010年8月23日

日本とロシアは、国際連合に対し正式に申告した。

樺太はロシア領、千島列島は日本領であると。

国際連合はこれを承諾。

正式に、両国の領土線が決まった。

2010年9月1日

世界が注目するなか、朝鮮統一国家が誕生。

朝鮮半島の分断は解消された。

朝鮮民族・1つの国家・2制度の連邦国家の誕生であった。

この朝鮮統一国家は、『高麗民主主義大韓連邦共和国』と呼ばれる。

大統領には驚く事に、金正日が就任した。

日露合意・朝鮮統一（後書き）

多少……いや、もの凄くプーチン首相が現実と違いますが、ご了承ください。

高麗民主主義大韓連邦共和国からも分かるかも知れませんが、話しの本筋を変更しました。

当初は、北朝鮮と中国だけが敵でしたが韓国もと、思いまして。

この小説の敵は、中国と高麗民主主義大韓連邦共和国です。

那覇壊滅

2010年9月5日

世界を再び激震が走った。

中国・台湾が統一されたのだ。

これは非常事態である。

高麗民主主義大韓連邦共和国はもとより、中国・台湾まで統一された。

これにより、強烈な反日統一国家が2カ国誕生した事になる。

日本では当然の如く、閣議が開かれた。

首相官邸閣議室

閣僚達は、一様に緊張した面持ちであった。

「皆さん、大変な事になりました。」

麻生総理が話し始めた。

「馬英九総統は確かに、統一を進めていましたがまさか実現するのは。高麗民主主義大韓連邦共和国と並び、もう1カ国反日統一国家が誕生してしまいました。大中華主義を掲げる中国と台湾が統一した事により、中国の領土回復計画が進むかもしれません。」

「それは非常事態です。領土回復計画が進められれば、亜細亜の殆どが中国領になります。」

浜田防衛相が言った。

「その、領土回復計画とは何かね。」

「領土回復計画とは単純に言えば、『中国の領土を、阿片戦争時代以前の状態に戻す。』こんな計画です。」

与謝野財務相の質問に、浜田防衛相が説明する。

「中国が『正当な返還の権利』を主張している領土は、タイ王国を除く、東南亜細亜の全域・フィリピン諸島の一部・沖縄を含む琉球列島・ロシアの沿海州から樺太・尖閣諸島です。台湾は統一されませんでしたので、領土回復計画は一歩進んだ事になります。」

浜田防衛相の言葉に、麻生総理達は絶句した。

麻生総理も領土回復計画は知っていたが、ここまでのものとは知らなかった。

「領土回復計画は何としても、防がねばなりません。我が国は亜細亜諸国と、対中大同盟を結ぶ事も視野に入れないといけません。」

麻生総理の言葉に、閣僚達は頷く。

「確かに総理の言われる通り。情勢は極めて芳しくありません。中華人民共和国と高麗民主主義大韓連邦共和国に我が国は包囲されたものです。亜細亜大戦になるのを覚悟で、対中大同盟を結ぶのも必要でしょう。ロシアは味方についてくれそうなので、インドも味方についてくれれば、それに越した事はないです。」

「そうですね。中曽根さん、亜細亜諸国に対中大同盟締結について外務省から通達してもらえますか？」

「分かりました。」

麻生総理の言葉に中曽根外務相は頷いた。

「もはや、極東有事は避けられなくなってきましたな。」

鳩山総務相は溜め息を吐いた。

「こうなれば、受けて立つのみです。挙国一致で、未曾有の危機に立ち向かっていくしかないです。」

麻生総理が言うと、秘書官が慌てて入ってきた。

「閣議中に失礼します。緊急事態です。」

「どうした？」

麻生総理が聞いた。

「防衛省衛星局から報告です。高麗共和国が、地下ミサイル基地の発射口を開きました。」

閣議室が騒めく。

「地下ミサイル基地でしたので、事前に察知出来ませんでした。ミサイルは確認したところ、合計30発です。ミサイルは全てノドンとの事です。」

「射程1300キロ、中距離弾道ミサイルだな。」

浜田防衛相が言った。

「浜田防衛相、日本海にいる第3護衛隊群だけで対処出来るか？」

麻生総理が尋ねた。

「難しいですね。30発も一気に迎撃した事は過去に無いですからね。私としては、海上自衛隊のイージス艦全てを迎撃にあたらせるべきだと思います。」

「私もそう思います。全弾迎撃を望むなら、イージス艦全てを投入するべきです。」

石破農水相も賛同した。

「分かった。防衛相、第1、第2、第4護衛隊群と大和空母護衛群を大至急、日本海に急行させよ。」

「了解いたしました。」

浜田防衛相はそう言つと、閣議室を出ていった。

「それでは、閣議を終わります。」

麻生総理の言葉で、閣議は終わった。

30分後

浜田防衛相の命令で、海上自衛隊の護衛群は全速力で向けて、出港した。

2010年9月6日

全速力で日本海に集結した護衛群だが、高麗共和国はノドンを発射しなかった。

その為、今日にも発射すると思われる。

大和空母護衛群も日本海に待機していた。

イージス原子力装甲空母大和CIC

「艦長、本当に高麗はノドンを発射するのでしょうか？」

副長の森理恵子一佐が聞いた。

「さあね、分からないわ。」

河口未来海将補が答えた。

河口海将補は、艦長と大和空母護衛群の司令官を兼務している。

そのため、階級が海将補となったのだ。

「しかし発射したとなれば、総力をあげて迎撃しなければいけませんね。」

「そうよ。全弾発射してでも、迎撃しなきゃ。」

河口艦長はそう言うと、コーヒを飲んだ。

「みんな良い？こういう時こそ、冷静にならないといけないの。焦ったら、正しい判断が出来ないからね。」

河口艦長の言葉に、全員が頷く。

「艦長！！第1早期警戒管制飛行隊より連絡です。ノドンが発射されました！！！」

CICに緊張が走る。

「砲雷長、迎撃用意。」

「了解。」

上山砲雷長が復唱し、迎撃用意に入る。

「長門・陸奥に命令、迎撃用意。」

河口海将補は今度は、司令官として命令する。

「全艦、迎撃用意完了。」

森副長が言った。

「分かったわ。全艦、ESSM発射!!」

大和空母護衛群はもとより、4個護衛隊群が迎撃ミサイルを発射した。

日本の保有するイージス艦が全て、日本海に集結していたため、全弾迎撃に成功した。

しかし、これは畏だったのである。

中国第2砲兵第1師団が東風21ミサイルを発射したのである。

発射数は4発である。

イージス原子力装甲空母大和CIC

「急ぐのよ！！主軸がいかれても良いわ、とにかく急ぐのよ！！」

河口艦長が声を荒げる。

「艦長、これは畏だったのでは無いでしょうか？」

森副長が言った。

「どう言う事？」

「つまりは、中国と高麗共和国は協同作戦を行ったのです。」

「……………」

「高麗共和国がノドンを発射準備を行い、海上自衛隊のイージス艦全てを日本海に誘導する。高麗共和国は北海道方面に発射する、そうすればイージス艦も北部に集結する。そこで中国が東風21を発射する。多分標的は関西か九州・沖縄でしょう。PAC-3も北部方面に移動させられました。私達は、畏にはめられたのでしょう。」

森副長が言い切った。

「それが本当なら、ヤバいわね。日本が3度目の核攻撃を受ける事になるわよ。」

「はい。」

「なら、言う事は1つね。」

河口艦長の言葉に、森副長は頷いた。

「全速前進!!」

沖縄県那覇市

「遅いなあ、何やってたのよ。」

「ごめん！ちょっと、服装に手間取って。」

少年が少女に頭を下げる。

「まあ良いわ。初めてのデートだからね。」

「ありがと。本当にありがと。」

「さあ、何処に行く？」

2人は腕を組んだ。

「何処でも良いです。」

「フッフ、分かったわ。それなら……………」

「どうかした？」

「あれ。」

「え？」

少年が目をやった瞬間、東風21ミサイルが那覇市に命中した。

4発全てが命中した。

1発250キロトンであるため、1メガトンの威力である。

那覇市は壊滅した。

日本は3度目の核攻撃を受けたのである。

那覇壊滅（後書き）

こうするしか、開戦になりません。

日本が3度目の核攻撃を受

ける事になってしまいました。

沖縄県那覇市の皆様。

小説の世界とは言え、申し訳ありません。

立ち上がる日本

午前11時30分

『那覇核攻撃される!!』

この情報は、30分後には世界の知る事となった。

当然ながら、これが世界に与えた衝撃は大きい。

日本が2度ならず、3度目の核攻撃を受けたのである。

世界は日本の対応に、注目している。

午前11時50分

当然の如く、首相官邸では緊急の閣議が召集された。

「これはもはや是非も無い!! 明らかな戦争行為だ!! 早急に開戦

すべきだ!!」

与謝野財務相にしては珍しく、怒りを露にしていた。

これは当然である。

閣僚の中で落ち着いているのは、麻生総理ただ1人である。

「まあ与謝野さん、落ち着いてください。これはある意味で、チャンスですよ?」

麻生総理の言葉に、閣僚達は聞き耳をたてる。

「今回の核攻撃を受けて、私は国民に『憲法第9条破棄・改正案』を国民投票で決めたいと思います。」

「そうですね。確かに今回の核攻撃はチャンスと、受け取れます。」

中曽根外務相が答えた。

「国民投票を経て、新憲法第9条公布まで私は1週間でやりたいと思います。開戦は9月15日です。」

麻生総理はそう断言した。

閣僚達も頷く。

「失礼します!!!緊急事態です!!!」

秘書官が慌てて、閣議室に入ってきた。

確かにそれは緊急事態の知らせであった。

午後12時30分

麻生総理の緊急記者会見が始まった。

国内のマスコミは当然ながら、海外からのマスコミも多数出席している。

3度目の核攻撃を受けた日本の総理大臣が、何を言うのか。

それが記者達の関心事であった。

十中八九、非核を訴えると思っているだろうが。

しかし、麻生総理にそんな甘い考えは無かった。

「麻生総理、お願いします。」

河村官房長官が言うと、麻生総理は国旗に一礼し、マイクの前に立った。

「本日我が国は、人類史上初の3度目の核攻撃を受けました。これは明らかに我が国に対する挑戦です。高麗民主主義大韓連邦共和国と中華人民共和国は戦争を望んでいるようです。このような国を野放しにしておけば、世界は核の脅威にさらされ続けます。現に沖縄に続いて、グアムも核攻撃を受けました。先程オバマ大統領から、連絡がありました。」

この言葉に、会場は驚きに包まれる。

アメリカ軍の軍事拠点2つが壊滅した事になる。

世界はこのまま、核戦争に突入するのか？

「グアムを攻撃したのは夏級原子力潜水艦だ。1発の威力が2メガトンのSLBMが3発着弾した。グアムは那覇と同様に、壊滅した。一連の核攻撃は亜細亜大戦勃発への引き金を、中国自ら引いた事になる。オバマ大統領とブーチン首相と電話会談をした結果、両国が昨年来に核軍縮で削減された核兵器を我が国が保有する事となった。」

会場は騒然とする。

何せ日本には非核三原則を固持している。

それを破って、核保有とは。

「我が国が核攻撃を受けた理由。それは我が国が核を保有していないからだ。グアムが核攻撃を受けたのは、単に戦略爆撃機の基地を潰したかったからだろう。なお、オバマ大統領は核による反撃は行わないと言っている。核兵器を保有するにあたり、我が国は宣言する。今後我が国に核攻撃を行えば、その国の首都はもとより主要都市全てに対して、核攻撃を行う。Z機がそれを務める。」

「Z機とは何ですか？」

最前列の記者が尋ねた。

「Z機とは、B-777ジャンボジェットを改造したものだ。100機のうち、60機を爆撃機に、40機を掃射機として改造した。掃射機とは20ミリガトリングガン100基を機体の下面に並べたものだ。これは全自動ターゲット追尾装置も装備している。これにより、あらゆる迎撃機・対空ミサイルから防衛する事が可能だ。もちろんこれは、改造しただけの機体であるから、『新富嶽』を開発している。これはアメリカ空軍のB-52を参考にして開発しており、完成すればこれを凌ぐ性能を持つ事になるだろう。」

「我が国のB-52を凌ぐ？」

アメリカ人記者が質問した。

「まあ、予定だ。予定は未定と言う言葉がある。まだ分からないだろう。ただステルス能力はB-52を確実に凌ぐ。何せF-3があるからな。そのステルス能力をそのまま新富嶽に使う。」

「分かりました。」

アメリカ人記者は頷きながら、席に着いた。

「そしてこれからが、重要である。今回の核攻撃を受けて、日本国憲法第9条破棄及び新第9条改正についての、国民投票を行いたいと思う。もちろん国会でも投票するが、国家の非常事態である。各党の寛大な対応を望む。」

遂に出た。

日本が平和ボケから、立ち上がる時が来たのである。

「この新第9条に改正されたら、我が国は国家防衛の為に再軍備を宣言する。これは独立国家として、当然の事である。現在保有している、VSTOL空母日向級とイージス原子力装甲空母大和も、Z機・核兵器。そしてH-2A弾道ミサイル。これらは抑止力として保有する。我が国はこれらを保有するが、攻撃するか攻撃する意志がある国にのみ使用する。我が国は覇権国になるつもりは、毛頭無い。ただ、自分の国を自分で防衛するだけだ。国民の皆様はもとより、世界の皆様にもご理解いただきたい。現在の敵は、高麗民主主義大韓連邦共和国と中華人民共和国だ。この悪の枢軸を叩き潰すのだ！沖繩を壊滅させた罪は重い！相当なる覚悟で、悪の枢軸は事にあたらねばならないだろう。」

麻生総理はそう言つと、出口へと歩き始めた。

「総理、H-2A弾道ミサイルとは？」

「JAXAが昨年退役した、H-2Aロケットに1トン弾頭を搭載したものだ。H-2BロケットがJAXAの主力となったため、改造したのだ。現在300基配備している。その内の50基をアメリカとロシアから貰う、核弾頭を搭載する。」

そう言つと、麻生総理は会場を出ていった。

記者達は慌てて、電話を掛けはじめた。

号外の準備である。

午後3時

中国政府は声明を発表。

それは『自国領である、沖縄とグアムへ核ミサイルの発射実験を行った。』と言つものであった。

これは世界から猛烈な批判を受ける事となった。

2010年9月7日

衆議院本会議にて、憲法第9条破棄及び新第9条改正案の審議が始まった。

昨日の夜から国対委員長達が話し合って、委員会審議を飛ばす事になった。

これは当然の事である。

3度目の核攻撃を受けたのだ。

のんびりしている場合ではない。

例のごとく、社民党・共産党は反対したが自民党・公明党・幸福実現党・民主党・改革クラブ・みんなの党が賛成したため、いきなりの本会議となったのだ。

反対した社民党・共産党は、マスコミに猛烈に批判された。

国民の感心は大きく、本会議の中継の視聴率は高かった。

2010年9月8日

衆議院本会議にて、『憲法第9条破棄及び新第9条改正案』が可決された。

同時に『非核三原則破棄案』も可決された。

両案は13日の国民投票により、正式に決まる。

2010年9月13日

国民投票が行われた。

結果は両案とも、80%の賛成を受けて可決。

即日施工された。

立ち上がる日本（後書き）

もしかしたら次回、開戦です。

毎日更新したいと思います。

シルバーウィークですので、

新日本軍

2010年9月14日

午前6時

麻生総理はホテルの1室で目覚めた。

日本の新たな1日が始まる。

JRもスタートし、高速にも車が走っている。

そんな1人1人の国民は、先日の国民投票に日本を変える1票を投じた。

『憲法第9条破棄及び新第9条改正案』と『非核三原則破棄案』が可決されたのである。

日本が真の独立国に遂になれたのだ。

憲法第9条改正はもとより、非核三原則が破棄された事はIAEAをはじめ、世界各国に驚きを与えた。

しかしこれは、当然の事と受け入れられた。

何せ日本は3度目の核攻撃を受けたのである。

アメリカ・ロシアが核軍縮を行った余剰核を、日本が保有する事になったのだ。

昨日の国民投票で非核三原則破棄が決まってから、アメリカ・ロシアから輸送機がひっきりなしに日本と本国を飛びかっている。

世界第3位の核保有国になるのは、確実である。

日本も最大の抑止力が外国製と言うのは情けないので、核開発を世界に宣言して急ピッチで行っている。

「グアムが核攻撃を受けた時のオバマ大統領の対応は危なかった。」
麻生総理が呟いた。

確かに危なかった。

オバマ大統領はグアムが核攻撃を受けたと知ると、B-1Bランサー・B-2スピリット・B-52ストラトフォートレスによる核攻撃を開始すると、電話会談の時に明言したのだ。

麻生総理は慌てて、その攻撃を止めるように言った。

オバマ大統領は当然の如く、拒否した。

「殺られたら殺りかえす、これは基本である。」

こう言い、核攻撃を開始すると更に強く言ったのだ。

これに麻生総理も独特の話し口調で、更に説得を続ける。

『中国の人口は13億近くおり、核攻撃で何千人国民を失おうと大したことは無いです。かつて毛沢東は、いざ核戦争となっても我が国は数億の人口があるので、数百万人失ってもかまわない。こう言い切りました。中国は歴史的に人命の酷く安い国です。貴国の優秀な国民の命をそのような国の国民の命と引き換えにする事は出来ません。貴国が世界一の大国の地位から転落すると、中国が台頭してくるかも知れません。そうならない為にも冷静な対応をしていたいただきたい。』

麻生総理の言葉に、オバマ大統領は考え込んだ。

数分後にオバマ大統領は再び口を開いた。

『確かにその通りだ。ミスター麻生、貴方の言う事は正しい。危うく我が国民を更に死なせる結果になりかねなかった。ありがとう。国民には私自身が、説得していく。ありがとう。』

オバマ大統領はそう言うと、電話を切った。

「流石はオバマ大統領だ。国民を説得する事に成功したのだからな。」

オバマ大統領はその電話会談の後から、早速国民への説得を開始した。

アメリカ国民は基本的に、『殺られたら殺りかえす』の考えを持っている。

この考えを持つ国民を説得するのは、大変な事であった。

しかし麻生総理の話しをオバマ大統領は持ち出し、国民を説得してまわった。

そのおかげで、国民も殆どが冷静な考えを持つようになった。

しかし報復は当然だ。

国民はもとより、オバマ大統領も通常兵力での反撃を明言した。

これにはロシアも参加する。

ロシアへの見返りは、関東（旧満州）のロシア併合であった。

これは日米露の秘密会談で決定した事だ。

ロシアは昔から露骨で、自国の利益しか考えていない。

その為に亜細亜大戦に引き込むには、それ相応の餌が必要となるのだ。

そこで関東の併合を認めたのだ。

第二次樺太・千島交換条約に調印したのも、樺太油田の権益が全て手に入るから調印したのだろう。

まあ何はともあれ、北方領土も奪還し、千島列島まで日本は手に入れたのだから両国の利益になったのは確かだ。

形だけでも、仲が良ければそれにこした事はない。

「総理、そろそろ官邸に戻りませんと。」

秘書官が部屋に入ってきた。

「そうか。確か、国家安全保障会議だったな。」

「そうです。」

「なら急いづ。」

麻生総理はホテルを後にした。

午前9時

首相官邸のオペルームでは、国家安全保障会議が召集された。

顔触れは全閣僚と国家公安委員長・警察庁長官・海上保安庁長官、そして『日本軍』からは統幕長・幕僚幹部達が出席している。

これは有事……、いや戦時の時の会議だ。

麻生総理が口火を切った。

「さて皆さん、いよいよ明日が開戦となりました。戦後65年、平和ボケ国家と言われてきた我が国が中華人民共和国と高麗民主主義大韓連邦共和国に対して、正義の鉄槌を下す時が来たのです。」

「いよいよこの時が来ましたな。日本軍諸君も嬉しいだろう。」

与謝野財務相が、統幕長に笑いながら言った。

言われた統幕長は、額の汗をハンカチで拭きながら答えた。

「自衛隊……、違いました日本軍としてもデフコン2つまりは、準戦時体制に入りました。空軍は全機整備を完了しており、Z機も万全です。海軍連合艦隊も、全て日本海に展開を完了しております。アメリカ海軍第7艦隊は東シナ海に、ロシア海軍極東艦隊は連合艦隊と同じく日本海に展開を完了しております。陸軍はH-2A弾道ミサイルの発射準備を完了しております。開戦の1番槍は、このH-2A弾道ミサイルです。更に遠征揚陸用の第50師団を新規に創設しました。この第50師団は、2個歩兵連隊・1個野砲大隊・1個高射野砲大隊・1個戦車大隊・1個ヘリコプター大隊を配下にします。陸軍最強の師団といえます。」

連合艦隊は護衛隊群を統合して、連合艦隊としたのである。

今朝の新聞にも『日本軍復活』の一面の下に、『新連合艦隊復活』の文字があった。

「そうか。明日の戦争には準備は万全と言う事だな。しかし統幕長、新第9条に改正されたのだから、遠慮せずに堂々としてくれ。」

「了解しました。」

統幕長はそう答えるしか、出来なかった。

ここで新第9条を説明する。

日本国憲法第9条

1・日本国民は国際平和を誠実に追求する。その国際平和及び自国の平和を維持する為、平和を脅かす存在を排除する為、国家の発動たる自衛権及び交戦権を確保する。
その為、海空陸からなる軍隊を保有する。

2・日本の直接的、間接的に脅威となる国は総力を上げて攻撃を行う。

その為に、戦域は国内のみならず海外もその範囲とする。
また必要とあれば、陸軍の派遣もあり得る。

ざっと、こんな憲法となった。

旧第9条とは比べ物にならないほど、現実的な第9条となった。

「中曽根さん、アメリカはあの要求を受け入れてくれたか？」

麻生総理が中曽根外務相に聞いた。

「はい。受け入れてくれました。エセックスを3億ドルでレンタルしてくれるようです。ペンタゴンも寛大な対応をして下さいました。」

「

「本当ですか！？それは凄い事です。これで朝鮮半島への本格的な戦力投射が可能です。第50師団が編成されたのに、これがレンタルされなければ意味がないですからね。」

浜田防衛相は喜びの声をあげる。

「それですが、総理に提案が。」

海上幕僚長が立ち上がりながら言った。

「何だね。」

「まずはこれを。キミ、配ってくれ。」

海上幕僚長が言うと、女性士官が書類を配り始めた。

「総理にご提案なのは、『新型強襲揚陸艦建造計画』と『12個空母艦隊計画』・『原子力潜水艦建造計画』です。」

「ハハハ、こりゃまた金のかかる計画ですな。」

与謝野財務相が笑いながら言った。

「海上幕僚長。この計画を提案した理由は？」

麻生総理が質問する。

「『新型強襲揚陸艦建造計画』は我が海軍の保有する強襲揚陸艦が、中途半端な性能しか無い事です。主力の大隅級でも大した戦力は投射出来ません。そこでアメリカ海軍のワスプ級並みの強襲揚陸艦を建造するべきです。次の『12個空母艦隊計画』ですが、まあこれは『12個空母護衛群計画』を改名したのですが、この計画は、空母の建造は進めますがその護衛艦を倍にするものです。」

「倍にする？」

森法務相が質問する。

「要はイージス巡洋艦長門級とイージス駆逐艦雪風級の建造数を倍にすると言う事です。長門級を12隻の建造から24隻に、雪風級を24隻の建造から48隻にすると言う事です。これにより1艦隊に長門級を1隻から2隻に、雪風級を2隻から4隻に増やす事が出来ます。これで備えは万全です。」

「まあ確かに、空母の護衛艦は多い方が良いですね。」

金子国交相が言った。

「そういう事です。続きまして、『原子力潜水艦建造計画』です。これは簡単です。蒼龍級をスターリングエンジンから原子炉に換装するのです。それに水中ステルス能力を強化する。こうすればアメリカ海軍のシーウルフ級並み性能を持った潜水艦になるはずです。再び連合艦隊をアメリカに並ぶ艦隊に復活させるのです！！」

「海上幕僚長。君は日本を世界一の大国にしようと言うのかね。」

麻生総理が冷たく言い放った。

「違います。アメリカ1国だけが世界一の大国なら、アメリカの1極支配が続きます。そうなると間違った考えの時に意見を言える国が無くなります。そうならない為にも、我が国がその役目を買うのです。」

海上幕僚長の断固とした意思に、麻生総理は大きく頷いた。

「よく言った。それならその計画を全て認める。与謝野さん、財源の方をよろしくお願いします。」

「わかりました。」

与謝野財務相も頷いた。

そこへ秘書官が慌てて入ってきた。

「総理、これを。」

秘書官はメモを麻生総理に渡すと部屋を出て行った。

「皆さん。対中対高麗大同盟が正式に締結されました。」

「おおー!!」

拍手が起きる。

「正式な同盟締結国は日本を筆頭に、アメリカ・ロシア・インド・フィリピン・ミャンマー・タイです。インド・フィリピン・ミャンマー・タイは既に軍を動かしています。明日の開戦には、これらの国は陸軍しか間に合いませんが、3日後には海軍も参加出来ます。」

「やりましたな、総理。」

鳩山総務相が言った。

「これで亜細亜大戦は何とか行けるでしょう。皆さん、明日からは気を引き締めて頑張っていきましょう。」

各員は一樣に頷いた。

戦後65年。

日本は再び『安全保障の為の戦争』を開始するのである。

新日本軍（後書き）

次回こそ遂に、開戦です。

の活躍をご期待ください。

復活した日本軍と連合艦隊

開戦

2010年9月15日午前9時

首相官邸オペルーム

亜細亜大戦勃発まで、3時間となった。

首相官邸オペルームでは、開戦前最後の国家安全保障会議が開かれた。

はっきり言えばこの亜細亜大戦は、日本国として初めての戦争となる。

前の戦争は大日本帝国が行った戦争だ。

日本と言う1つの単位で見れば、65年振りとなるが。

まあ何はともあれ、国家安全保障会議が開かれた。

「皆さん、遂に開戦まで3時間となりました。我が国としての威信

を取り戻す時です。」

麻生総理は一言一言噛み締めながら言った。

「統幕長、全軍の計画は万全か？」

「はい。」

統幕長は立ち上がると、大型液晶モニターの前に立った。

「正午の開戦と同時に、我が軍は総攻撃を開始します。種子島のミサイル基地からH-2A弾道ミサイルを10基を竹島に、20基ずつ平壤と北京に発射します。その後、日向空母打撃群と伊勢空母打撃群で、竹島の高麗軍を攻撃。これを殲滅します。そこに民間フエリーをレンタルし、陸軍歩兵部隊1個連隊を輸送します。竹島奪還作戦はこのような物です。」

日向空母打撃群と伊勢空母打撃群は、日向と伊勢だけではなく、

日向空母打撃群には、日向と山城。

伊勢空母打撃群には、伊勢と扶桑。

2隻ずつのVSTOL空母が配備されている。

これは現在の対応だがもしかすると大和級全艦が竣工しても、2隻ずつの日向級配備は変わらないかもしれない。

こうなると再び、『12個空母護衛群計画』は『10個空母打撃群（空母艦隊）』に改名されるかもしれない。

「よし。それなら初期作戦は万全だな。竹島奪還後は、どのような作戦だ？」

「まずは高麗を打破します。Z機による朝鮮半島の軍事基地全てを爆撃します。大和空母打撃群と空軍も空襲を行います。これには第7艦隊とロシア極東艦隊も参加します。この間に、ロシア陸軍とインド・タイ等の亜細亜各国陸軍が、中国に侵攻します。中国の高麗支援を阻止する作戦です。この間に、陸軍の第50師団・アメリカ陸軍から第2歩兵師団と第6騎兵旅団が釜山に上陸します。アメリカ陸軍が投入する、第2歩兵師団と第6騎兵旅団は旧在韓米軍です。本来海兵隊が上陸作戦を行います。が、那覇への核攻撃により沖縄の在日米軍は事実上壊滅しました。放射線汚染は、沖縄全土に広がっています。死者は50万人に達しようとしています。医療チームも多数現地入りし、手当てを行っています。死者は増える一方です。」

統幕長は絞り出すように言った。

「沖縄県民の仇を取るのだ。」

麻生総理ははっきりと言った。

「沖縄県民の仇を取り、中国と高麗に制御の鉄槌を下すのだ。」

閣僚や統幕長達は頷く。

「それでは、これで国家安全保障会議を終わります。」

麻生総理の言葉で、国家安全保障会議は終わった。

正午

日本陸軍のH - 2 A弾道ミサイル攻撃により、亜細亜大戦が勃発した。

H - 2 A弾道ミサイルのCEPは僅かに、5センチ。

北京に発射されたH - 2 A弾道ミサイルは、北京軍区の誇る精鋭2個機甲師団を粉砕した。

新型の99式戦車も弾道ミサイルの直撃には耐えられなかった。

平壤に直撃したのも同様で、平壤守備隊を粉砕した。

竹島の攻撃は凄まじかった。

竹島守備隊の建物はもとより、警備艇20隻も轟沈した。

守備隊隊員は幸運にも建物外にいたため、負傷者しか出さなかった。

午後1時

日向空母打撃群・伊勢空母打撃群からF-35が出撃した。

4隻合計60機が竹島へと向かった。

1305時

「全機攻撃開始!!」

日向戦闘攻撃機隊長の命令で、竹島への攻撃が始まった。

このF-35は日本がアメリカから輸入して、独自に改良したものである。

現在三菱重工業に対して、F-3の垂直離艦用への改修を命じている。

この改修が難航しているのは、事実だ。

F-35の空襲は、はっきり言えば虐殺であった。

H-2A弾道ミサイル攻撃により重火器は破壊され、自動小銃と手榴弾のみであった。

これで航空機に対抗しろと言う方が無理である。

高麗軍守備隊は、僅か10分で全滅した。

午後4時

民間フェリーが陸軍1個連隊を輸送。

竹島に上陸。

日本は竹島奪還を果たしたのである。

開戦（後書き）

竹島奪還を果たしました。

次回は、釜山上陸作戦です。

釜山沖海戦

午後6時

イージス原子力装甲空母大和CIC

大和空母打撃群司令長官の河口未来少将は、作戦書を読んでいた。

釜山上陸作戦は午後9時開始の予定である。

しかし釜山上陸の前に、海軍（主力は旧韓国海軍）を壊滅させる必要がある。

その理由は大きく分けて、2つある。

1つ目は、海軍基地が釜山にあるためだ。

上陸地点に敵の海軍基地があるため、早々に破壊する必要がある。

2つ目は戦後の亜細亜における、パワーバランスの確保だ。

再び『世界三大海軍国』の1国としての栄光を取り戻すべく、日本海軍連合艦隊を被害皆無・高麗共和国と中国の海軍壊滅、という状況を作らなければいけない。

壊滅と言っても、パワーバランスが日本に傾いていれば良いから、優先すべき目標は大型艦艇である。

中国が躍起になって建造している、空母4隻も当然ながらその目標に入っている。

「まずは高麗海軍壊滅作戦ね。」

「はい。」

河口長官の言葉に、艦長の森理恵子大佐が返事をする。

役職であるが、さすがに兼任は疲れるだろうと言う事になり、森理恵子大佐が艦長に昇格した。

「長官、それですと早く命令を出さないと。高麗海軍壊滅作戦は私達の仕事です。米第7艦隊と露極東艦隊が釜山沖に集結する前に、壊滅しておかないと。」

「分かってるわ。」

河口長官は森艦長の言葉に頷くと、航空団司令の石川早苗大佐に命令を下した。

「早苗ちゃん、レディルームでのブリーフィングが終わり次第、攻撃隊出撃よ。」

「分かりました。」

石川大佐はそう答えると、艦内電話で命令を伝え始めた。

第1航空団第1戦闘攻撃飛行隊レディールム

「……………分かりました。」

雪江美鈴大尉は、そう言っていると受話器を置いた。

そして期待の眼差しで見つめる部下達に、命令を伝えた。

「噂をすれば、出撃命令が出たわよ。私達第1航空団第1戦闘攻撃飛行隊は、高麗海軍攻撃に出撃するわよ。」

「……………了解!!」……………」

雪江大尉の言葉に、9人の部下は喜びの声をあげる。

飛行甲板

第1カタパルトに雪江大尉の乗るF-3烈風戦闘攻撃機が設置されている。

すでに最終チェックも終わり、ジェットファストディフレクターJBDFもせり上がっている。

「いよいよね。」

雪江大尉がそう言うと、カタパルトクルーがシューター（発艦士官）にサムズアップを送り、シューターは片膝を付き中指と人差し指で艦首を指す。

『大尉、射出します。』

「分かったわ。」

カタパルトランチクルーが雪江大尉に伝え、射出ボタンを押す。

電磁カタパルトは僅か2秒で200ノットまで加速させ、機体を自動的に射出させる。

電磁カタパルトはレールに、機体と繋がったシャトルと異なる電極を流すことにより、シャトルを走らせる仕組みになっている。

圧力蒸気をため込む必要のある蒸気カタパルトと異なり、スイッチだけで電気を送る事が出来るので、これまでよりリアクションタイムが短くなり、重量の異なる発艦機をより短い時間で発艦させる事が出来る。

この電磁カタパルトを装備出来た理由はタービンから繋がる、新型ジェネレーターの能力が高いからである。

高度8000メートル

『大尉、聞こえます？』

「ええ、聞こえるわ。」

雪江大尉は返事をする。

声の主は、先に出撃していたE-2Cホークアイの管制官である。

『現在敵は、25ノットで私達の艦隊に向かっていきます。敵レーダーはF-3ER陣風電子戦攻撃機のジャミングとAGM-88HARM対レーダーミサイルにより制圧しました。なんちゃってイージスのセジョンデワン級も本来の性能を出せないはずです。頑張っ

ください。』

「了解。」

雪江大尉はそう答えると、部下達に命令を伝えた。

「敵はセジョンデワン級を主力としているわ。私達の任務はこのセジョンデワン級を叩く事よ。」

「了解」「了解」「了解」「了解」「了解」

勢いのある返事が、返ってくる。

「美鈴さん。攻撃も良いですけど、私達の護衛も頼みますわよ。」

第101戦闘攻撃飛行隊隊長の相澤結衣大尉の声である。

「分かってるわよ。任して。」

「期待してるわ。」

相澤結衣大尉率いる飛行隊はF/A-3震電戦闘攻撃機が配備されている。

今回の高麗海軍壊滅作戦の第1次攻撃隊は、第1戦闘攻撃飛行隊と第101戦闘攻撃飛行隊が努める。

この空襲により、最低でもフリゲートを撃沈するのが目的である。
その後、長門と陸奥の艦砲射撃で止めをさすのだ。

艦隊空襲は一方的な戦いであった。

烈風のJ-1巡航ミサイル攻撃から始まった空襲だが、敵の防空システムは有効に機能しなかった。

陣風のジャミングと対レーダーミサイル攻撃が効いていた証拠である。

高麗海軍の対空ミサイルはミサイルと呼べる代物ではなかった。

ホーミング能力を欠いていたのだ。

陣風はピンポイントジャミングを行って、対空ミサイルとしての能力を奪ったのだ。

そのような状況で、対空能力の無くなった艦隊への空襲は訓練と同じであった。

震電のJ-1巡航ミサイル・JDAM5001b誘導爆弾・CBU-87クラスター爆弾攻撃は、高麗海軍艦艇を『海に浮かぶ鉄の箱』に変えた。

30分に及ぶ攻撃を終えると、攻撃隊は大和へと引き上げた。

残されたのは機関室まで破壊され『海に浮かぶ鉄の箱』となった高麗海軍艦艇であった。

その5分後。

長門と陸奥の艦砲射撃が始まった。

レールガンの威力は凄まじく、1撃で沈めていく。

午後7時3分

高麗民主主義大韓連邦共和国海軍水上戦闘艦壊滅。

攻撃隊出撃

午後7時45分

上陸前の、空襲作戦が始まろうとしていた。

釜山沖

ここに米第7艦隊が到着した。

第7艦隊は既に2つの、CTFを壊滅させられている。

CTF - 74とCTF - 79である。

CTF - 74は潜水艦部隊であり、司令部は横須賀にあつたため無事であつたが、その指揮下の潜水艦部隊がグアムを母港としているため、核攻撃を受けて全滅した。

しかも運悪く、核攻撃を受けた時にシーウルフ級2番艦コネチカット・3番艦ジミーカーター、バージニア級1番艦バージニア、オハイオ級2番艦ミシガンが停泊しており、此等も全滅した。

特にジミーカーターはNavySEALS隊員が乗り込んでいたため、彼等も死亡した。

高麗共和国と中国を牽制する目的で配備したが、核攻撃により全滅したのだ。

今のところ、アメリカ政府はこの事を隠蔽している。

それでもう1つのCTF-79は、海兵隊上陸部隊である。

海兵隊が壊滅したのも、痛い打撃であった。

沖縄に在日米軍の殆んどが集結しており、そこが核攻撃を受けるとはペンタゴンも考えていなかった。

ペンタゴンの高官は『こんな事なら、日本全土に基地を分散していれば良かったよ。』とある記者に言ったそうだ。

しかし沖縄が、極東のキーストーンであるのは変わり無かったため、分散は考えもしなかったようだ。

CTF-70ジョージワシントン空母打撃群CG63カウペンス

カウペンスCICでは、艦長のアレックス大佐が不機嫌そうにコーヒーを飲んでいた。

「まさか女に命令される日が、訪れるとは。偉大なる合衆国海軍第7艦隊の名が泣くぜ。」

アレックス大佐が不機嫌な理由は単純明解。

第7艦隊の指揮官に史上初めて、女性が就任したからである。

「しかし艦長、仕方ないですよ。今や時代は男女同権の時代です。軍隊だけ、男達の世界ってのは、嫌ですからね。」

「まあな。野郎だけじゃ、航海はつまらないからな。色気が必要だ。そう考えるなら、良いな。」

「でしょ？」

「ああ、良いぞ。女歓迎だ。どんどん入ってきてほしいな。」

「はい。」

「ハハハハ。そう考えれば楽だ。副長、コーヒーをいれてくれ。」

「分かりました。」

副長はそう言うと、アレックス大佐からコーヒーカップを受け取った。

「あれ、ポットにも無いですね。」

「本当か？」

「はい。食堂に行って足してきます。」

「頼んだぜ。」

副長はポットを持ってCICを出ていった。

CTF - 70 ジョージワシントン空母打撃群 CVN - 73 ジョージワシントン

原子力空母ジョージワシントンのCICは異様であった。

アメリカ海軍の歴史上初めての事である。

女性が半数以上を占めているからだ。

「まさか私が、第7艦隊の司令官になるなんてね。」

第7艦隊司令官のキャサリン少将はそう言うと、コーヒーを一口飲

んだ。

「確かにそうですね。」

同じく女性艦長の、アイシス大佐が答えた。

2人が話をしている間も、飛行甲板では空襲に向けた準備が始まっている。

「この大きな要因は、NGFですね。」

「そうね。アレね。」

キャサリン司令官の指差すモニターには、イージス原子力装甲空母大和が映っていた。

「しかし凄いですね。」

「何が？」

「またまた、司令官も分かるでしょう。ヤマトですよ。」

「そうね。日本の技術力は大したもんよ。」

「世界初の生まれながらの空母ホウショウを建造した国ですからね。」

「66年振りに保有したのは改造空母だけど、1から建造したのが原子力空母とはね。」

「日本は意外と、凄い国ですね。司令官はどう思います？」

「確かに凄い国だと思うわ。かつて亡国の危機を救うために、合衆国に戦争を仕掛けてきた国だもん。日本と言う国は、やる時はやるわ。中国と高麗共和国は日本を苛め過ぎたのよ。その代償が今回の戦争なの。日本と日本国民は復讐に燃えているの。世界で3度目の核攻撃を受けたからね。まあ、合衆国も被爆国の仲間入りはしたけどね。」

「そうですね。こんな凄い国とはこれからも、仲良くしたいですね。」

「そうよ。ペンタゴンの連中は、日本を敵国扱いしてるけど。止めたほうが良いと思うけどね。」

「ですが、上から命令されれば戦わないといけませんね。」

「そうならないように、祈るわ。」

キャサリン司令官はそう答えると、黙り込んだ。

アイシス艦長も口を閉じる。

2人の見つめるモニターには、NGFの大和空母打撃群が映っていた。

大和空母打撃群イージス原子力装甲空母大和

大和のＣＩＣでは、河口未来少将の声が響いていた。

「母さん、戦争なんだから仕方ないでしょ……えっ？結婚？まだ言ってるの！？私は日本と結婚したの……馬鹿な事じゃないわよ。私は軍人として、生きるの。旦那なんかいらないの。もう切るよ……えっ？うん、ありがとう。頑張るわ。私には日本と国民、母さんを守る使命があるからね。うん、分かった。バイバイ。」

河口司令長官はそう言うと、携帯電話の電源を切った。

「お見合いでも進められましたか？」

森理恵子大佐がコーヒーカップを手渡しながら聞いてきた。

「ありがとう。」

河口司令長官はそう言うと、コーヒーカップを受け取り一口飲んだ。

「そうよ。『あんたも４０近いんだから、そろそろ結婚しなさい。』ってね。失礼な話よ。」

「長官はいま何歳でしたっけ？」

「……………」

「ああ、そうでしたね。私より1歳上でした。」

「けど私も若いわよ。」

「確か、麻生総理の決断でしたね。」

「そうよ。これからは、若い人でも司令長官になれるの。これがどんどん進めば良いんだけどね。」

「麻生総理は、日本を変えようと言っていましたよね。」

「知り合いの国会議員に聞いたけど、『武器輸出法』を成立させるって言ってたわね。」

「武器輸出法ですか？」

「基本的には亜細亜諸国向けで、最新兵器以外は輸出するみたい。」

「最新兵器以外を輸出するんですか？」

「そう。空軍ならF-2とかOH-1。陸軍なら74式戦車とか9式自走榴弾砲。海軍はフリゲートとか隼、もしかしたら日向級もね。」

「結構な量ですね。」

「この他にも、色々輸出するみたい。」

「日本で生産して輸出するんですか？」

「そうですね。それから少しずつライセンス生産を認めると思
うわ。」

「日向級とかF-2とか74式戦車が亜細亜諸国で活躍するんです
ね。」

「そう言う事。」

河口長官はそう言うと、コーヒーを一口飲んだ。

「長官、艦長。作戦時間となりました。」

CICオペレーターが2人に向かって言った。

「分かったわ。早苗大佐、空襲部隊に出撃命令。オペレーター、ジ
ョージワシントンに出撃命令よ。」

「了解。」

航空団司令の石川早苗大佐とオペレーターが返事をした。

なお、米第7艦隊と露極東艦隊は連合艦隊の指揮下に入っている。

C V N - 7 3 ジョージワシントンC I C

「司令官、N G Fのヤマトより出撃命令です。」

オペレーターが、キャサリン少将に言った。

「分かったわ。攻撃部隊出撃よ。」

キャサリン少将の命令が、航空団司令に伝わり、カタパルトから次々と出撃していく。

「しかしね、ワシントンもバカね。」

キャサリン司令官の言葉に、アイシス艦長は首を傾げた。

「投入する空母の数よ。日本はN G Fの保有する5隻全てを投入しているでしょ。それに比べて、合衆国は私達のジョージワシントン1隻よ？今、駆け付けているインドとタイなんか、虎の子の空母を旗艦にして、海軍のほぼ全てを派遣しているわ。ワシントンとペンタゴンは、『中国攻撃には空母をもう2〜3隻投入する』って言うけど、あてになるかしら。」

「そう言われると、バカと言うより何かありそうですね。我が国は核攻撃を受けました。しかし、それに対する復讐の仕方がおかしい

です。7年前のイラク戦争では、空母打撃群は5個投入しています。それなのに高麗共和国侵攻に際しては、私達のCTF-70だけです。確かに9・11テロも酷いですが、核攻撃ですよ？核攻撃。まあ、高麗共和国は核攻撃に関係ないですが。」

「復讐の度合いが低いよ。B-2・B-1・B-52も投入しない見たいじゃない。」

「確かに司令官の言われる通り、復讐の度合いが低いですね。B-52はまあいいとして、B-2とB-1位は空軍も投入して欲しかったですね。」

「そうよね。投入してくれば、私達の仕事が減るんだけどね。」

「はい。」

2人が話しをしていると、オペレーターが驚きの声をあげた。

「司令官、艦長！！これを見て下さい。」

オペレーターがモニターに指を差しながら、叫ぶ。

「何ですか。」

アイシス艦長がモニターを見る。

キャサリン司令官もモニターを見た。

「なんだ。B-2じゃない。」

「そうですね。空軍も気が変わったんですかね？」

2人は嬉しそうに言った。

「違います。レーダーに反応していません!!」

違うオペレーターが、レーダーを見ながら叫んだ。

「ウソ!？」

アイシス艦長もレーダーを見る。

「司令官、本当に反応していません!!」

「B - 2は完璧なステルス爆撃機だった？」

「いいえ、さすがにB - 2でも完璧ではありません。鳥ぐらいの反応はします。空軍も『レーダーには殆んど反応しない』と言っていますから、完璧では無いです。」

「じゃあ、これは何なの？」

キャサリン司令官が大声で嘆いた。

しかし、CICの中にその質問に答えれる人間はいなかった。

「司令官、実物を見てみましょう。」

アイシス艦長がキャサリン司令官に言った。

「そうね。実物を見ましよう。」

「はい。」

2人はCICを出ていった。

ジョージワシントン飛行甲板

デッキクルー達も、突如表れた怪鳥を見上げていた。

「司令官、艦長。」

キャサリン司令官とアイシス艦長が飛行甲板に出ると、第102戦闘攻撃飛行隊ダイヤモンドボックスの隊長ナタリー大尉が声をかけた。

ナタリー大尉率いる、ダイヤモンドボックスは出撃準備にはいつていたが、隊員たちは突如表れた怪鳥を見上げていた。

「あれは何ですか？見たところ、B-2より小型ですが。」

「小型？」

ナタリー大尉の言葉に、2人はその怪鳥を見上げた。

確かに、ナタリー大尉の言う通り小型だ。

全幅も20メートルぐらいだ。

B-2は、全幅50メートルを超えている。

「大尉、驚かないでね。あれはレーダーに反応してないの。」

「レーダーにですか!？」

ナタリー大尉は驚きの声をあげた。

「声が大きい。」

アイシス艦長が注意する。

「すみません。」

「しかも、コックピットが無いわね。」

「はい。」

3人は再び、怪鳥を見上げる。

「無人機ですか？」

「そうでしょうね。AIが遠隔操作ね。」

キャサリン司令官がアイシス艦長の質問に答えた。

そこへアイランドから、オペレーターが走ってきた。

「司令、ミスカワグチからお電話です。」

「ありがとう。」

キャサリン司令官はそう言うと、携帯電話を受け取った。

この携帯電話は、キャサリン司令官と河口未来司令官との連絡用である。

しかしこの携帯電話はお互いに作戦ではなく、ただの世間話でしか使っていなかった。

「もしもし、ミクちゃん？」

『あつ、マリーさん。』

携帯電話から河口未来司令官の声が聞こえる。

「早速聞くけど、今飛んでいる無人ステルス機はミクちゃんのもの？」

『はいそうです。あれは無人ステルス艦上爆撃機B-7サキユバスです。』

「サキユバス。夢魔ね。」

キャサリン司令官は答えた。

キャサリン司令官はそこで、ある考えが頭の中で浮かんだ。

「ミクちゃん、もしかしたらまだ隠してる事が、あるんじゃない？」

「いえ、それは……」

「どう？」

「分かりました。私が教えなくても、近いうちに分かる事ですから。」

「ありがとう。」

「それでは説明します。」

河口未来司令官の説明は、キャサリン司令官を驚愕させるのに、十分であった。

攻撃隊はの間も、発艦し続けた。

攻撃隊出撃（後書き）

次話が、空襲作戦です。

釜山へ向けて

午後7時50分

イージス原子力装甲空母大和CIC

攻撃隊を出撃させ、CIC要員は一息ついていた。

「長官、キャサリン司令官と何を話したんですか？」

森理恵子艦長が河口未来司令長官にコーヒを渡しながら聞いた。

「大和の秘密よ。」

河口司令長官はウィンクしながら答えた。

「全部ですか？」

「ええ。全部話したわ。」

「大丈夫ですか？」

「何が？」

「秘密を漏洩した事ですよ。」

「麻生総理も何時かは話すって言ってたから。」

「まあ、長官とキャサリン司令官の仲ですからね。」

「大丈夫、大丈夫。」

河口司令長官はそう言つと、コーヒーを飲んだ。

C V N - 7 3 ジョージワシントンCIC

「まさかね。ヤマトがあんなに凄いとは。」

キャサリン司令官は椅子に座りながら、同じ事を繰り返していた。

「日本の技術力は凄いけど、そんな事が可能とは。」

「……………司令官。」

アイシス大佐が声をかける。

「日本は凄いわ。」

「司令官!!」

「わっ!?!なに?」

アイシス大佐の言葉に、キャサリン司令官は我に返った。

「何を話されたんですか?」

「ミクちゃんとはね、ビックリする話をしたわ。」

「ビックリする話、ですか?」

アイシス大佐は首を傾げた。

「ヤマトCSGの秘密よ。」

「どんな秘密があるんですか?」

アイシス大佐は身を乗り出しながら聞いた。

「まずはヤマトの秘密。あの空母はフルにコンピューター化されてるみたいよ。」

「フルコンピューター化ですか!?!」

「そう。乗員も3000名以下になってるみたい。」
「コンピューター化ですか……」

「と言つ事は？」

「何がですか？」

「私達の所に昔、研修に来たじゃない。」

「ああ、そうでしたね。4100名が来ました。」

「あの人数は嘘だったのよ。」

「となると？」

「あの時から日本はヤマト級を2隻建造する考えだったのよ。」

「確かにそうなりますね。」

「ヤマトではまだ完成してなかったみたいだけど、先進型着艦拘束装置を装備するみたい。」

「ヤマトはどうするんですか？」

「ヤマトはね、2番艦ムサシが完成すれば艦名交換をして、改装工事を行うみたい。だからヤマトは、まだ‘未完成’なの。」

「確かにそうなりますね。」

「そう言つ事。」

「……………」

「そしてね。ヤマトにはまだあるの。」

キヤサリン司令官の話に、アイシス大佐は更に驚く事になる。

それはまた兵器説明で。

高度8000メートル

『大尉、今回の目標は釜山全域です。今のところ、敵の戦闘機はアメリカさんに制圧されてます。飛行場も同じです。』

「そう。それなら楽ね。」

第1戦闘攻撃飛行隊隊長雪江美鈴大尉はそう答えると、部下達に命令を下した。

「みんな、今回は結衣ちゃん達の護衛よ。敵は一応アメリカさんが制圧してるけどね。」

「了解。」「」「」「」「」「」

部下達の返事を受け、雪江大尉はスイッチを切り替えた。

「静江ちゃん、聞こえる？」

「はい。聞こえます。」

「頑張つてよ。私達は初体験は終わったけど、貴女達はまだまだからね。」

「分かりました。」

インカムから声が聞こえると、雪江大尉の下から飛行機が急上昇してきた。

その飛行機こそ、大和の搭載する秘宝。

B - 7 サキユバス 無人艦上爆撃機である。

キヤサリン司令官達が見間違える程、B - 2 スピリットに似ている。

確かに見た目は小型のB - 2のものである。

しかしB - 7 サキユバスはB - 2とは全く違う。

艦上爆撃機であり無人機であり、完全ステルス機である。

そんな無人艦上爆撃機も従えて、大和艦載機群が釜山へ向かう。

首相官邸総理執務室

麻生総理は窓際に立ち、外を眺めていた。

（……日本）

麻生総理は物思いにふけた。

（日本人は何かを忘れた。確かに戦後日本は発展した。しかしその発展は西側のショーウィンドウ、としてだ。そしてその発展で日本人は何かを忘れた。忘れてはならない大事な物をだ。ふるさとを忘れ、助け合う心を忘れ、他人を敬う心を忘れ、国家の品格を忘れ、愛国心を忘れ、数多くの物を忘れた。日本と日本人は骨抜きにされ

たんだ。…………アメリカに。)

コンッコンッ

ドアがノックされた。

「総理、失礼します。」

浜田防衛大臣が入ってきた。

「どうした？」

麻生総理が椅子に座りながら聞いた。

「大和空母打撃群司令長官河口未来少将から連絡です。釜山空襲作戦を開始する、との事です。」

「……………そうか。Z機はどうだ？」

「Z機も釜山上空に入ります。作戦は万全です。」

「分かった。ありがとう。」

「はい、失礼します。」

浜田防衛大臣はドアの方へ歩いていった。

「浜田君。」

「はい。」

浜田防衛大臣は、ドアノブに手を掛けた所で振り返った。

「日本人の忘れ物は何だと思う？」

「日本人の忘れ物ですか。」

「そうだ。」

「……忘れ物は多すぎるんじゃないですか？」

「確かにそうだな。私はその日本人の忘れ物を、取り戻そうと思う。」

「

「取り戻せますかね。」

「取り戻すさ。私で取り戻せなければ、次の総理に託す。」

「私も出来る限りのお力をお貸しします。」

「ありがとう。」

「では、失礼します。」

浜田防衛大臣は部屋を出ていった。

「日本人、そんなに急いで、何処へ行く。」

麻生総理は一言呟いた。

釜山へ向けて（後書き）

日本人、そんなに急いで、何処へ行く。

空襲作戦（前書き）

更新が完全に、不定期更新となりました。

続く大日本帝國興亡戦と、帝國超大戦は今年中に更新出来るかわかりません。

出来る限りの努力は致します。

空襲作戦

午後8時

釜山空襲作戦が始まった。

高度8000メートル

第1航空団第1戦闘攻撃飛行隊隊長雪江美鈴大尉は、愛機のF-3烈風を飛ばしていた。

その眼下で釜山は火の海に包まれていた。

「凄まじいわね。」

雪江大尉は呟いた。

『大尉、聞こえますか?』

突如、E-2Cホークアイの管制官の声が聞こえた。

「聞こえるわ。」

『今回は残念ながら、大尉達の出番は無いみたいです。アメリカさんが敵の戦闘機を抑えていますから。』

「なるほどね。じゃあテクターに、地上を攻撃しとくわ。」

『お願いします。今回は震電とサキユバス、Z機が主役ですね。』

「まあ仕方ないわよ。」

雪江大尉はそう言うと、再び眼下を見下ろした。

そこには震電とサキユバスが飛び回っていた。

そのすぐ横を、Z機が通り過ぎた。

「たいしたもんね。」

雪江大尉はそう言うと、愛機の高度を下げた。

空軍甲爆撃隊1番機

「良い感じよ。Uターンしてもう1度爆撃よ。」

甲爆撃隊隊長の井上友里大佐が命じた。

「了解。進路変更。」

機長の工藤絵里大尉が操縦士に命じた。

この命令はオペレーターにより、甲爆撃隊全機に伝えられた。

甲爆撃隊はZ機の爆撃機30機・掃射機20機で編制される。

これに乙爆撃機も編制されている。

両機種共に、B-777-300ERを改造したものである。

爆撃機は1トン爆弾を50発搭載可能で、ピンポイント爆撃が可能だ。

勿論日本軍（旧自衛隊）は、爆撃機用の爆弾は保有していない。

Z機保有に先立ち、三菱重工等々に開発させたものである。

掃射機は20ミリガトリングガン100基を機体下部に並べ、えげつない弾幕を巡らす。

これには当然ながら、全自動ターゲット追尾装置を装備してある。

「進路変更完了。爆撃進路に入ります。」

操縦士が言った。

「全機、爆撃用意。」

井上大佐の命令がオペレーターにより、全機に伝えられる。

「……………投下!!」

残りの25発が投下された。

イージス原子力装甲空母大和CATCC

CATCC（空母航空管制センター）は通常、発着艦を管制する所だ。

しかし、日本海軍空母のCATCCは違う点がある。

それは空母航空団に、無人機が配備されておりそれを、遠隔操作する隊員がいるからだ。

その無人機の名前は、無人艦上爆撃機B-7サキユバス。

CATCCの第1爆撃隊隊員が遠隔操作する。

運用方法は、通信衛星を介した遠隔操作で行う。

B-7サキユバスはまた、ステルス能力も高い。

高性能の爆撃機を遠隔操作する、彼女達の気分は………

「ちょっと、典子ちゃん！！私が攻撃しようとしたのに。」

「すみません。」

「横取りしないでね。」

第1航空団第1爆撃隊隊長安達静江大尉はそう言つと、機体の速度を上げた。

と言つても、画面を流れる映像が早くなっただけである。

だからどんなに、アクロバット飛行をしようとも安達大尉には何も

支障は無い。

となると、宙返りをしても水平のままであるため、コーヒーを飲みながらも操縦出来るわけだ。

B-7サキユバスの遠隔操作にあたり、防衛省は民間ゲーム業界に『本物に近いコックピットを模した操縦機械』の開発を命じた。

それを実現させたのは、ナムコである。

ナムコは自社のゲーム、エースコンバットの実績があり、防衛省の要求する操縦機械への改良は簡単だった。

これにより、B-7サキユバスの操縦機械が完成したのだ。

何も知らない人が、CATCCの操縦機械を見れば、それこそ『ゲームセンターか?』と言いそうな雰囲気である。

「ターゲットロック。J-1発射!!」

安達大尉はそう言うと、ボタンを押した。

画面には一直線に進む、J-1が映る。

安達大尉はレバーを引き上げた。

（変な気分ね。この映像はゲームじゃなくて、本当の戦争なのにな。）

安達大尉はそう思いつつも、機体を反転させた。

「2人共、いくわよ。」

「了解。」

「分かりました。」

青木典子中尉と朝丘成美少尉の声がインカムから（実際はすぐ隣の操縦機械から）聞こえる。

釜山空襲作戦は佳境を迎えていた。

釜山空襲は、日米空母艦載機による一方的な爆撃となった。

そして空襲作戦の成否は、日米空母打撃群の連携にかかっていた。

しかしその心配は皆無であった。

もともと日本海軍（当然ながら旧海上自衛隊）とアメリカ海軍は、共同で作戦にあたるものであった。

と言うより、旧海上自衛隊はアメリカ海軍が不得意とする、機雷戦に特化した組織であった。

旧海上自衛隊には遠征打撃能力・大規模海戦能力は無かったのだ。

これは旧海上自衛隊に限ったものではない。

旧陸上自衛隊は、防衛戦に特化し侵攻作戦能力は無い。

旧航空自衛隊は、防空作戦に特化し侵攻爆撃能力は無い。

旧自衛隊は全てにおいて、中途半端な能力しか無かったのだ。

こんな中途半端な組織を保有せずに、今すぐにも憲法第9条を改正して自主独立を推し進めるべきである。

自国の防衛をいくら同盟国とは言え、他国に任せるのは情けない。

……………話がズレた。

釜山空襲作戦な話に戻そう。

この空襲作戦により釜山のインフラは、壊滅的打撃を受けた。

Z機と空母艦載機の爆撃は、それこそ釜山全体を舐めるように行われた。

そんな壊滅的打撃を受けた釜山に対して、上陸作戦が始まろうとしていた。

釜山上陸

午後9時

釜山上陸作戦が始まった。

イージス原子力装甲空母大和CIC

CICは上陸作戦開始と同時に、えげつない騒ぎとなっていた。

大和は連合艦隊の旗艦でもあり、第7艦隊・極東艦隊も指揮下に入れているのである。

そんな中で、司令長官の河口未来少将は淡々と命令を下していた。

「航空団司令、全機発艦。オペレーター、ジョージワシントンに攻撃命令。連合艦隊全艦にも対地支援攻撃命令。」

「了解。」

航空団司令の石川早苗大佐は、艦内電話でレディルームに命令を伝える。

オペレーター2人も、命令を伝えている。

「遂に上陸作戦ですね。」

艦長の森理恵子大佐がコーヒーを河口司令長官に、渡しながら言った。

「そうね。」

河口司令長官はコーヒーを飲みながら答えた。

「皇記2670年。日本は立ち上がり、悪の枢軸の1国に対して上陸作戦を開始した。」

「何だか、予言者みたいですね。」

「まあ予言じゃなくて、今現在起きてる事だけだね。」

「そうですね。」

2人は笑った。

2人が笑っている間も、上陸作戦は行われていた。

まず釜山上陸作戦を開始するにあたり、攻撃を行ったのは水上戦闘艦部隊である。

連合艦隊全艦と第7艦隊・極東艦隊による、巡航ミサイル攻撃は凄まじく空襲によって壊滅した、釜山を更に決る攻撃であった。

その釜山に日米の合同部隊が、上陸を開始した。

上陸を行ったのは、日本陸軍の第50師団・アメリカ陸軍の第2歩兵師団・第6騎兵旅団である。

日本海軍はアメリカ海軍から、強襲揚陸艦エセックスをレンタルしており、海外展開能力は僅かながら向上したが師団を輸送するには足りなかった。

そこで連合艦隊は竹島奪還作戦を行った時と同じく、民間フェリー会社からフェリーをレンタルして、輸送を行った。

上陸を迎え撃つ高麗民主主義大韓連邦共和国（以降は高麗共和国と略す。）も、ただ眺めていただけではない。

だがその意気込み虚しく、重火器は全て破壊されている為、爆薬を抱えて突撃してきたのだ。

日米合同部隊にとっては、驚きであった。

日本陸軍第50師団の兵士達は、高麗共和国軍兵士に『祖国を命懸けで守ろうとする英雄』として尊敬したが、アメリカ陸軍第2歩兵師団・第6騎兵旅団の兵士達は、『Korean KAMIKAZE』と称して恐れた。

しかし高麗共和国軍の反撃は、微々たる威力しか成さなかった。

日米のハイテク兵器に、抵抗は弾圧されていった。

上陸から2時間で、釜山を中心に50キロは日米合同部隊の支配する所となった。

ある程度の安定が確保出来た時点で、NHKや民放各局・新聞記者が上陸した。

大和の飛行甲板では既に、NHKや民放各局が実況放送を行っており、視聴率は60%を超えていた。

何せ全てのチャンネルが戦時特番を放映していた為、嫌でも目に入る。

特に本物の戦争がテレビで、生放送で流れているので視聴率は、右肩上がりに増えている。

2010年9月16日午前0時

ロシア・インド・ミャンマー・タイ・ベトナム・ラオス・カンボジア・ブータン・バングラデシュ・ネパール・パキスタン・モンゴル・カザフスタン・キルギス・タジキスタンが中国に、一斉侵攻を開始した。

特にロシア・インド・パキスタン・モンゴル・カザフスタン・キルギス・タジキスタンは、上海協力機構からの脱退を正式に中国に通知した。

これを受けて上海協力機構に加盟していた、全ての国も脱退を中国に通知し、上海協力機構は瓦解した。

中国は高麗共和国支援を開始しようとしており、陸軍を高麗共和国へ派遣中であつた為、迎撃が遅れた。

中国と高麗共和国は、亜細亜のほぼ全ての国を敵に回したのである。

午前0時30分

日本首相官邸オペルーム

オペルームでは国家安全保障会議が開かれた。

「対中対高麗大同盟締結国の、ロシア・インド・ミャンマー・タイだけでなく、ベトナム・ラオス・カンボジア・ブータン・バングラデシュ・ネパール・パキスタン・モンゴル・カザフスタン・キルギス・タジキスタンも中国に侵攻しました。此等の国は同盟締結を呼び掛けています。またトルコを筆頭に、マレーシア・ブルネイ・インドネシア・イラク・イラン等の同盟を締結していない亜細亞諸国全てが、同盟締結若しくは中国と距離を置く事を宣言しました。」

中曽根外務大臣の説明に、麻生総理以下閣僚達の眠気は吹っ飛んだ。

「これは、千載一遇のチャンスです。亜細亞統一が叶うかもしれません。」

塩谷文部科学大臣は興奮した口調で、麻生総理に言った。

「亜細亞条約機構が実現するかもしれないな。」

「総理の夢が確かに実現するかも、しれませんが。」

与謝野財務大臣も嬉しそうに言った。

「世界はこの戦争から、変化する。」

麻生総理の言葉は、あたかも予言者のような言葉であった。

しかし、それが現実のものとなるとは、この時誰も予想しなかった。

釜山上陸（後書き）

この小説も今回が、今年最後の更新です。

本年もありがとうございました。

来年もよろしくお願いいたします。

早くて5話、長くて10話以内にこの小説は完結します。

中南海の憂鬱（前書き）

防衛省に以下の事を提案書にして送付しました。

1・日本航空再建のついでとして、余剰ジャンボジェットを航空自衛隊が買い取る。それを改造し、爆撃機とする。

2・武器輸出三原則の抜本的見直しを政府に説得する。

3・高性能原子力潜水艦の建造。計画名『沈黙の艦隊計画』。

4・以上の項目は、憲法第9条を改正しなくても実行可能。爆撃機は海上を侵攻してくる敵、本国へ上陸してきた敵に対する効果的な攻撃（撃退）法である。武器輸出三原則の抜本的見直しは、閣下が提唱なされたように日本への利益が多いです。高性能原子力潜水艦は、攻撃用兵器ではないので気持ちさえ強く持てば保有可能です。原子力機関の搭載云々については、原子力発電所がありますので通せると思います。

勿論、いま提案させていただいた事は全て、鳩山総理の許可が無いと実行不可能ですが。

本心を言いますと、憲法第9条は破棄。原子力空母を建造し、爆撃機も保有する。これが私の望む、未来の皇国の姿です。

まあこれが本当に北澤防衛大臣の所に渡されるかは、分かりませんが。

中南海の憂鬱

午前2時

中国首都北京の中南海にある、総書記・国家主席・中央軍事委員会主席を兼任するコキントウの屋敷に、オンカホウ首相と軍関係者が呼ばれた。彼等は一様に緊張した面持ちで立っていた。

当然であろう。今や亜細亜諸国の殆んどから攻撃を受け、30分前にはチベットとウイグルで暴動が発生したとの連絡が入った。開戦してから一方的に、叩かれている。高麗共和国も同じで、遂に上陸された。両国があげたスコアは、奇襲核攻撃だけである。

「弛んでおる!!」

コキントウの怒鳴り声が、執務室に響いた。

「開戦から一方的ではないか。しかも亜細亜諸国まで、我が国に侵攻してきた。軍は何をしている!!」

「僭越ながら、陸軍は奮戦しています。」

物静かな口調で発言したのは、陸軍司令員であった。

「陸軍は高麗共和国を支援すべく、瀋陽管区から4個師団を派遣しております。亜細亜諸国の侵攻に対しても、陸軍の総力をあげて撃退する次第です。チベットとウイグルの暴動についても、同様に対処します。海軍と空軍・砲兵は分かりませんが。」

陸軍司令員の言葉に、空軍司令員が慌てて発言した。

「空軍も高麗共和国支援と、亜細亜諸国撃退及びチベット・ウイグルの暴動鎮圧に、空軍の総力をあげております。はい……」

陸軍空軍の司令員が発言したのに対して、海軍と砲兵の司令員は黙り込んでいる。

「海軍はどうだね。」

コキントウが呟いた。

「はっ！海軍は、出撃準備を急いでいます。鎮遠も急ピッチで『修理』を行っています。」

「鎮遠を待つのか？」

「我が海軍の現役艦艇数は1000隻以上ありますが、その大半は沿岸警備用小型艦艇・旧型フリゲート・潜水艦です。NGFと真つ向に戦えるのは、鎮遠を入れて30隻もありません。現代の海戦では、時代遅れの艦艇はただの標的です。NGFと戦い少しでも戦果を出したいのなら、鎮遠の修理完了を待つべきです。それでも標的として、沈めても良いのであれば出撃を命じますが……」

総参謀長の言葉に海軍司令員が答えた。

「そもそも、日本と開戦したのが間違いなんですよ。」

オンカホウの言葉に、軍司令員達が凍り付いた。コキントウの前ではつきりと言い切ったのだ。オンカホウはまだ続ける。

「それに日本だけでなく、アメリカとロシアまで敵にしました。ついには上海協力機構は瓦解し、亜細亜諸国ほぼ全てが我が国に侵攻しました。祖国崩壊の瀬戸際に、我々は立たされているのです。」

「何だと！！貴様は私を愚弄するのか！！」

コキントウとオンカホウはお互いに睨み合った。軍司令員達はその光景を、見ている事しか出来なかった。そこへ、秘書官が顔を真っ青にしながら飛び込んできた。

「何だ！！」

秘書官はいきなり、コキントウに怒鳴られた。しかしその情報を、伝えるために口を開いた。

「鎮遠が、」

「何だつて？」

海軍司令員が聞いた。

「鎮遠がN G F潜水艦の攻撃を受け、沈没しました。」

執務室が凍り付いた瞬間であつた。

核戦争（前書き）

皇国の首都が……

核戦争

午前5時

補給を終えた日本陸軍は、アメリカ陸軍から1時間遅れて、釜山から進撃を始めた。

日本陸軍第50師団

陸軍最強の打撃力を有する第50師団は、全国の陸軍から引き抜いたエキスパート達で構成されている。配備されている装備も最新のものが配備されている。2個歩兵連隊（7680名）・1個野砲大隊（99式自走155ミリ榴弾砲35輜、多連装ロケットシステムMLRS25輜）・1個高射野砲大隊（9式中距離地对空誘導弾15輜、87式自走高射機関砲5輜）・1個戦車大隊（90式戦車50輜、10式戦車30輜）・1個ヘリコプター大隊（AH-1Sヒュイコブラ40機、AH-64アパッチ改45機）から第50師団は編成される。もしこの第50師団が全滅すれば、陸軍は大打撃を受ける事になる。それだけに空軍と海軍の支援は、手厚かった。

82式指揮通信車車内

82式指揮通信車の師団司令部では、今後の侵攻作戦についての打

ち合わせが行われていた。

「アメリカ陸軍の第2歩兵師団と第6騎兵旅団は、現在釜山北部120キロ地点で、高麗共和国の戦車部隊と交戦中だ。空軍のF-2やF-3、Z機及び海軍の空母打撃郡がその支援を行っている。我々も急ぎ合流して、支援を開始する。」

第50師団師団長大和田信也中將の声が響く。この大和田師団長は第7師団師団長であったが、第50師団編成にあたり配置換えされた。第50師団は先程から述べている通り陸軍最強師団である為、栄転した事になる。

「そして重要占領目標がソウルである。」

「ここは高麗共和国最大の都市である。首都平壤を占領するより、高麗共和国に打撃を与えるであろう。」

副師団長が大和田中將の言葉に付け加えた。

「となると、アメリカ陸軍を支援してソウルに進まないといけませんね。」

「少々ややこしいですが。」

「いや、それだからやらねばならない。何故なら……………」

大和田中將が言えたのは、そこまでであった。82式指揮通信車のみならず、第50師団とアメリカ陸軍を消滅させる核爆発が発生した。

日本首都東京

東京は壊滅した。中国海軍の弾道ミサイル搭載原潜晋が、巨浪2弾道ミサイルを打ち込んだ。開戦劈頭にH-2A弾道ミサイルを北京に打ち込まれ、空母鎮遠を撃沈され、中国対全亜細亜の構図を構築させられ、日本に押されっぱなしだった中国が再び核攻撃を行った。

首相官邸オペルム

核攻撃にも耐えられる構造になっていた為、オペルムは無事であった。光ファイバーケーブルも無事であり、日本3軍全てへの命令も下せる。衛星情報も全国各地の空軍のレーダーがある為、途切れる心配はない。何だかんだ言いつつも、核攻撃に対する備えは万全だったわけである。

「推定死者300万人以上、負傷者計測不能です。陛下の生死は不明です。目下陸軍とレスキュー隊が搜索中です。省庁は壊滅し、東京はもとより日本はその機能を停止しました。」

浜田防衛大臣の言葉に、オペルームは凍り付いた。

「日本はもう、終わりだ。」

「総理、報復核攻撃を考えなければなりませんぞ。」

中曽根外務大臣が頭を抱え嘆いていたが、与謝野財務大臣は冷静に進言した。

「もちろん、それは考えています。ですが……」

「総理！！緊急です！！」

河村官房長官がオペルームに飛び込んできた。

「どうした？」

「アメリカ合衆国首都ワシントンDCとニューヨークが核攻撃を受けました。」

河村官房長官の言葉に、オペルームは騒然とする。

「それだけでは無く、ロシア連邦首都モスクワ・カザニ、イギリス首都ロンドン・サウサンプトン、フランス首都パリ・オルレアン、

ドイツ首都ベルリン・ポツダム、他に中国に侵攻した亜細亜諸国全てに核攻撃を行いました。高麗共和国侵攻中の陸軍第50師団も壊滅しました。」

「中国は遂に発狂し、世界中に核ミサイルを乱射したな。」

麻生総理はゆっくりと呟いた。

「総理！！アメリカ・イギリス・フランス・ロシア・インドが中国と高麗共和国に向けて、核ミサイルを発射しました。アメリカはB-1Bランサー・B-2スピリット・B-52ストラトフォートレスも発進させました。」

統幕長が血相を変えて、オペルームに飛び込んできた。世界は急激に動きつつある。世界初の核戦争に突入した瞬間であった。

「よろしい。種子島にH-2A弾道ミサイルの発射を命令。十勝基地にZ機の発進を命令する！！」

麻生総理は命令を下した。

日本初の核攻撃を決断した瞬間であった。

核戦争（後書き）

1時間以内にエピソードを更新します。

エピソード

『午前5時28分。我が国の第50師団が壊滅した。午前5時35分。東京が壊滅した。それから5分後、世界主要国の都市に核ミサイルが着弾し、世界初の核戦争に突入した。我が国はもとより核攻撃を受けた各国は当然ながら報復核攻撃を行った。中国と高麗共和国の主要都市は粉碎され、2カ国は国家としての形態が崩壊した。これにより両国ではクーデターが勃発。もとより首都は壊滅し、政権が無くなっていた状況であるため、新政権の発足は迅速に行われた。この新政権は世界に向けて降伏を宣言。我が国を含め全世界はそれを受け入れた。報復核攻撃を行ったのは良いが、首都は壊滅しており長期戦は無理であった。いや寧ろ我が国を含めて、世界各国は両国でクーデターが勃発するのを待っていたのだ。2010年9月20日。放射能汚染の影響が無い、ハワイホノルルホテルにて講話会議が開かれた。内容はただ1つ。中国と高麗共和国の処遇についてだ。会議は紛糾したが両国は敗戦国である為、先勝国側の意見を受け入れるしかなかった。内容は国民の皆様も既にご承知のはずだが、ここに記す。高麗共和国は解体し、朝鮮民国を建国する。中国は台湾島を日本領・関東地方をロシア領にして、解体。中華連邦を建国する。以上が決められた。我が国は台湾島を併合し、朝鮮民国と中華連邦と同盟関係を結んだ事により、亜細亜は一応の平和を迎えた事になった。これにより世界各国は国家再建に全力を注ぎはじめた。我が国もまた例外では無い。首都を大阪に移し、皇国の再建に全力を注いでいる。現在国会では『廃県置藩法案』が審議されており、皇国再建の第1歩を踏みしめた。祖国再建は確実に成功し、皇国は更なる発展を迎えるであろう。』

麻生太郎著

『第三次世界大戦―24時間核戦争―』より抜粋

エピソード（後書き）

さて、これにより『空母大和2010〜暴走反日国家を殲滅せよ〜』は終わりです。

これは当初の予定通りですので、予定変更ではありません。

第2部は、90年後の話です。
ご期待ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9129g/>

空母大和2010～暴走反日国家を殲滅せよ～

2011年3月10日18時18分発行